
今治市

男女共同参画に関する市民意識調査

調査報告書

令和2年3月

今治市

目 次

第1章 調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
第2章 回答者属性	2
1 性別	2
2 年齢（平成31年1月1日現在）	2
3 職業	3
4 婚姻	5
5 配偶者・パートナーの就労状況	5
6 世帯	6
第3章 分析結果	7
1 男女の地位に関する意識について	7
2 生活の実態について	24
3 結婚・家庭について	38
4 生活と社会活動について	49
5 仕事と家庭について	61
6 育児休業・介護休業について	66
7 ドメスティック・バイオレンス（DV）について	71
8 セクシュアル・ハラスメントについて	79
9 今治市における男女共同参画社会の実現に向けて	82
10 自由意見	85
資料 調査票	95

第 1 章 調査概要

1 調査の目的

本市が取り組む男女共同参画の次期計画策定のための基礎資料とするとともに、今後の施策の参考にすることを目的として、今治市民の男女共同参画に関する意識調査を実施しました。

2 調査の概要

(1) 調査内容

市民意識調査

対象者	今治市在住の 20 歳以上の男女 合計 2,000 人
対象者の抽出	住民基本台帳から無作為抽出
調査期間	調査期間：平成 31 年 2 月 20 日～平成 31 年 3 月 15 日
調査方法	郵送による配布と回収
回収数	781 件 回収率 39.1%

(2) 報告書の見方について

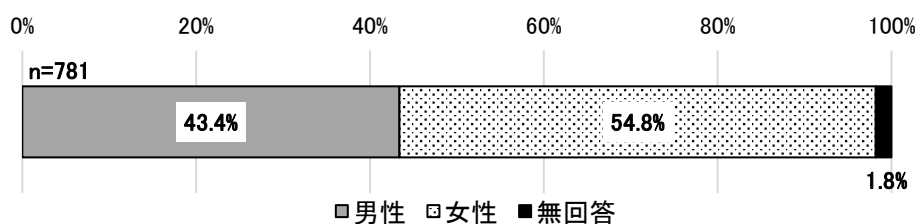
- ・回答結果の割合「%」は、回答者数（n）に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100%にならない場合があります。
- ・複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答者数（n）に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、「%」合計が 100%を超える場合があります。
- ・グラフ及び表中に「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答条件に沿っていないものを含んでいます。
- ・グラフ及び表中の n（number of case）は、集計対象者総数です。
- ・性別等回答者の属性に無回答があります。「全体」または「合計」には無回答者を含むため、性別等回答者の属性による集計の合計とは一致しない場合があります。

第2章 回答者属性

1 性別

回答者の性別は、「男性」43.4%、「女性」54.8%となっており、11.4ポイント女性が高くなっています。平成30年度今治市総人口における男女比は、「男性」47.5%、「女性」52.5%であり、回答者との比較では、「男性」-4.1ポイント、「女性」+2.3ポイントとなり、「女性」の比率が少し高くなっています。

■性別の割合



(参考)

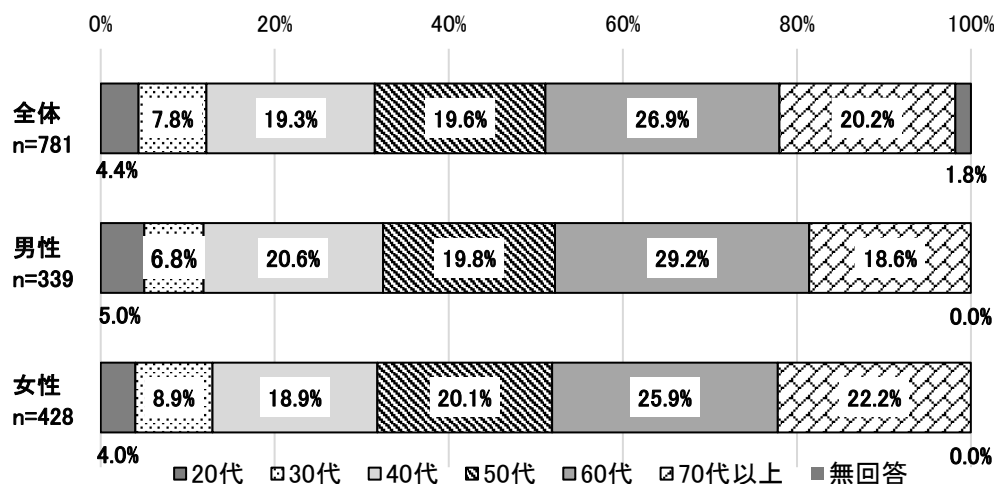
	今治市住民基本台帳 平成30年度		回答	
男性	76,470	47.5%	339	43.4%
女性	84,624	52.5%	428	54.8%
(無回答)	—	—	14	1.8%
総人口	161,094	100.0%	781	100.0%

2 年齢（平成31年1月1日現在）

回答者の年齢は、上位から「60代」26.9%、「70代以上」20.2%、「50代」19.6%、「40代」19.3%となっています。

「60代」以上は47.1%と高く、「30代」以下は12.2%と低い回答になっています。

■男女別年齢の割合

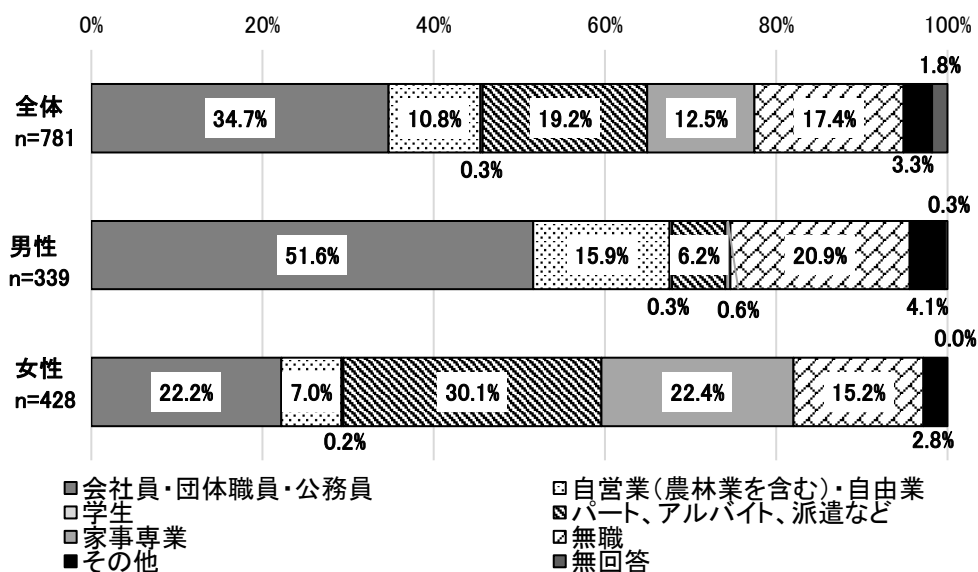


3 職業

回答者の職業は、上位から「会社員・団体職員・公務員」34.7%、「パート、アルバイト、派遣など」19.2%、「無職」17.4%となっています。

全体に比べて、男性は「会社員・団体職員・公務員」51.6%、「自営業（農林業を含む）・自由業」15.9%、「無職」20.9%が高く、女性は「パート、アルバイト、派遣など」30.1%、「家事専業」22.4%が高くなっています。

■男女別職業の割合



○その他の回答（24 件）

■男性（20 代）

・介護士（その他）

■女性（30 代）

・介護士（その他）

■男性（30 代）

・精神障害年金、生活保護（その他）

■男性（40 代）

・介護（その他）

・看護師（その他）

■女性（50 代）

・内職（その他）

■男性（50 代）

・移動販売（その他）

■女性（60 代）

・主婦（その他）

・シルバー人材センター会員として仕事をもらい働いている。（その他）

・個人事業主の所で勤務している。（その他）

■男性（60代）

- ・会社役員（その他）
- ・団体役員（その他）
- ・造船業（その他）
- ・年金生活者（その他）

■女性（70代）

- ・自営業手伝い（その他）
- ・人手不足の時のみアルバイトをする（その他）
- ・介護福祉士（その他）
- ・厚生年金、遺族年金（その他）
- ・主婦業（その他）
- ・家事&農作業の手伝等をしている。（その他）
- ・家事と楽しみでしている農作業。（その他）

■男性（70代）

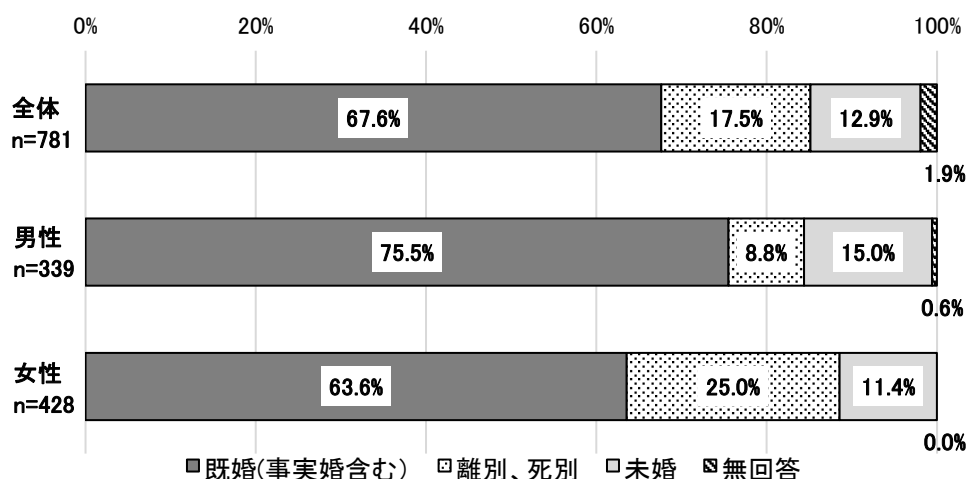
- ・オーナー（その他）
- ・年金生活者（その他）
- ・年金生活だが時々アルバイトをしている。（その他）

4 婚姻

回答者の婚姻は、「既婚(事実婚含む)」67.6%、「離別、死別」17.5%、「未婚」12.9%となっています。

女性の「離別、死別」25.0%は男性の「離別、死別」8.8%より高い比率になっています。

■ 男女別婚姻の割合

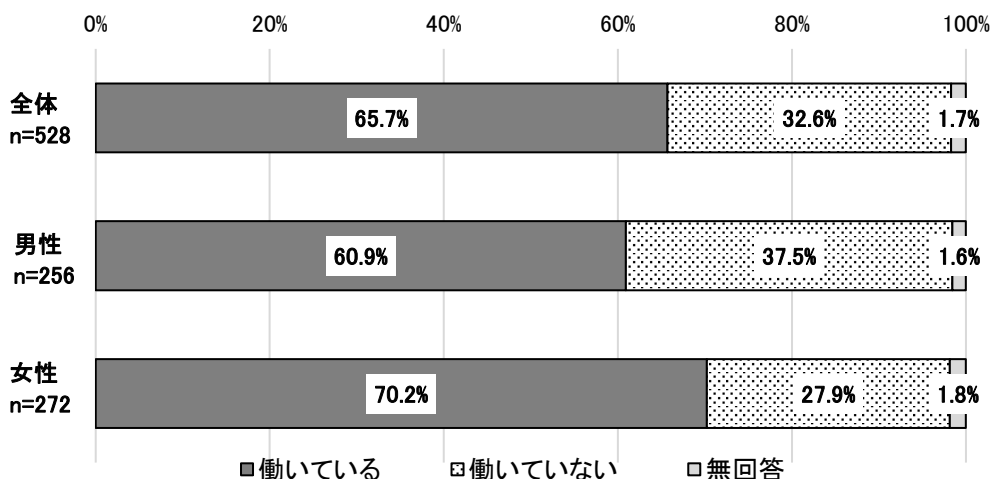


5 配偶者・パートナーの就労状況

婚姻で「既婚(事実婚含む)」と答えた方の配偶者・パートナーの就労状況は、「働いている」65.7%、「働いていない」32.6%となっています。

全体に比べて、女性は「働いている」70.2%と高く、男性は「働いていない」37.5%と高くなっています。

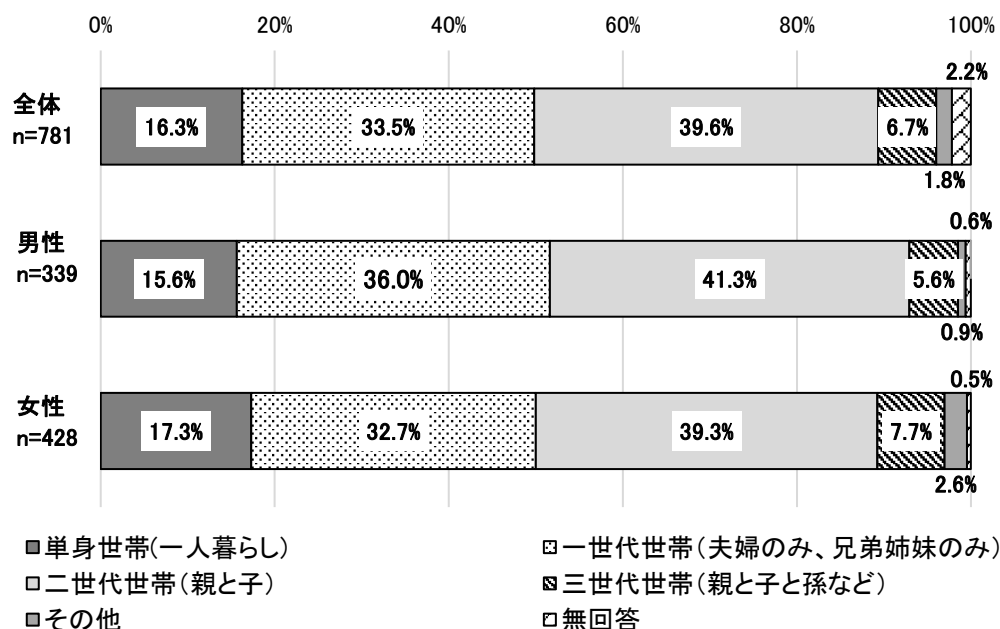
■ 男女別配偶者・パートナーの就労状況



6 世帯

回答者の世帯構成は、上位から「二世帯世帯（親と子）」39.6%、「一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）」33.5%、「単身世帯（一人暮らし）」16.3%となっています。

■男女別世帯構成の割合



○その他の回答（13件）

■女性（20代）

- ・婚約者と同棲中。（会社員・団体職員・公務員）

■男性（20代）

- ・祖母と叔父と本人。（会社員・団体職員・公務員）

■男性（40代）

- ・ネコ一匹と同居。（会社員・団体職員・公務員）
- ・親と子と曾祖母。（会社員・団体職員・公務員）

■女性（50代）

- ・子どもは独立し、親の介護をしながら会社に勤めている。（会社員・団体職員・公務員）

■女性（60代）

- ・子と孫。（会社員・団体職員・公務員）
- ・親子と義母。（パート、アルバイト、派遣など）

■女性（70代）

- ・親と独身の子。（家事専業）
- ・親、子、孫はおらず、ひ孫。（家事専業）
- ・子どもたちは独立し、主人は単身赴任。（家事専業）
- ・子供と暮らしている。（家事専業）
- ・義理の姉と二人の生活。（無職）
- ・弟が私を見てやると言って今治に来ている。（その他）

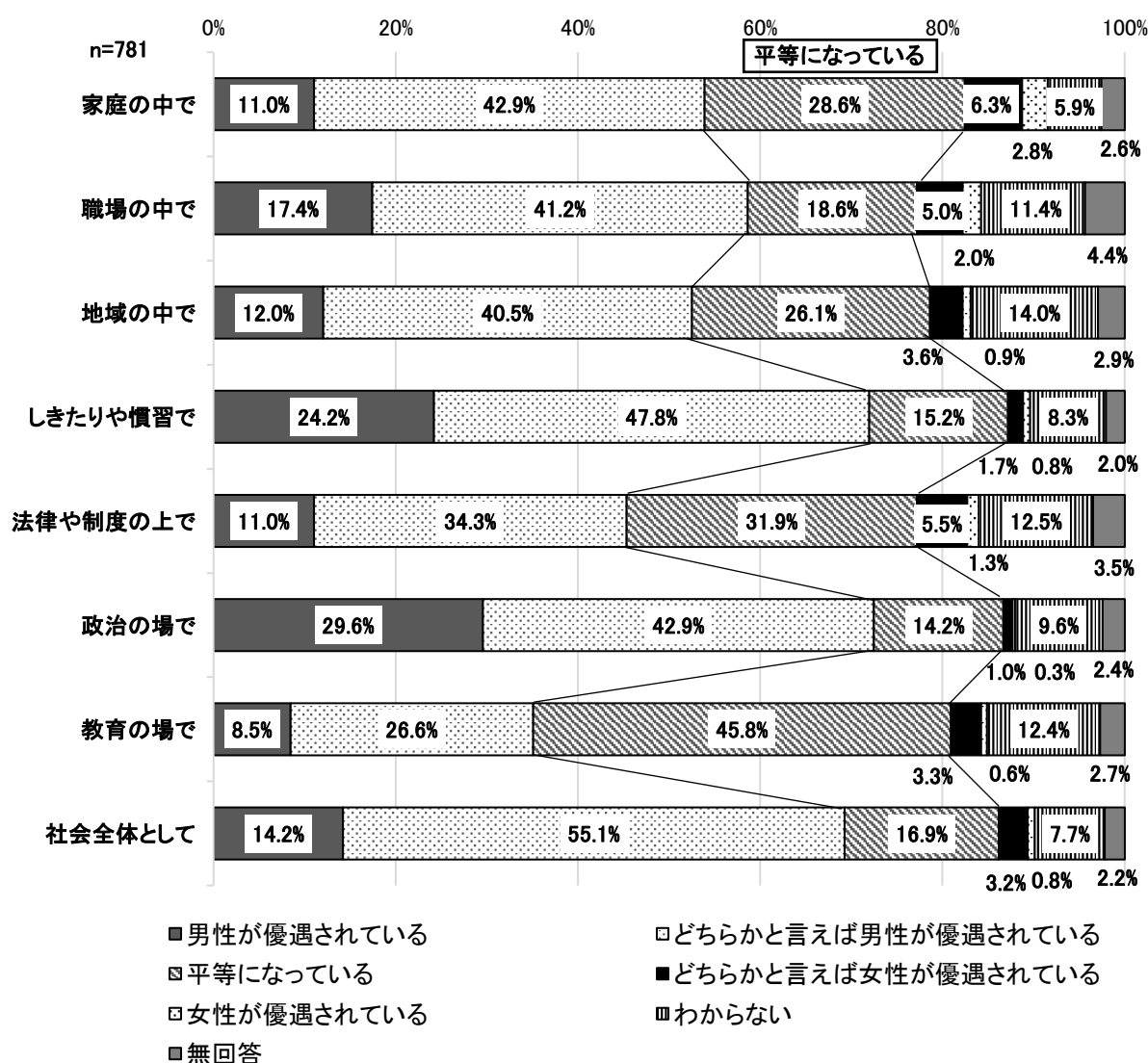
第3章 分析結果

Ⅰ 男女の地位に関する意識について

問Ⅰ あなたは、次のような面で男女の地位は平等になっていると思いますか。【1つに○】

男女の地位は平等になっていると思う割合をみると、上位から「教育の場で」45.8%、「法律や制度の上で」31.9%、「家庭の中で」28.6%、「地域の中で」26.1%、「職場の中で」18.6%、「社会全体として」16.9%、「しきたりや慣習で」15.2%、「政治の場で」14.2%となっています。

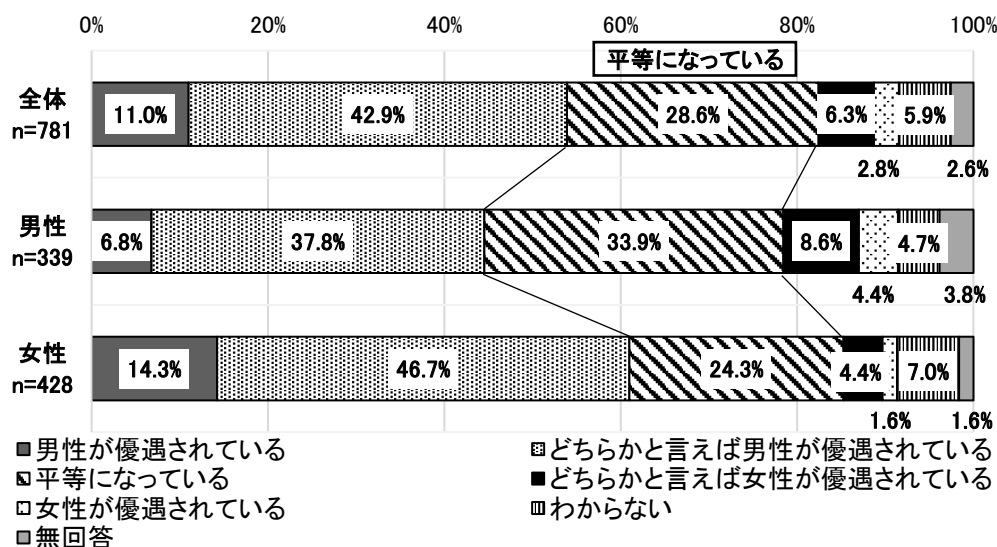
■ 男女の地位の平等



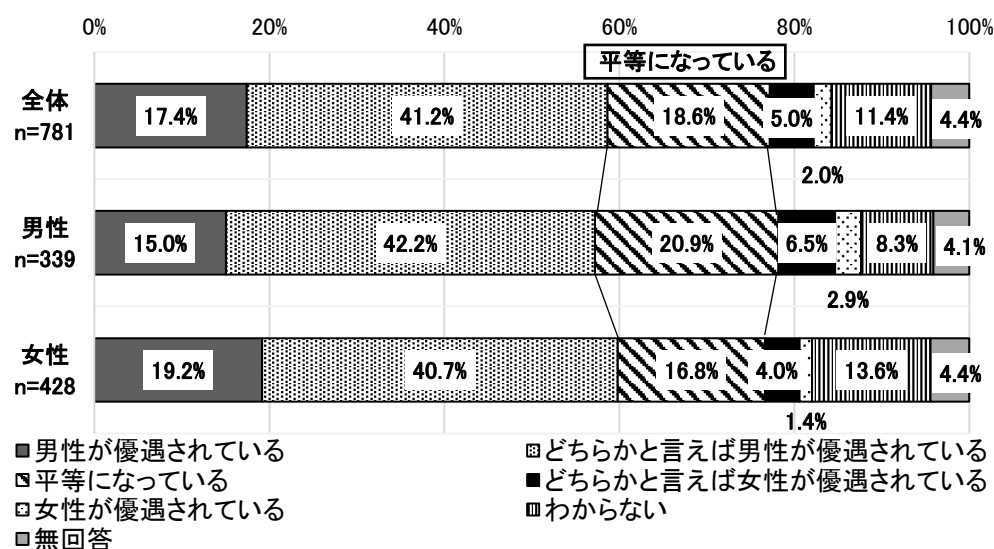
【性別による男女の地位の平等】

男女の地位は平等になっていると思う割合を性別にみると、全ての項目で「平等になっている」割合は女性より男性の方が高く、「男性が優遇されている」割合は全体に比して女性の方が高く、男性は低くなっています。

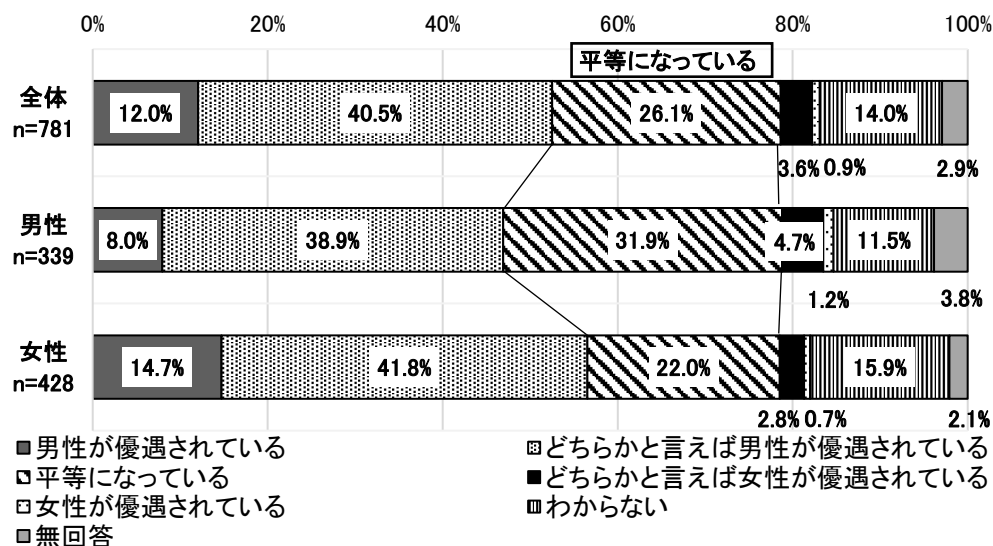
■家庭の中で



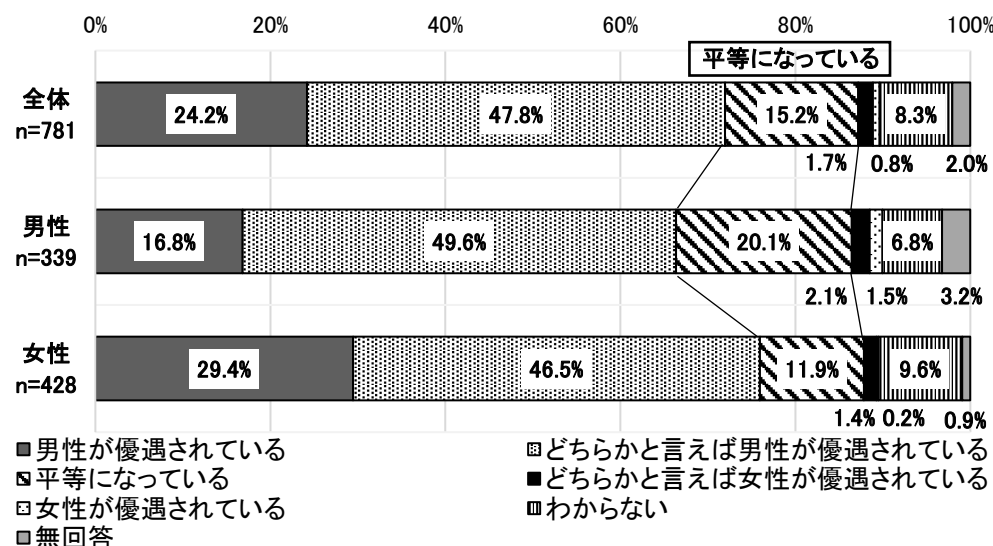
■職場の中で



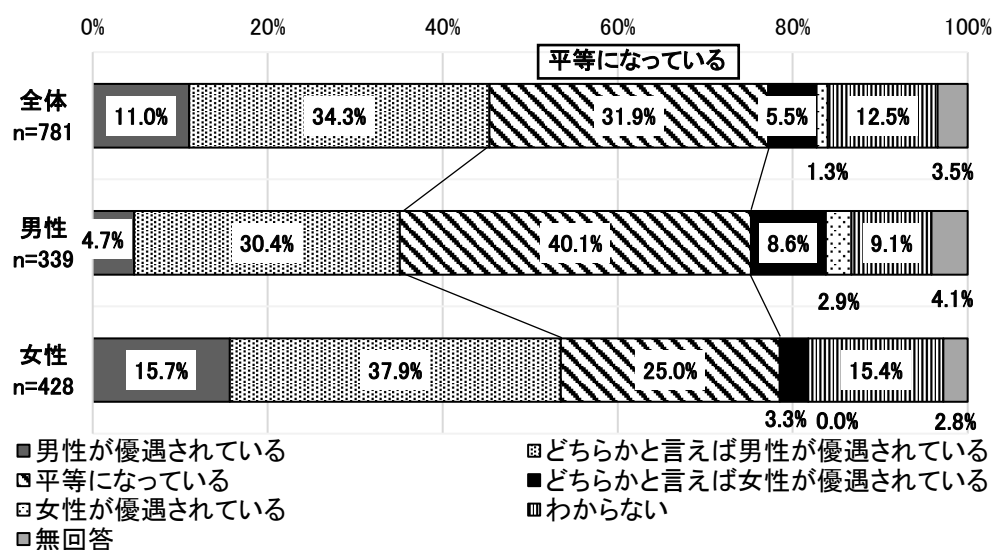
■地域の中で



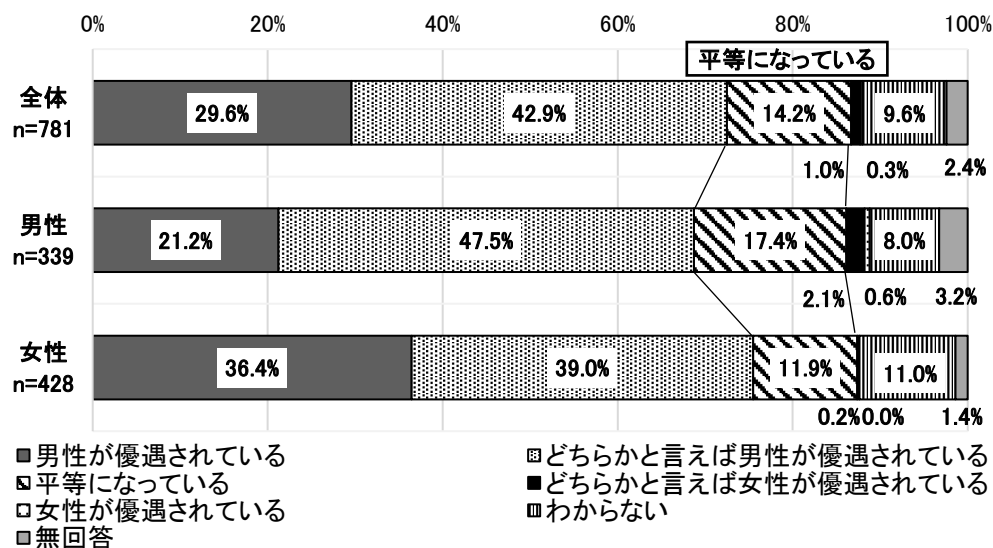
■しきたりや慣習で



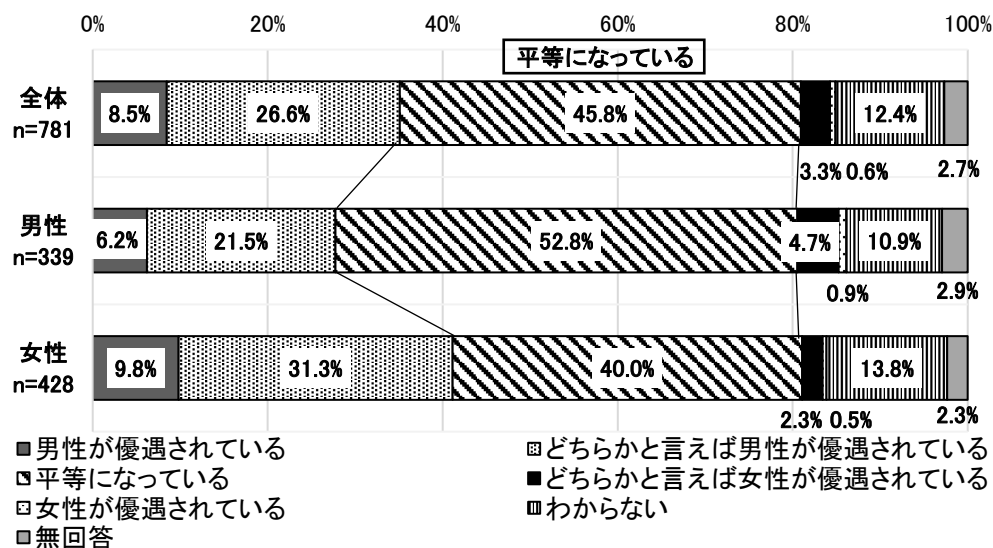
■法律や制度の上で



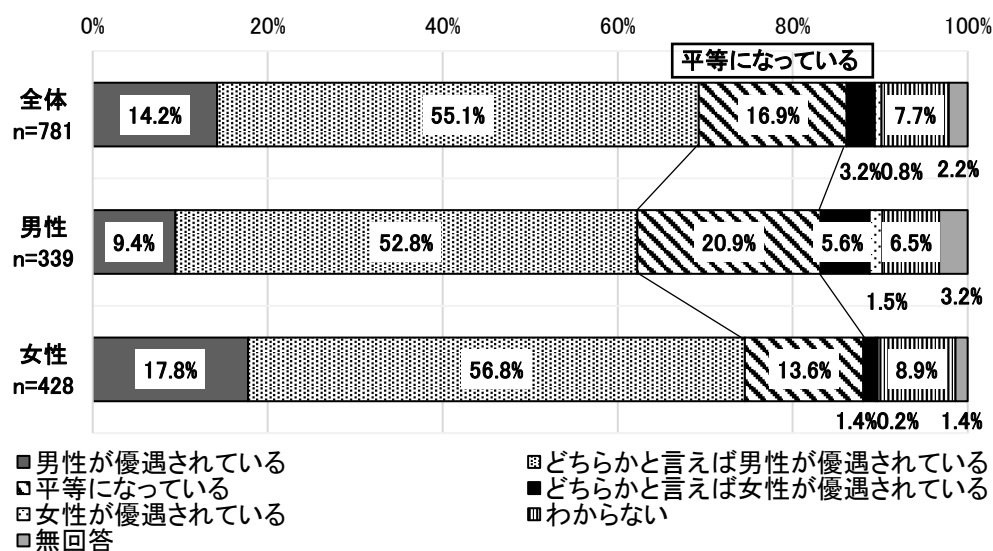
■政治の場で



■教育の場で



■社会全体として

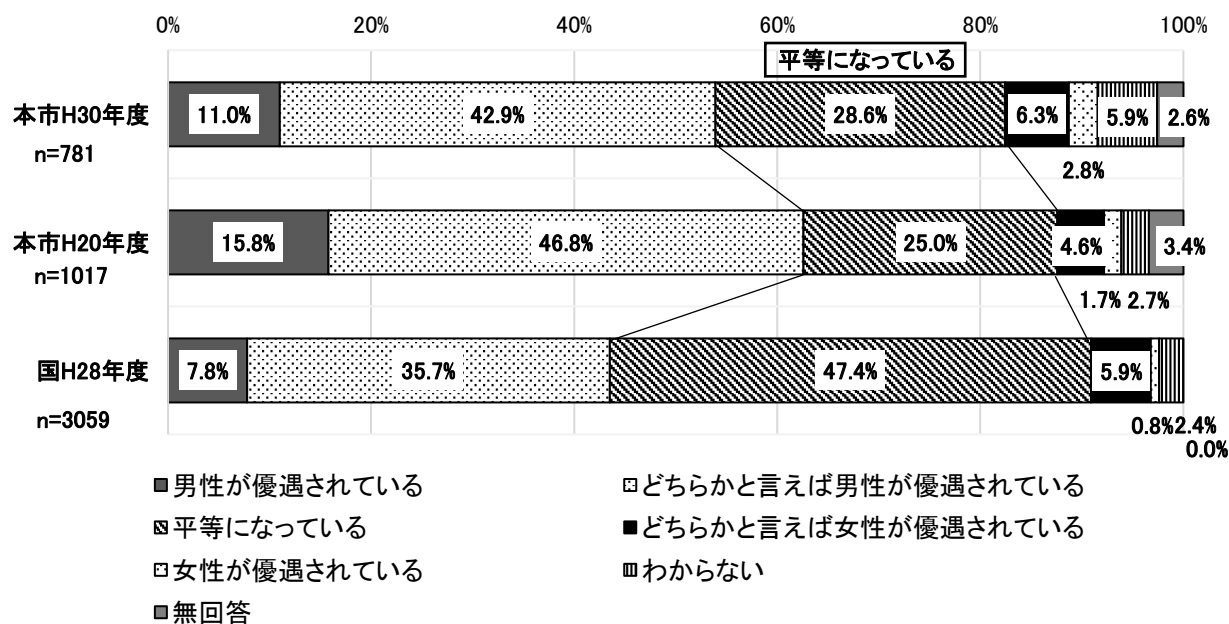


【今治市 H20 年度調査・国 H28 年度調査との比較】

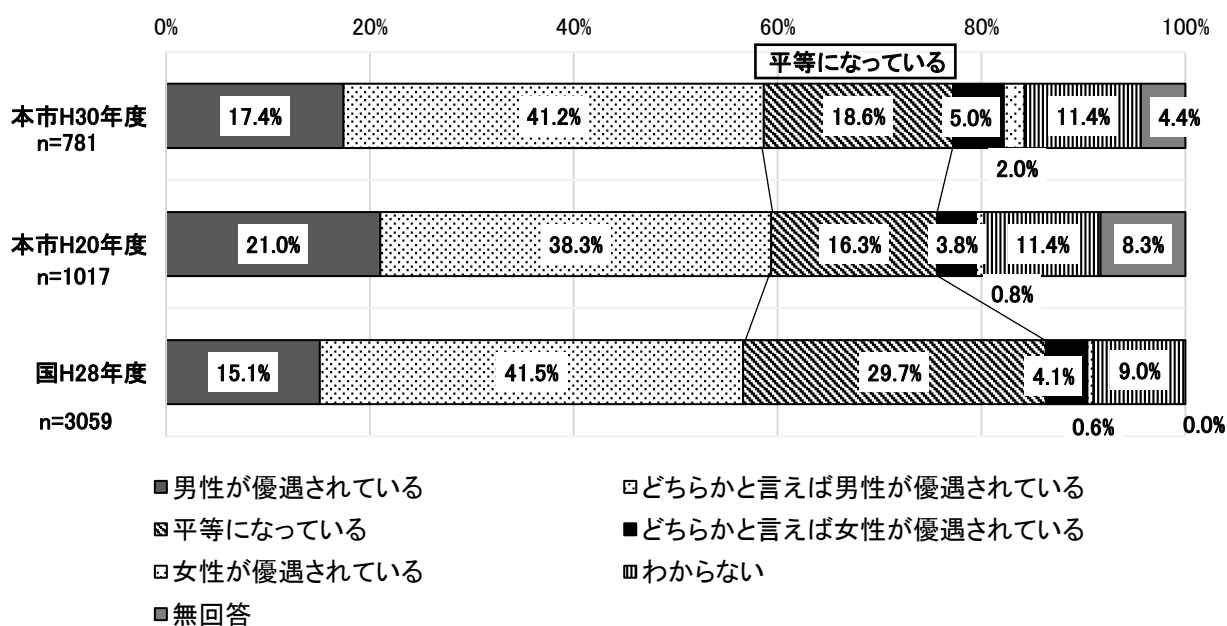
男女の地位の平等感を平成 20 年度調査と比べ、減少したものは「政治の場で」7.9 ポイント減、「法律や制度の上で」7.6 ポイント減、「教育の場で」5.8 ポイント減となっています。

全国調査と比べると、全ての項目で低くなっています。特に、「地域の中で」21.1 ポイント減、「教育の場で」20.6 ポイント減、「家庭の中で」18.8 ポイント減となっています。

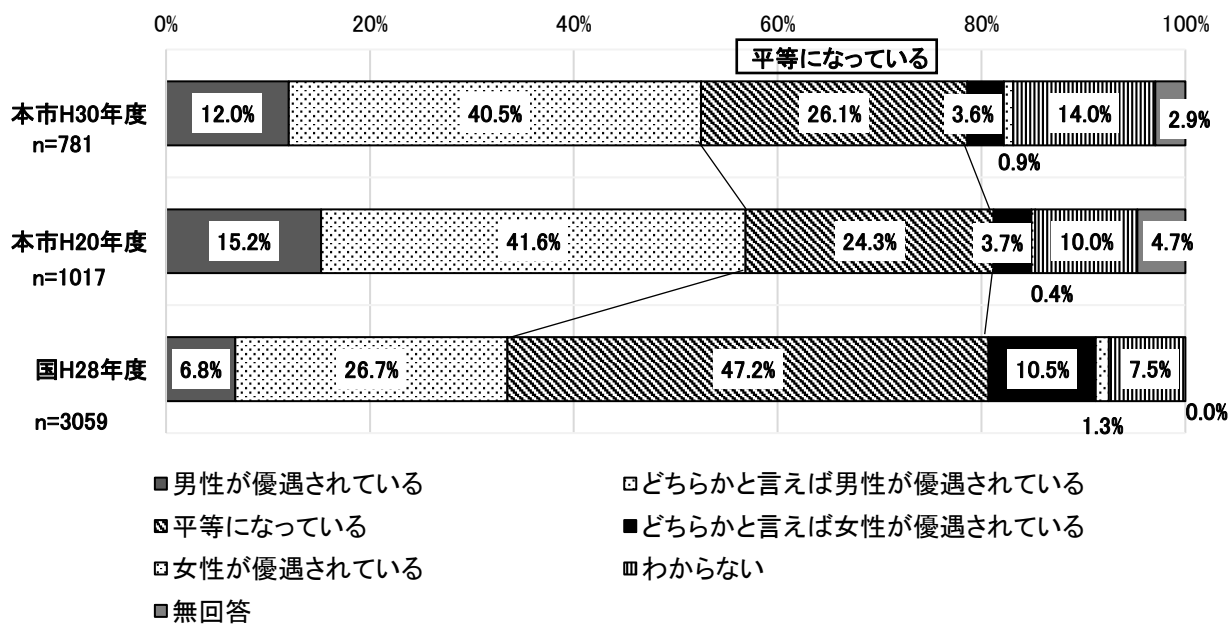
■家庭の中で



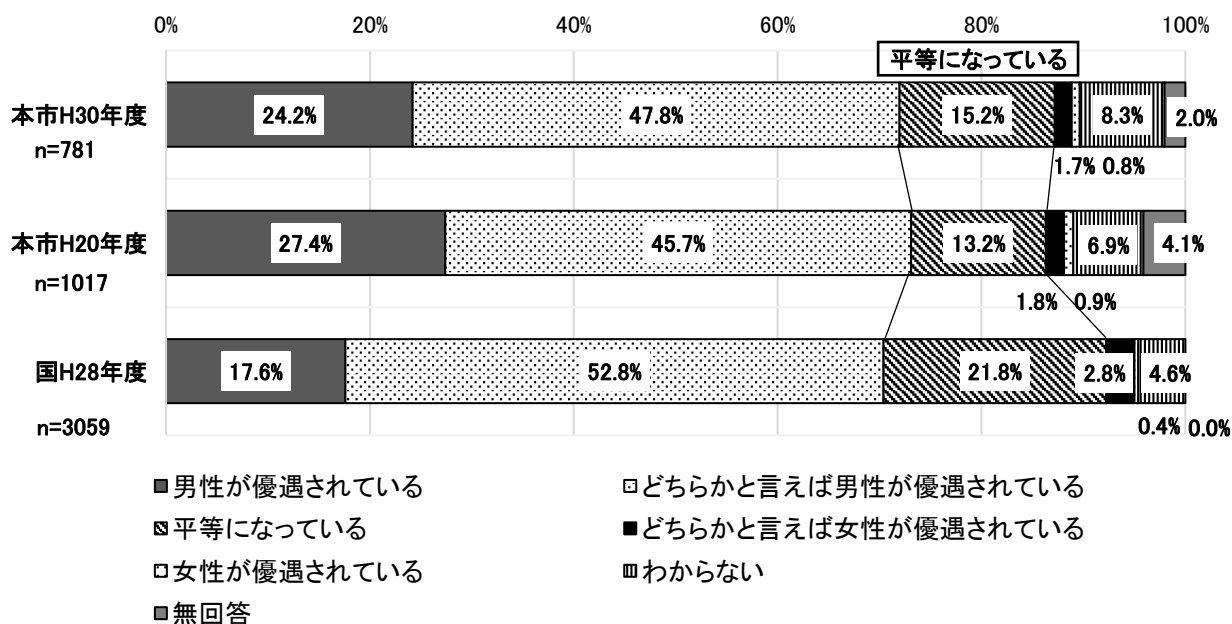
■職場の中で



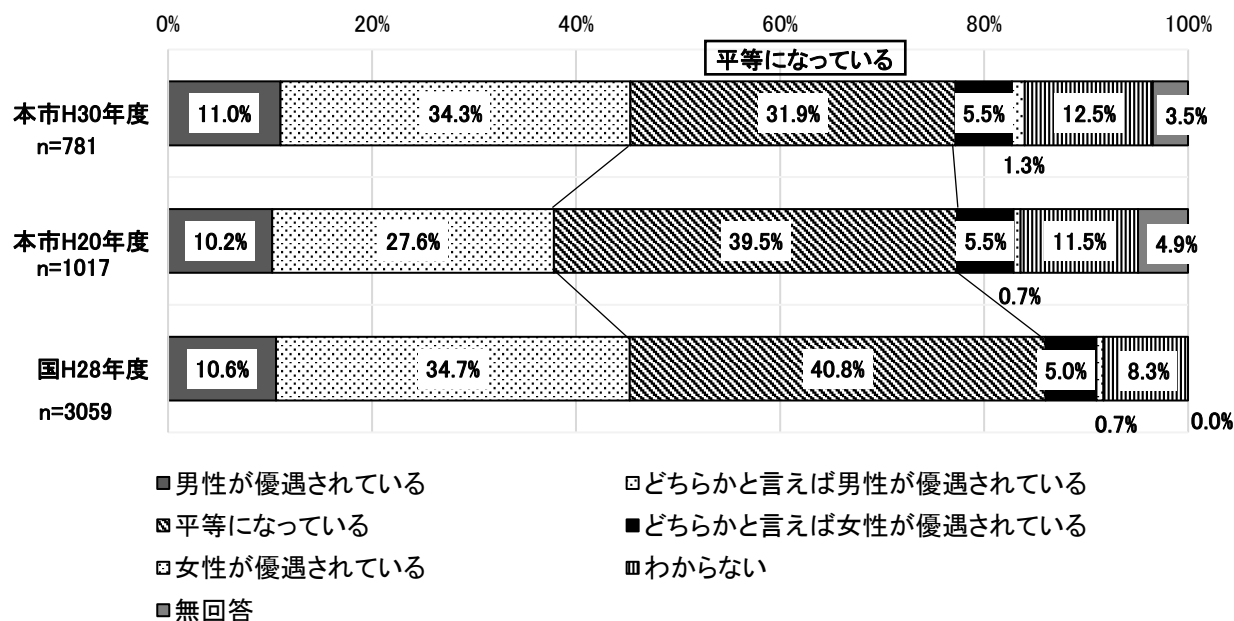
■地域の中で



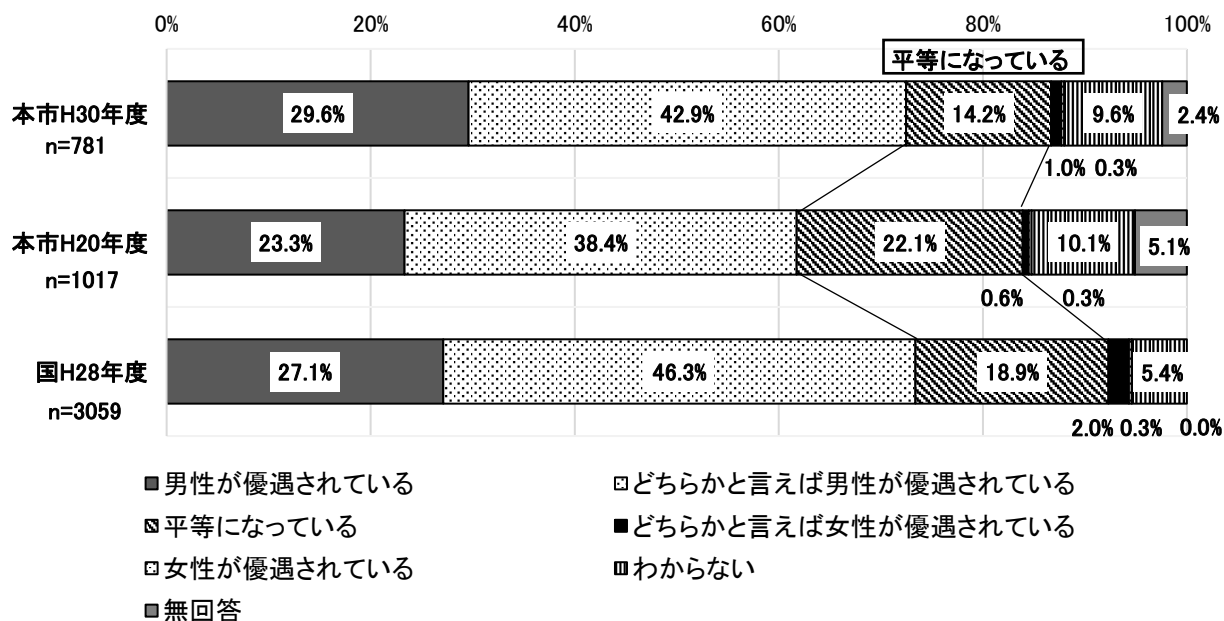
■しきたりや慣習で



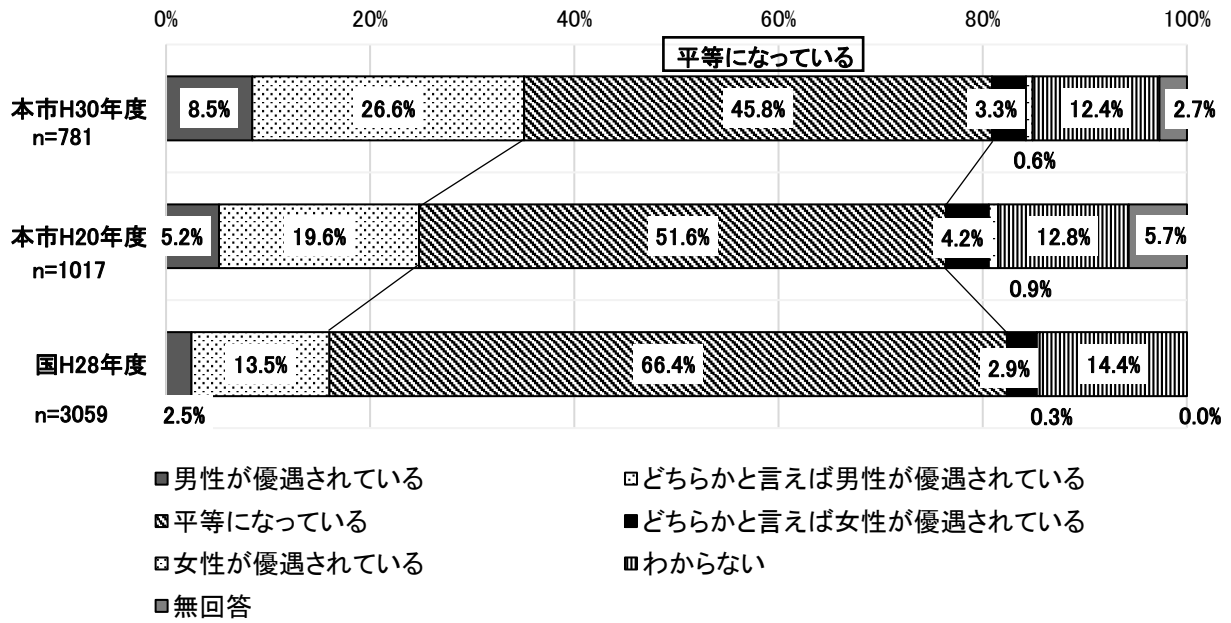
■法律や制度の上で



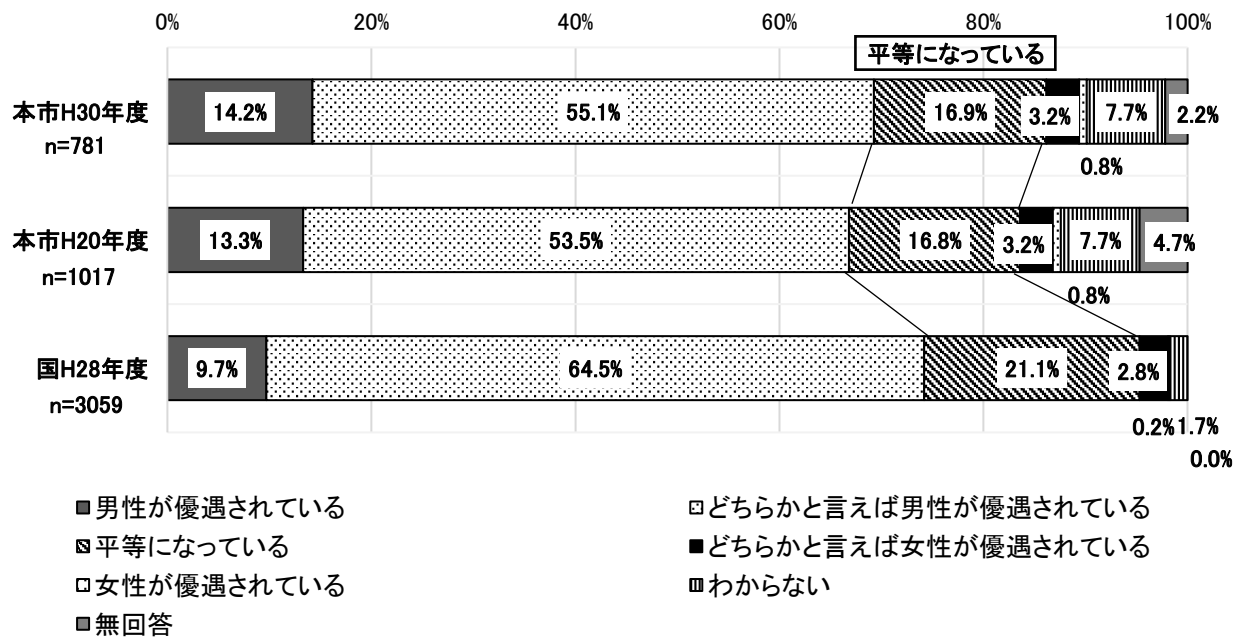
■政治の場で



■教育の場で



■社会全体として



【性別にみる平等感について今治市の過去の調査との比較】

平等感について今治市の過去の調査結果と比較すると、平成4年度調査時点と平成30年度調査時点の比較で、意識が減少したのが「家庭の中で」全体で3ポイント減です。

平成20年度調査からの変化を見ると、

○意識が高まった項目

「家庭の中で」3.6ポイント増、「職場の中で」2.3ポイント増

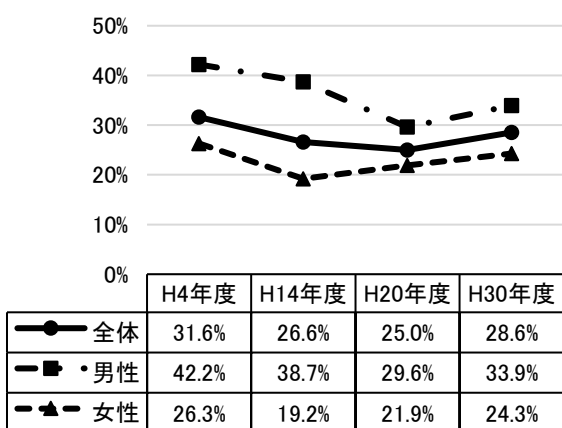
「地域の中で」1.8ポイント増、「しきたりや慣習で」2ポイント増

○意識が減少した項目

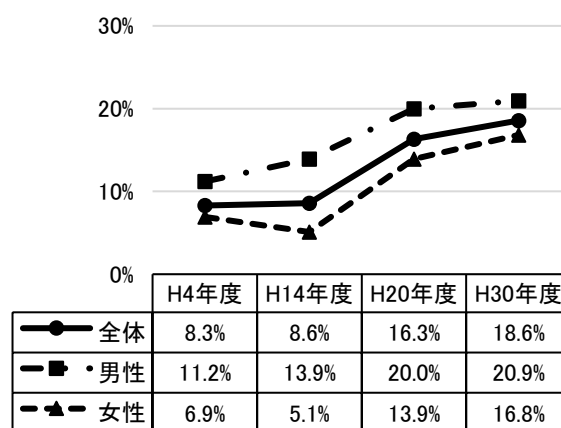
「法律や制度の上で」7.6ポイント減、「政治の場で」7.9ポイント減、

「教育の場で」5.8ポイント減

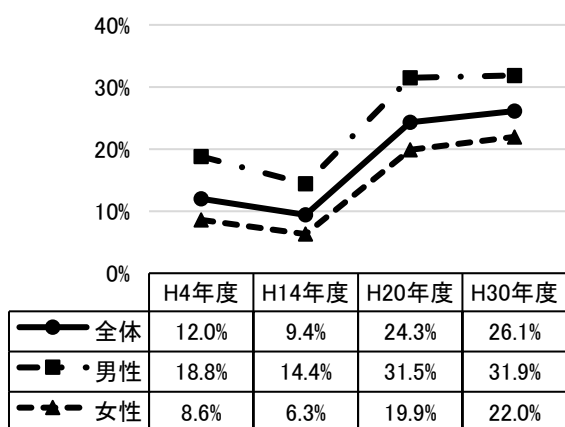
■家庭の中で



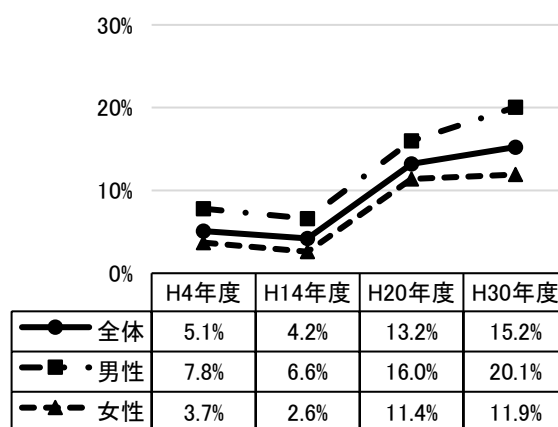
■職場の中で



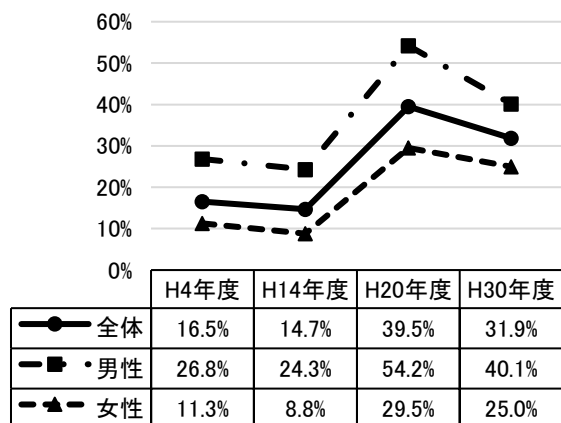
■地域の中で



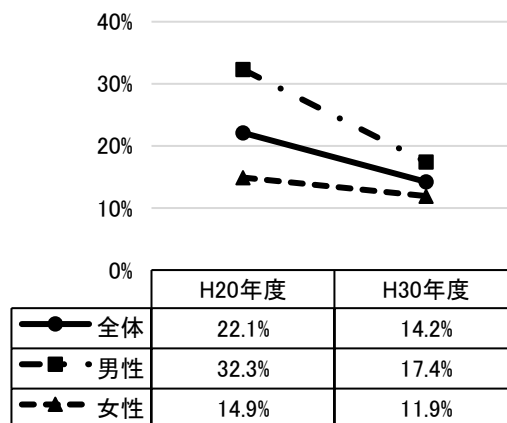
■しきたりや慣習で



■法律や制度の上で

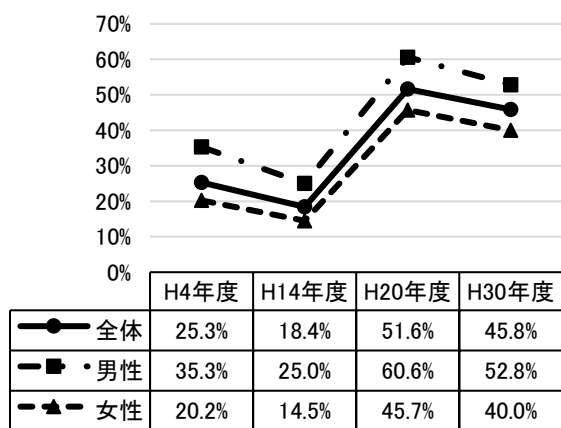


■政治の場で

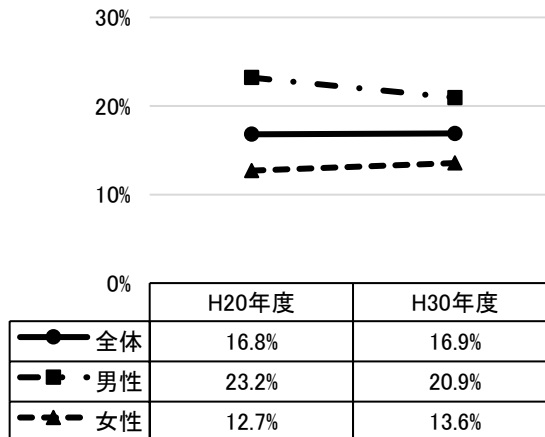


平成4年、平成14年調査未実施。

■教育の場で



■社会全体として

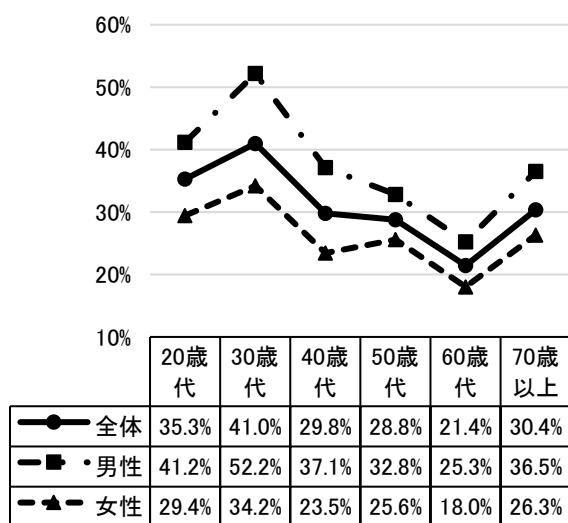


平成4年、平成14年調査未実施。

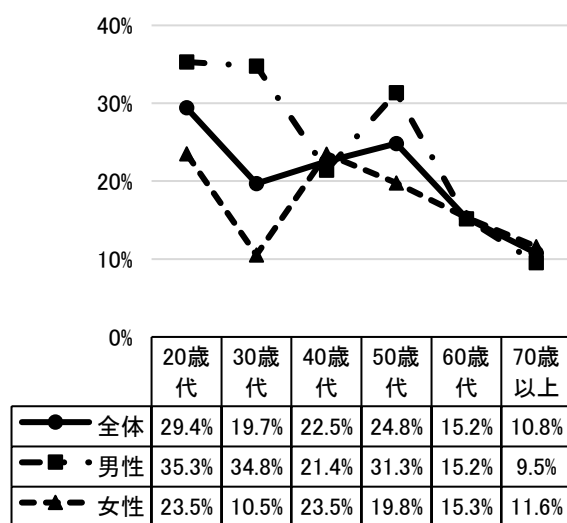
【性別と年齢別にみる分野ごとの平等感】

全ての分野で男性の方が高くなっています。

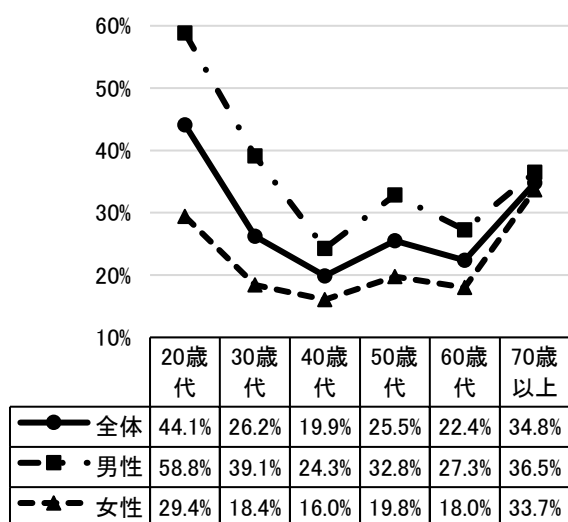
■家庭の中で



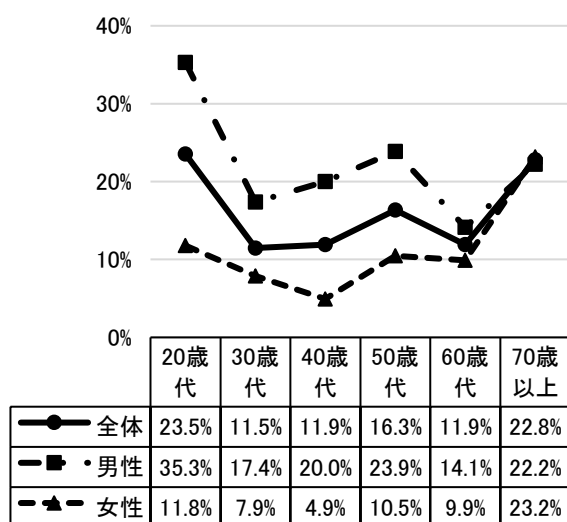
■職場の中で



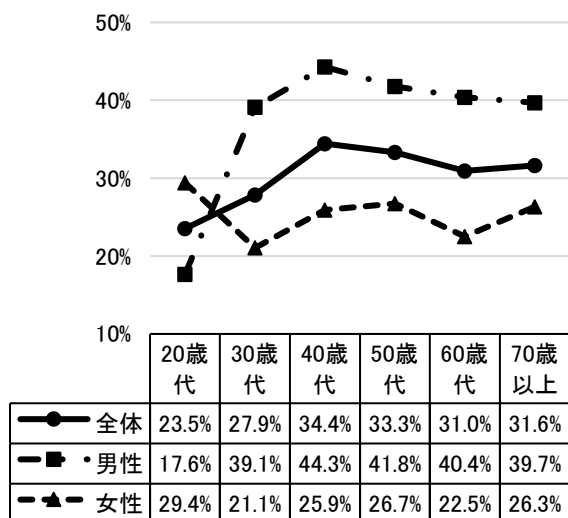
■地域の中で



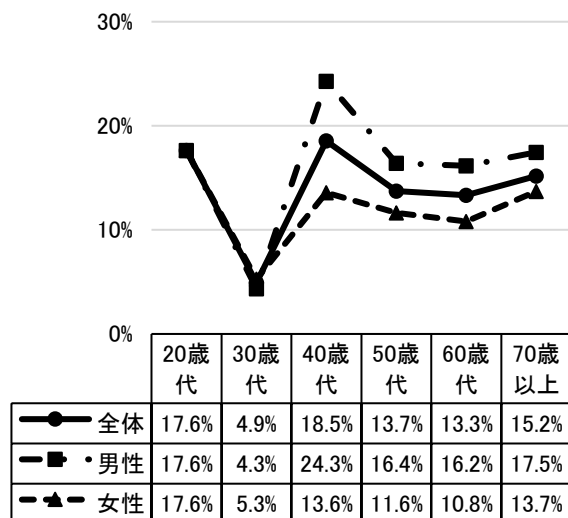
■しきたりや慣習で



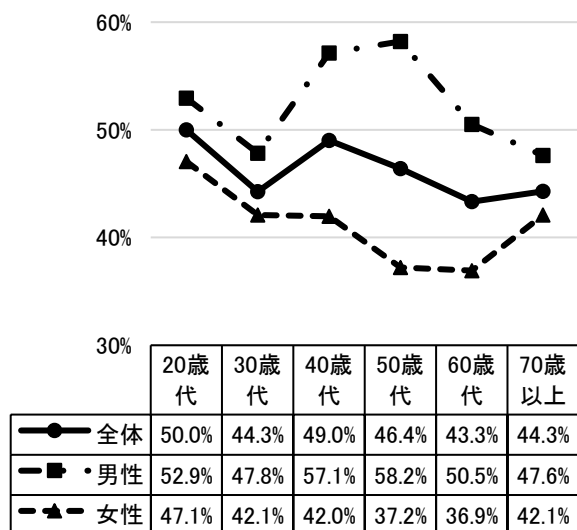
■法律や制度の上で



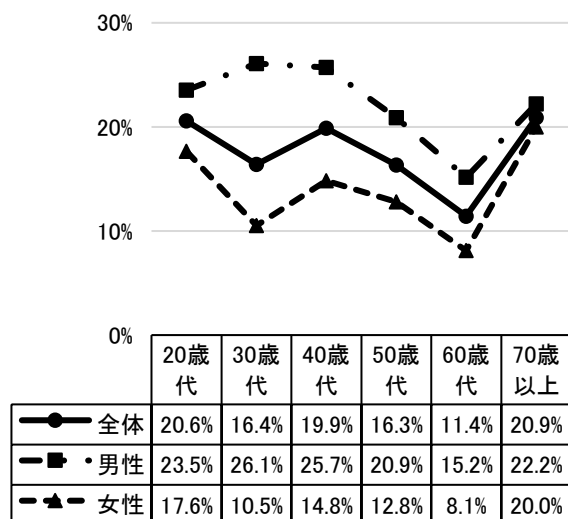
■政治の場で



■教育の場で



■社会全体として

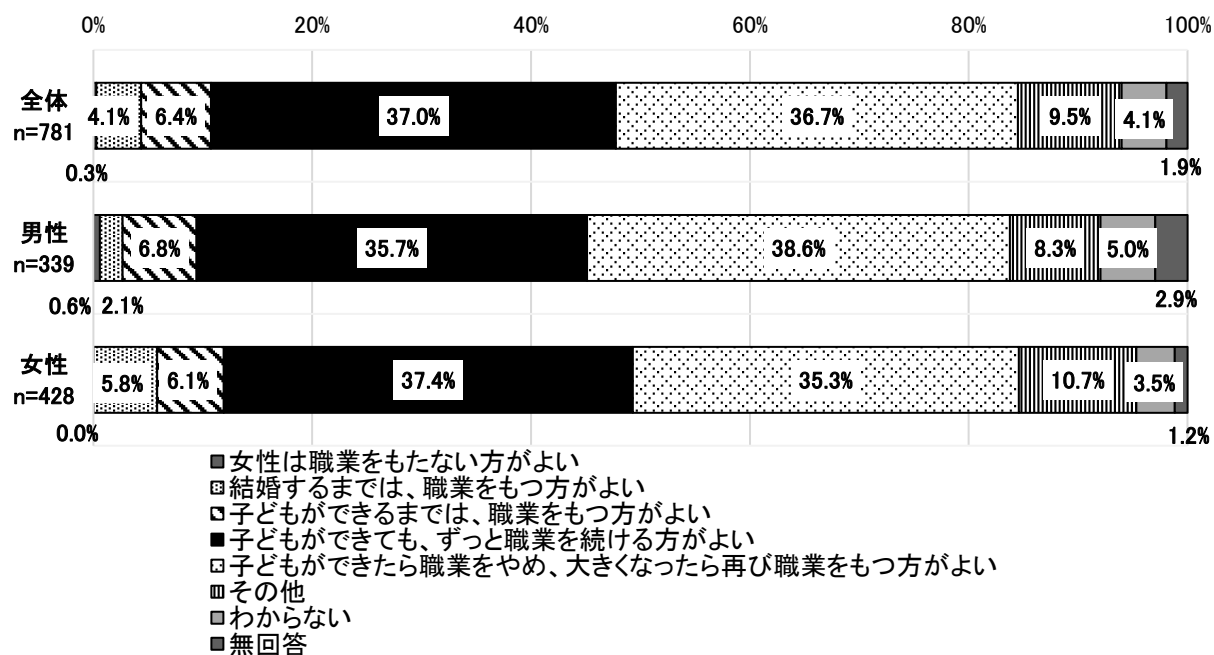


問2 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。【1つに○】

一般的に女性が職業をもつことについてをみると、上位から「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」37.0%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」36.7%となっています。

一番少数意見は、「女性は職業をもたない方がよい」0.3%となっています。

■性別にみる一般的に女性が職業をもつこと



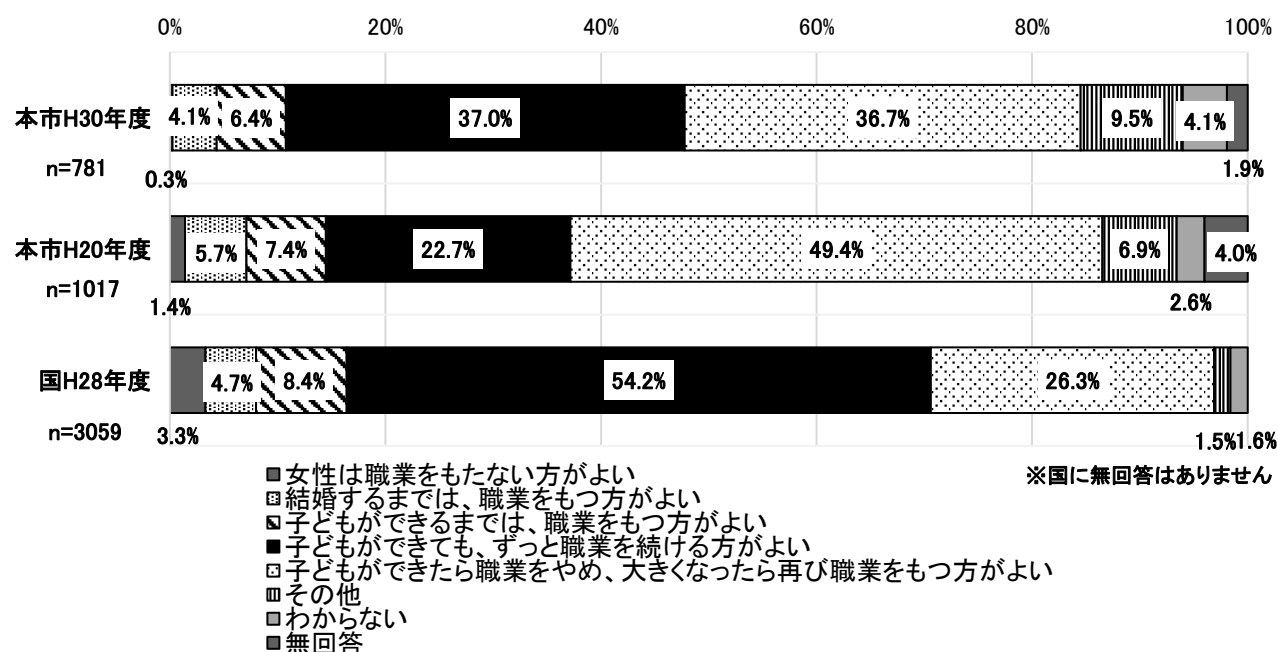
【全国調査と今治市の過去の調査との比較】

一般的に女性が職業をもつことについてを平成 20 年度調査と比べ、減少したものは「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」36.7%で12.7ポイント減となっています。増加したものは、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」37.0%で14.3ポイント増となっています。

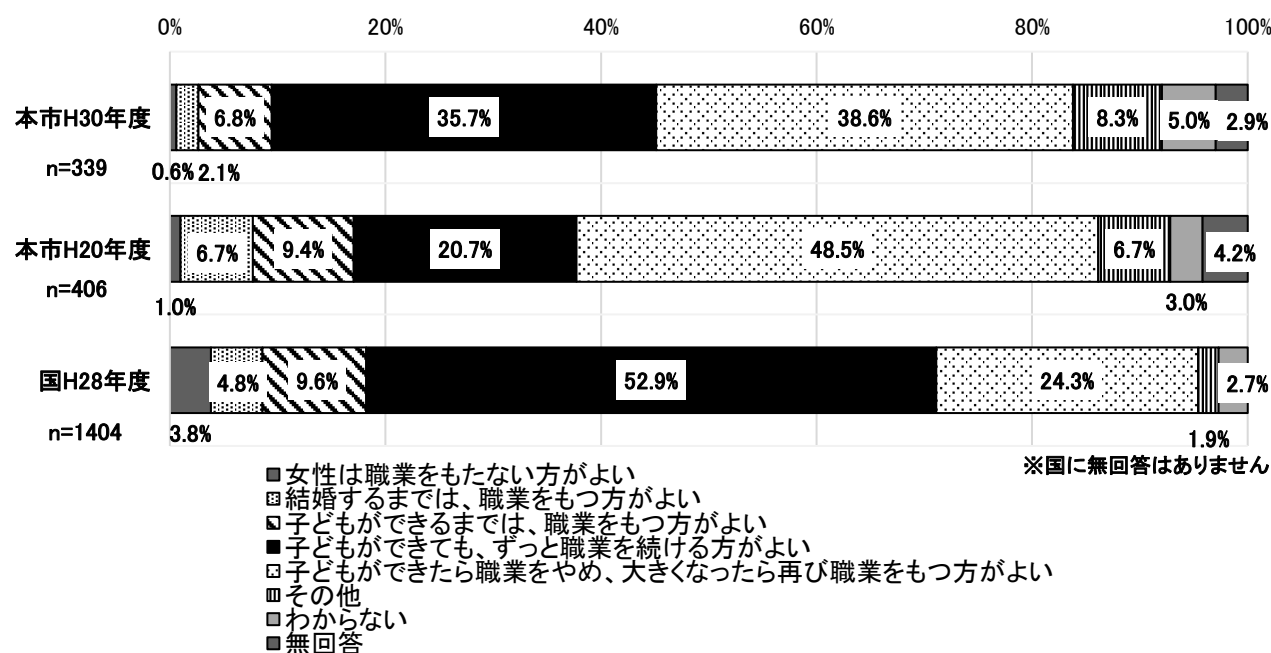
全国調査では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が一番多く54.2%となっています。

性別にみても傾向は同じとなっています。

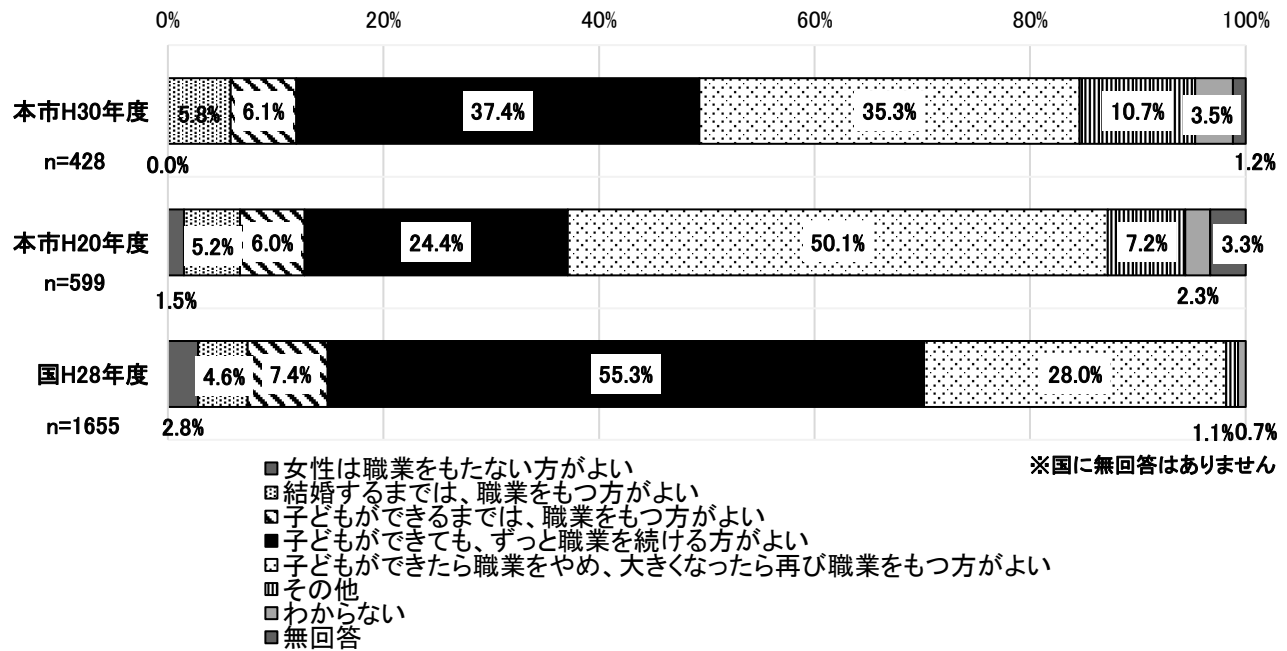
■ 全体・一般的に女性が職業をもつこと



■ 男性・一般的に女性が職業をもつこと



■女性・一般的に女性が職業をもつこと



○その他の回答（75 件）

■女性（20 代）

- ・女性が！というこの質問自体おかしい。男も考えるべきだ。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・個人の自由だと思う。（パート、アルバイト、派遣など）

■男性（20 代）

- ・個人の意見を尊重したいのでこうしたほうがよいとは言い切れない。
（会社員・団体職員・公務員）
- ・その人の考えて、いろいろあってよい。（会社員・団体職員・公務員）
- ・子どもができたなら職業を辞めず、ひと休みして復職する。（会社員・団体職員・公務員）
- ・家庭や本人の気持ち次第。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・家庭の事情により様々であってよいと思う。（その他）

■女性（30 代）

- ・個の自由。（会社員・団体職員・公務員）
- ・自由にライフスタイルに合わせ働けばいいと思う。その人の価値観による。子供をもつことで制限されることと、伸びる能力を理解することも必要だと思う。（会社員・団体職員・公務員）
- ・家庭の事情によってそれぞれちがうと思う。（会社員・団体職員・公務員）
- ・子供関係なく本人の意思で決めれば良い。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・女性も職業をもった方がよいが、男性の理解がないとやっていけない。
（パート、アルバイト、派遣など）
- ・本人の意思でよいと思う。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・家族（共に生活する人）で話し合った結果、決めたら良いと思う。（家事専業）

■男性（30 代）

- ・その人の考え方、価値次第。（会社員・団体職員・公務員）
- ・女性が職をもつ事は個人の自由だと思うから職をもちたい人は職をもつ事をすすめるが僕は人それぞれの考えだと思う。（会社員・団体職員・公務員）
- ・女性の希望次第。（会社員・団体職員・公務員）
- ・本人、周りの環境から考慮して選択すれば良い。（会社員・団体職員・公務員）
- ・ライフステージに関わらず、自らの意思で持つ持たないを自由に選択できることが望ましい。
（会社員・団体職員・公務員）
- ・本人の自由で良いと思う。（無職）

■女性（40代）

- ・個人の自由。仕事をしなければすれば良い、家庭に入りたければやめてもよい。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・それぞれの環境の中で、夫婦間、家族間が納得しているならどちらでもよい。職業をもつこと、もたないことが、どちらがよいとは言えない。(会社員・団体職員・公務員)
- ・女性、男性に関わらず、続けれる状態で、続けたければ続けられたい。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・決めこまず、それぞれでいいと思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・人それぞれで何がよいか違っていいと思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・個人の自由。(会社員・団体職員・公務員)
- ・その人の気持ち次第。(会社員・団体職員・公務員)
- ・自営業、職業の種類による。(自営業(農林業含む)・自由業)
- ・子供が小さい間は女性、男性どちらでもいいので側にいた方がよいと思う。祖父母の手助けが重要。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・どうするにしても、配偶次第だと思う。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・自由に選択できるようになるのがよい。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・出産後も働ける環境は素晴らしいと思うが、あたりまえ。逆マタハラもあり周囲の負担はかなり。意識の問題、お互い分かりあえる環境であれば。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・職を持つことが良いか悪いかは、個人によると思う。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・子育ても大事な仕事。どちらがえらいとか無い。どちらを選んでも、生きて行けるのがよいと思う。(家事専業)
- ・時代も個人の考え、状況も一定ではないので、その人に合ったことを自由にできるのがよい。
(家事専業)

■男性（40代）

- ・親、保育園、児童館などと、子どもをみてもらえる環境が整えば職業をもつ方がよい。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・職種による女性の必要がある。(会社員・団体職員・公務員)
- ・各自の選択にまかせる。周囲が口を出すべきでない。(会社員・団体職員・公務員)
- ・その人の考えで自由でいいと思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・職業を続けた方がよいが、男女の十分な育児休暇取得が必須。(会社員・団体職員・公務員)
- ・本人の意思。(会社員・団体職員・公務員)
- ・田舎ほど育児に対して企業の考え方や社則が古く、また共働きでないと給与面でも生活苦になり易いと思うから。(会社員・団体職員・公務員)
- ・もちたい人は持てて、子どもができて、もちたくない人はもたないと、選択できたらいいと思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・性別に限らず働くのは当然。(家事専業)

■女性（50代）12件

- ・個人の自由であり個人の意見が尊重されるべき。このような質問をしなければならないことがすでに性差である。(会社員・団体職員・公務員)
- ・ひとりひとり考え方が違うと思うので、本人の意思が認められる社会であってほしい。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・可能な限り職業を続けた方がいいと思うが、サポートする親族が近くにいないければ現実は難しい。又、働きたくない女性もいるので、個人の意思に委ねるべきとも思う。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・個人の自由。この質問自体が性差別。(会社員・団体職員・公務員)
- ・本人の意思、又は経済的に必要でなければ仕事はしなくても良いと思う。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・経済面や家族構成による。(会社員・団体職員・公務員)
- ・女性がというより個々の考えを大切にしたい。(会社員・団体職員・公務員)
- ・各個人の事情による。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・共働きの世の中、女性が職業をもつ、もたないという問いもおかしいと思う。
(パート、アルバイト、派遣など)

- ・経済的に必要であるならば…そうでなければ自由に…。(家事専業)
- ・家族の理解や事情によって働き方を変える。(無職)
- ・個人の思いのままにすれば良い。(無職)

■男性 (50 代)

- ・本人の意思で決めればよい。(会社員・団体職員・公務員)
- ・家族で話し合って決めればよい。(会社員・団体職員・公務員)
- ・本人自身が決めることだと思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・共に働かないと食べれない。(自営業 (農林業含む)・自由業)
- ・未婚、既婚、子どもがいる、いない等かわらず、男性と同じく職業をもつべきである。(無職)

■女性 (60 代)

- ・子供が出来てからは、一人一人の個人の問題。経済面とか家族構成とか。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・女性の体がゆるすかぎり仕事を続けたいと思っている。(会社員・団体職員・公務員)
- ・男女にかかわらず自分又は夫婦の人生設計が尊重されるべき。(家事専業)
- ・社会を知ることについては良いのかもしれないが人それぞれなので…。(家事専業)
- ・その人次第でよい。(無職)
- ・男性次第だと思う。二人で協力しあえばずっと就業できるのでよいと思う。(その他)

■男性 (60 代)

- ・将来的に人材不足が見込まれるので、社会進出は必要と感じる。
(パート、アルバイト、派遣など)
- ・本人の自由にすれば良い。(無職)
- ・個別事情。(無職)
- ・その人に依ると思う。(その他)

■女性 (70 代)

- ・個人の考えにしたらいと思う。(自営業 (農林業含む)・自由業)
- ・個人の考え方の違いや、結婚した時の環境によって違いがあると思う。
(パート、アルバイト、派遣など)
- ・子供 3 歳位まで見守り、パート、短時間労働後職業へ。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・子育ては一番大切な仕事、幼児期の優しさ愛は人格の基礎を忘れぬこと。(その他)

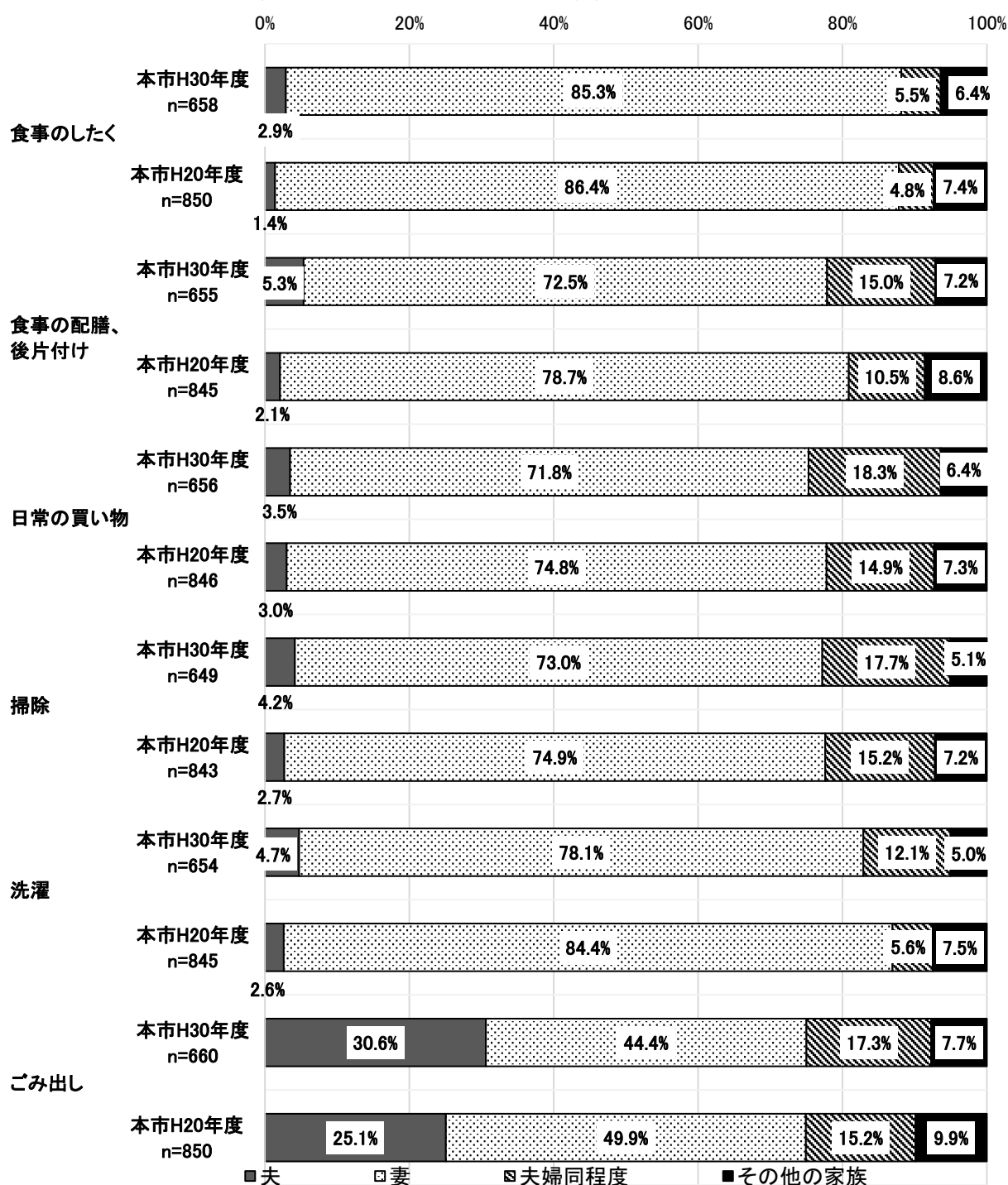
2 生活の実態について

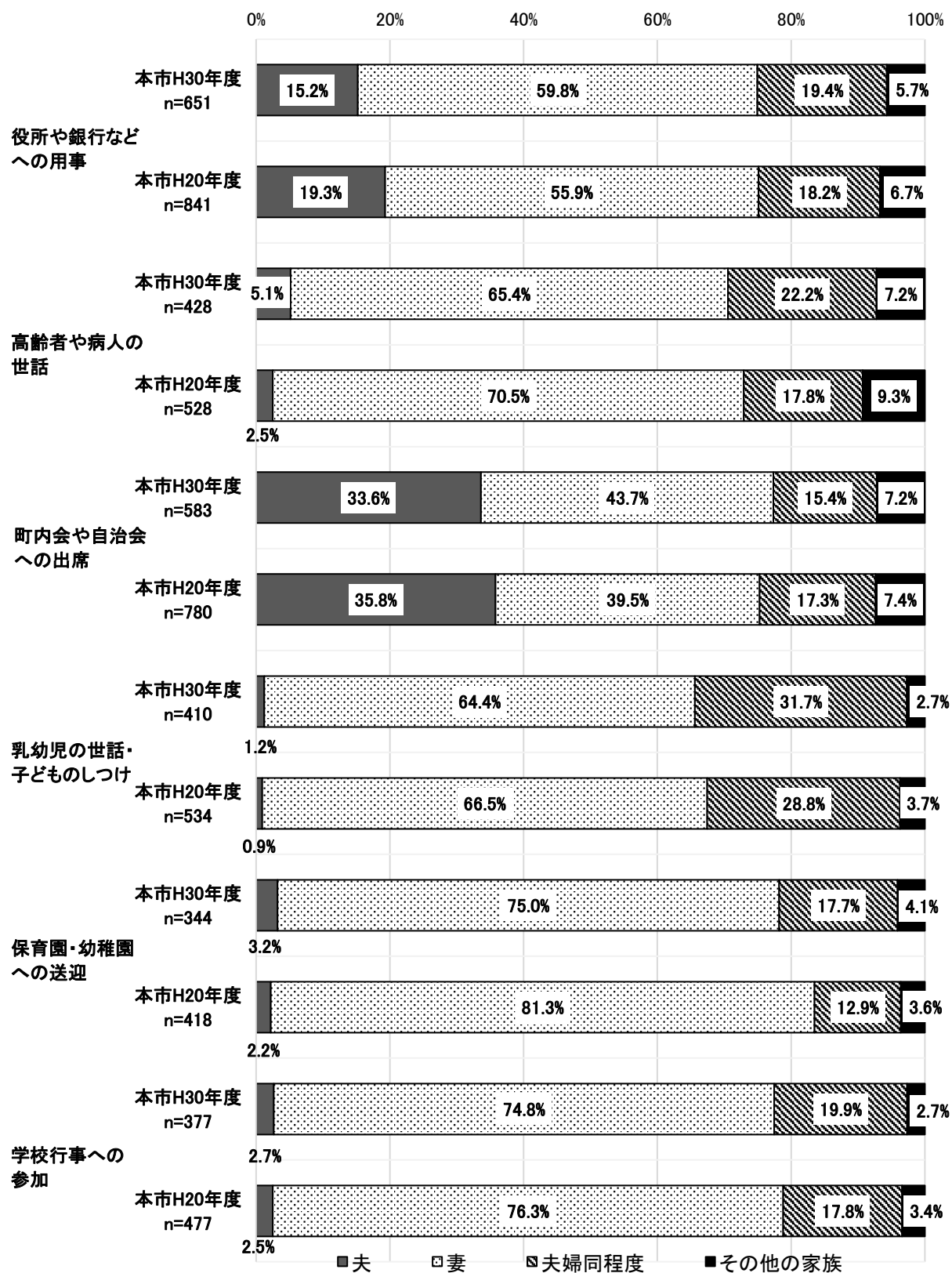
問3 あなたのご家庭では、次にあげる家事などを主にだれが分担していますか。

【1つに○】

家庭内での家事の分担についてみると、全ての分野で「妻」の分担している割合が高くなっています。「夫」の役割分担の割合をみると、「町内会や自治会への出席」33.6%、「ごみ出し」30.6%、「役所や銀行などへの用事」15.2%は比較的高くなっていますが、これら以外の分野では、1割以下となっています。

■家庭内での家事の分担（今治市 H20 年度調査との比較）



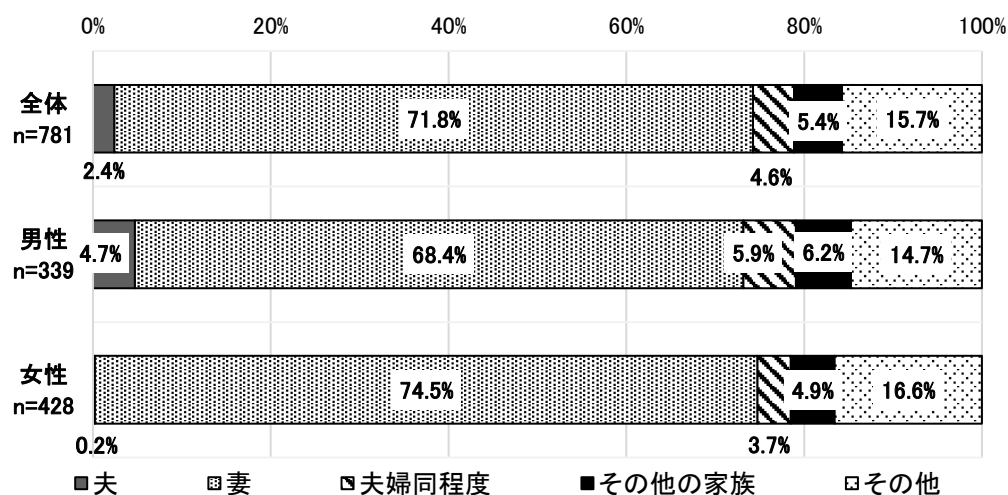


【性別による比較】

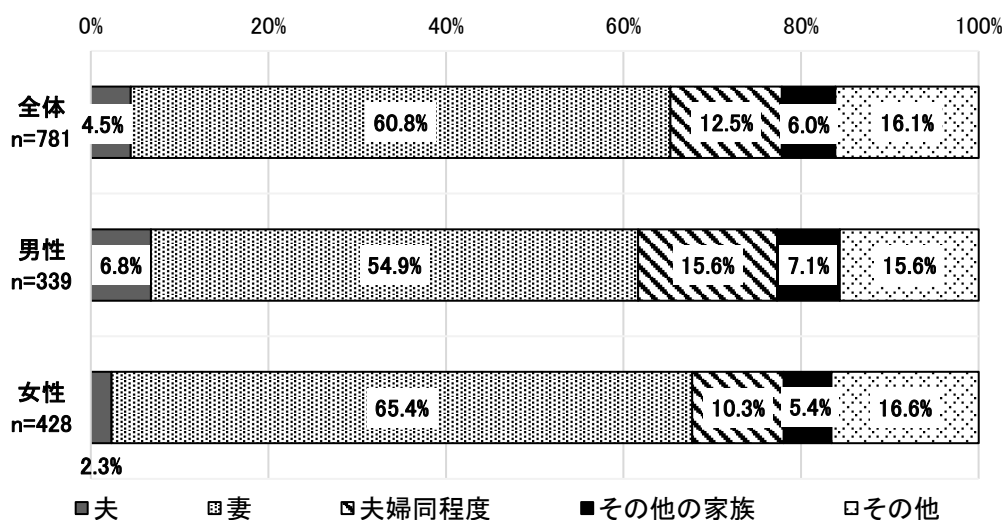
家庭内での家事の分担を性別にみると、全ての分野で男性の回答は、女性より「夫」が分担している割合が高くなっています。反対に、全ての分野で女性の回答は、男性より「妻」が分担している割合が高くなっています。「夫婦同程度」についてみると、全ての分野で男性の回答は、女性の回答より割合が高くなっています。

※グラフ中の「その他」は、その他（単身者等）、該当なし、無回答となっています。

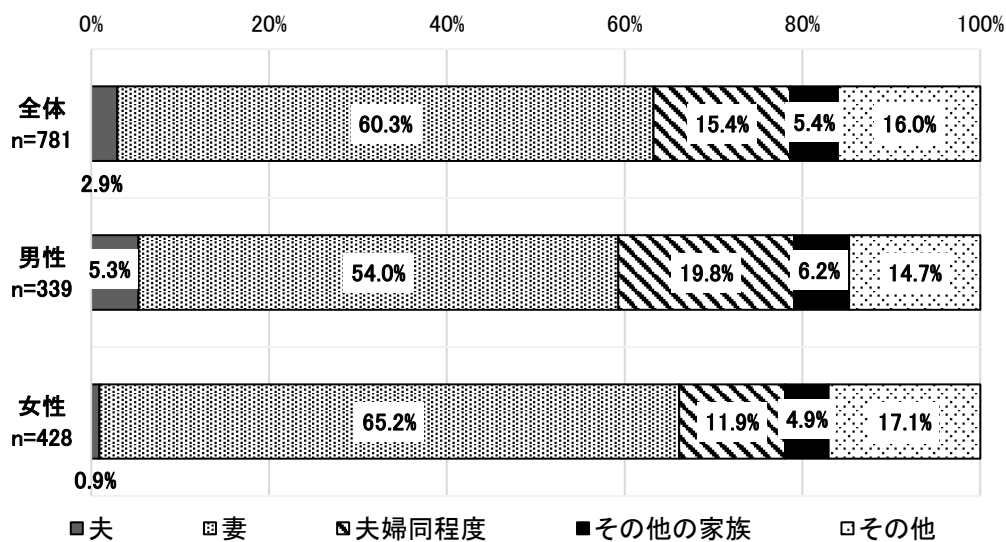
■ 食事のしたく



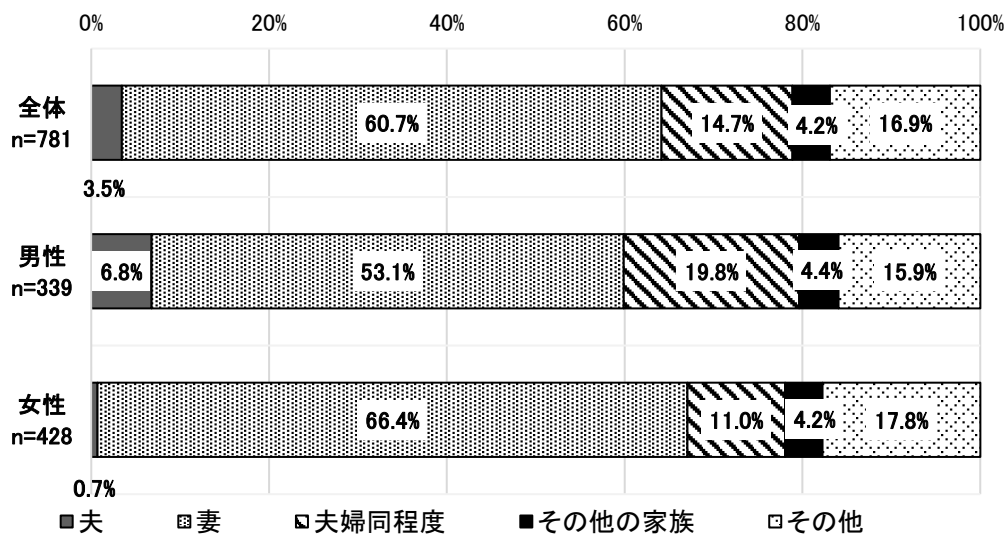
■ 食事の配膳、後片付け



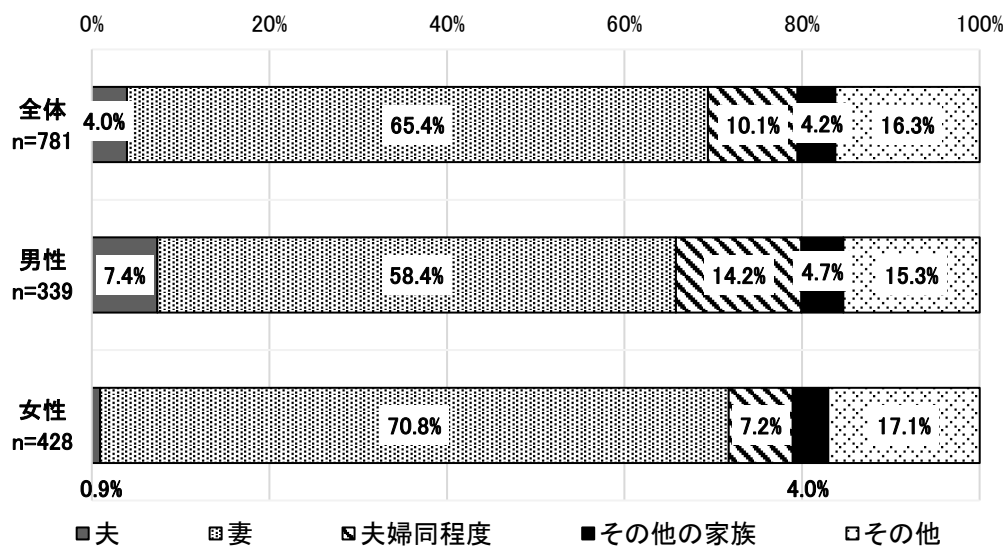
■ 日常の買い物



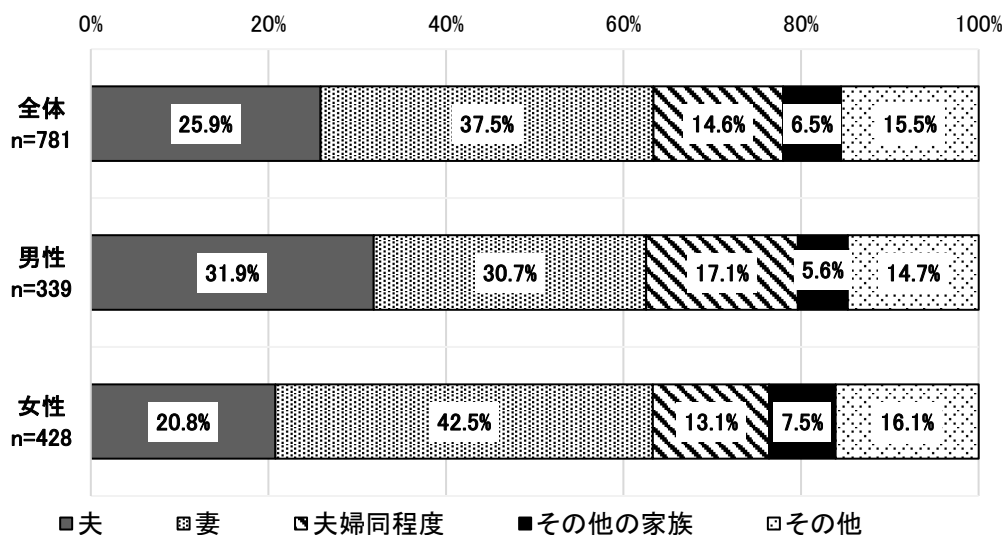
■ 掃除



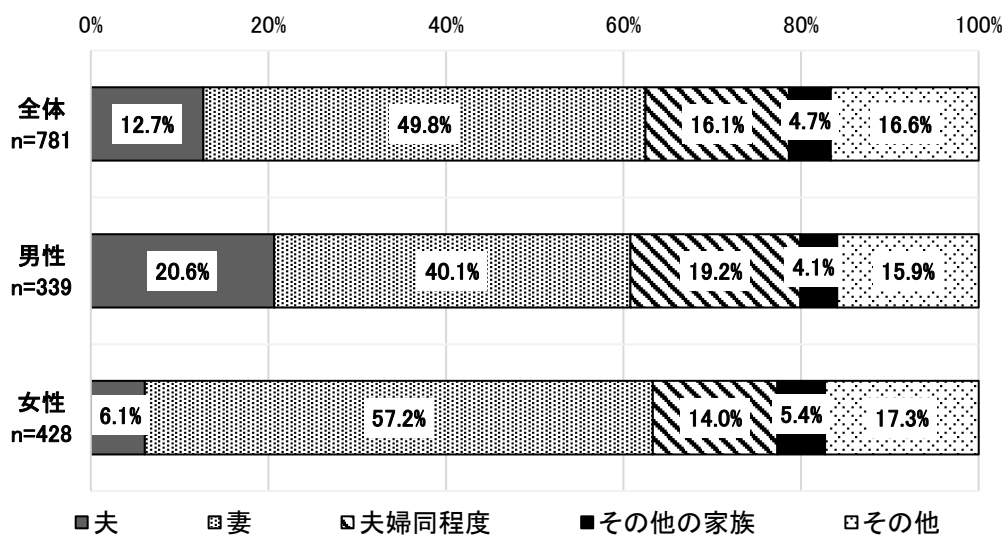
■ 洗濯



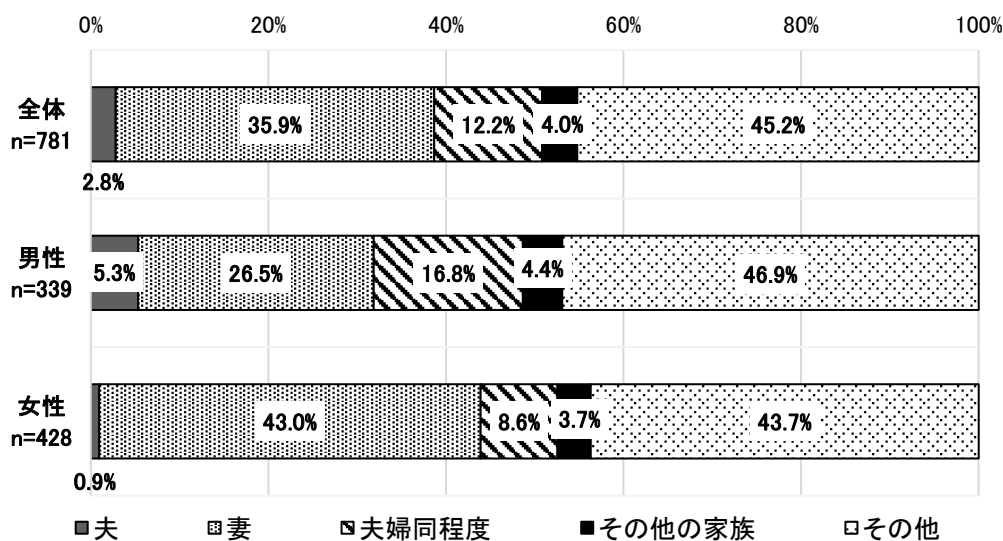
■ごみ出し



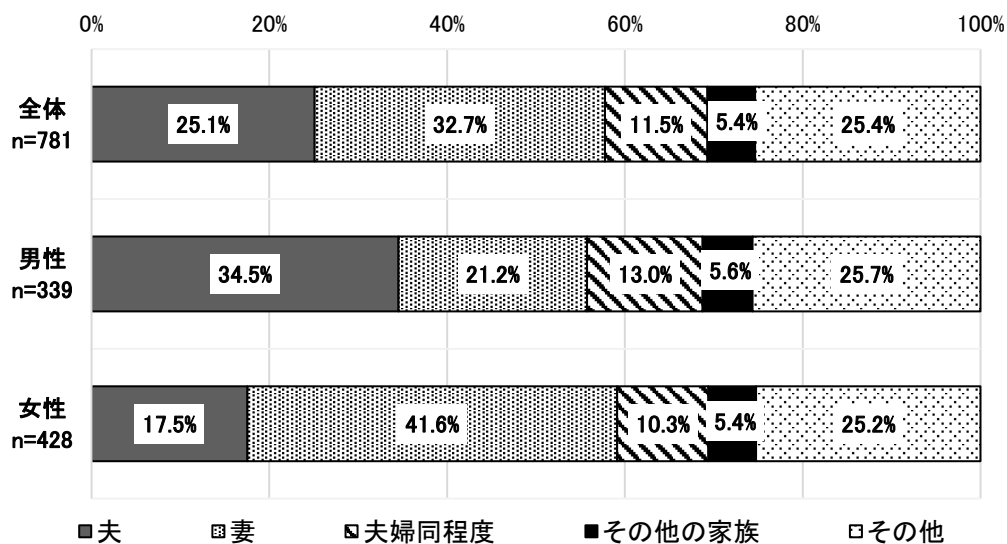
■役所や銀行などへの用事



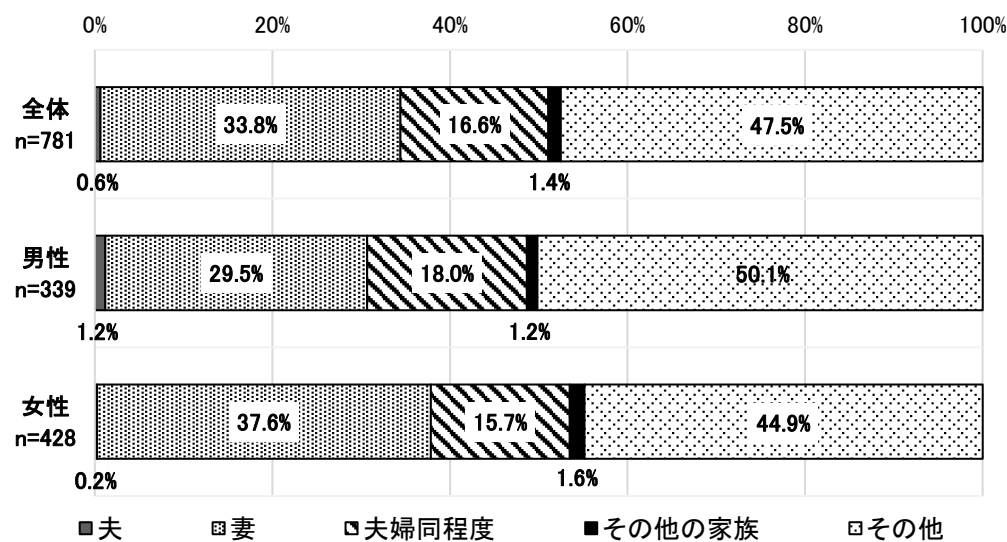
■高齢者や病人の世話



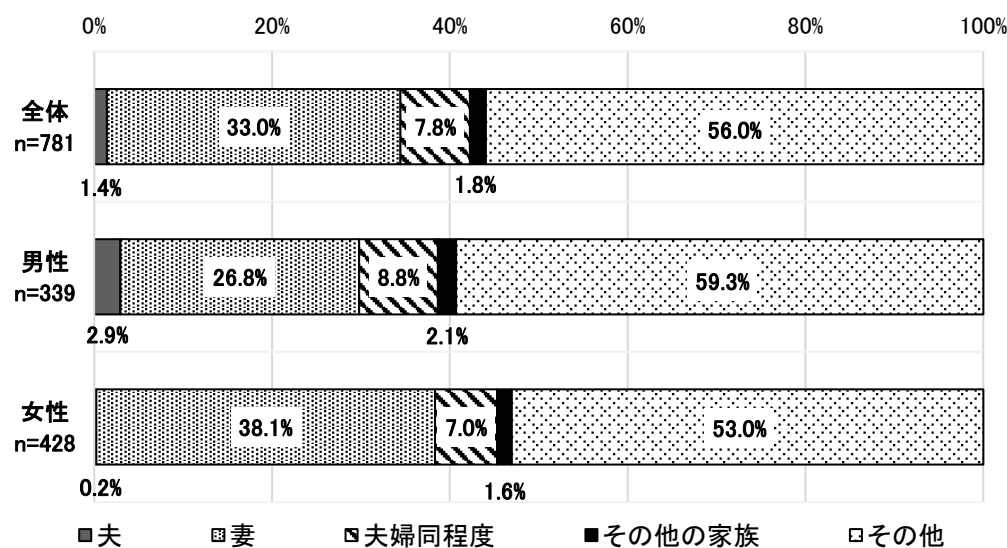
■町内会や自治会への出席



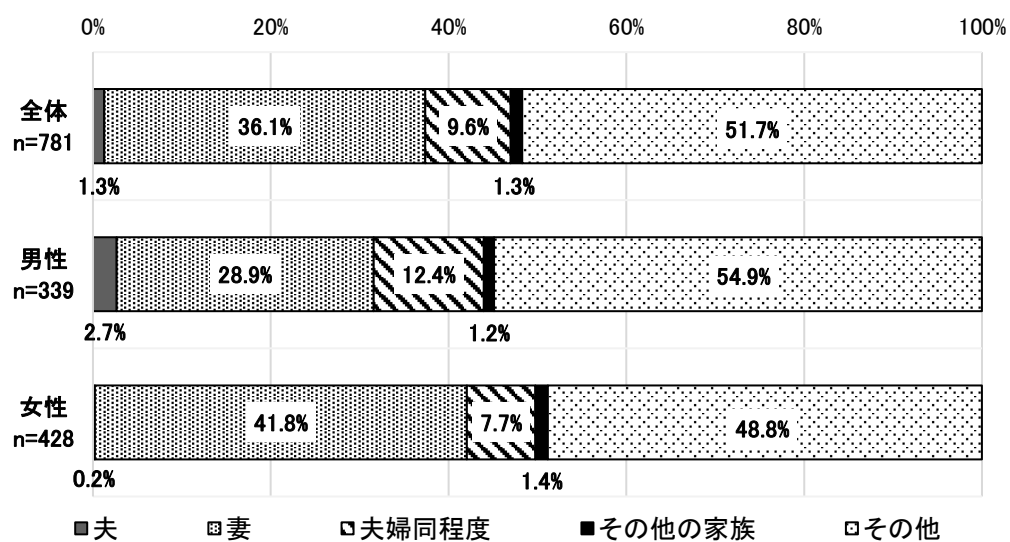
■乳幼児の世話・子どものしつけ



■保育園・幼稚園への送迎



■ 学校行事への参加

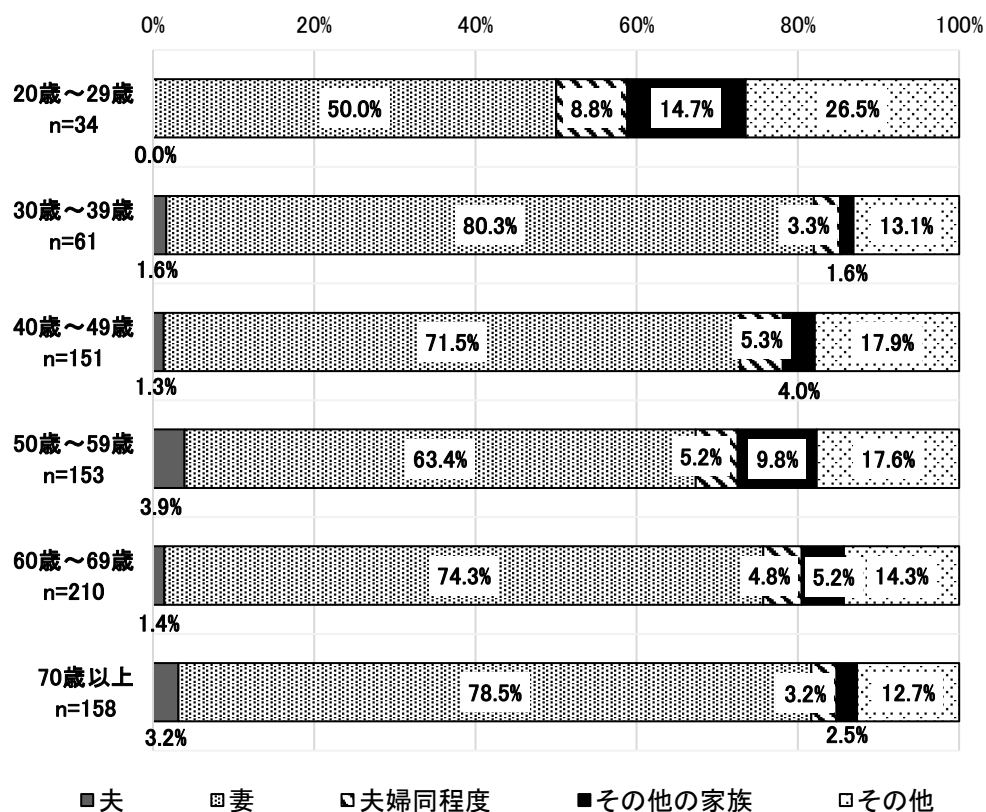


【年齢による比較】

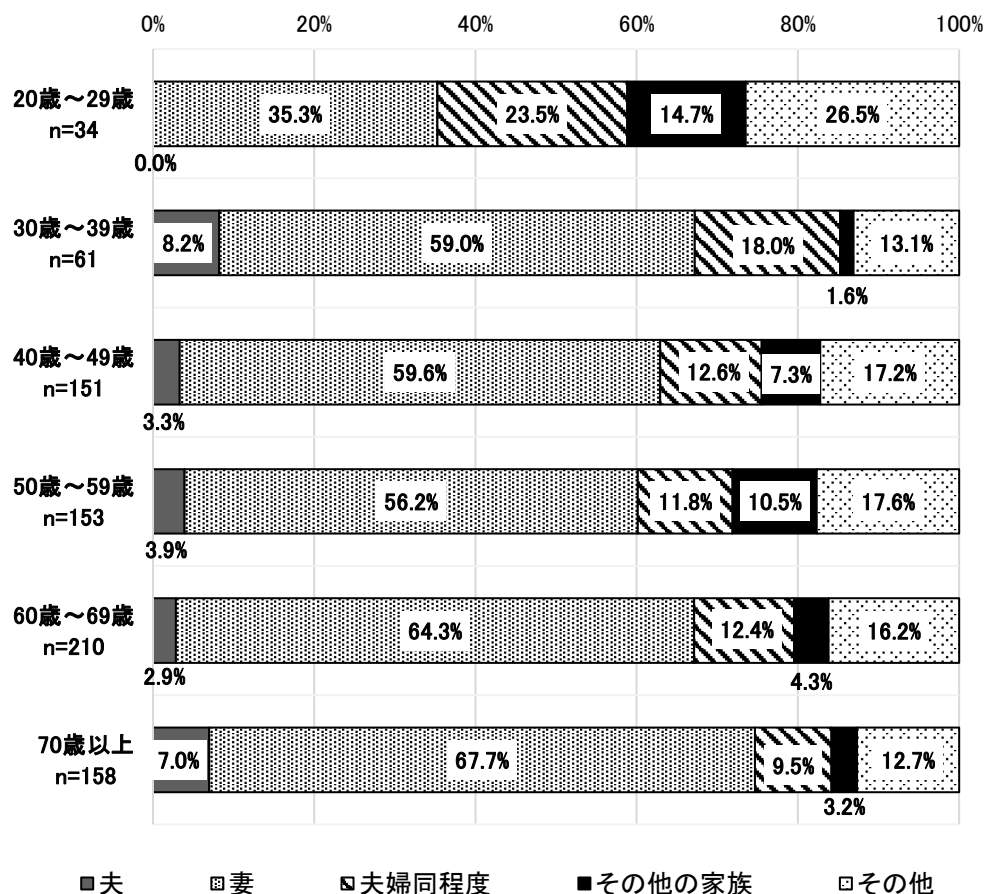
家庭内での家事の分担を年代別にみると、全ての分野で「妻」の分担している割合が高くなっています。「夫」の役割分担が高い分野は、「町内会や自治会への出席」、「ごみ出し」、「役所や銀行などへの用事」となっています。「町内会や自治会への出席」は60歳以上になると「夫」と「妻」の割合がほぼ同数になっています。

※グラフ中の「その他」は、その他（単身者等）、該当なし、無回答となっています。

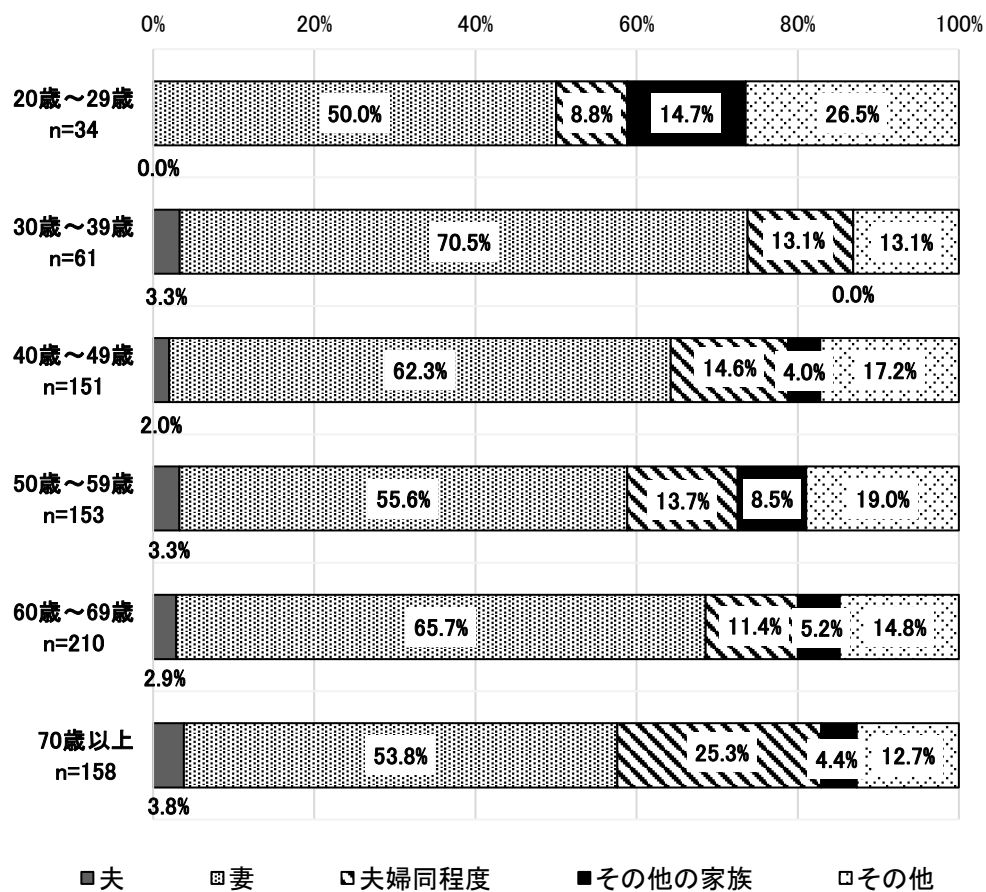
■ 食事のしたく



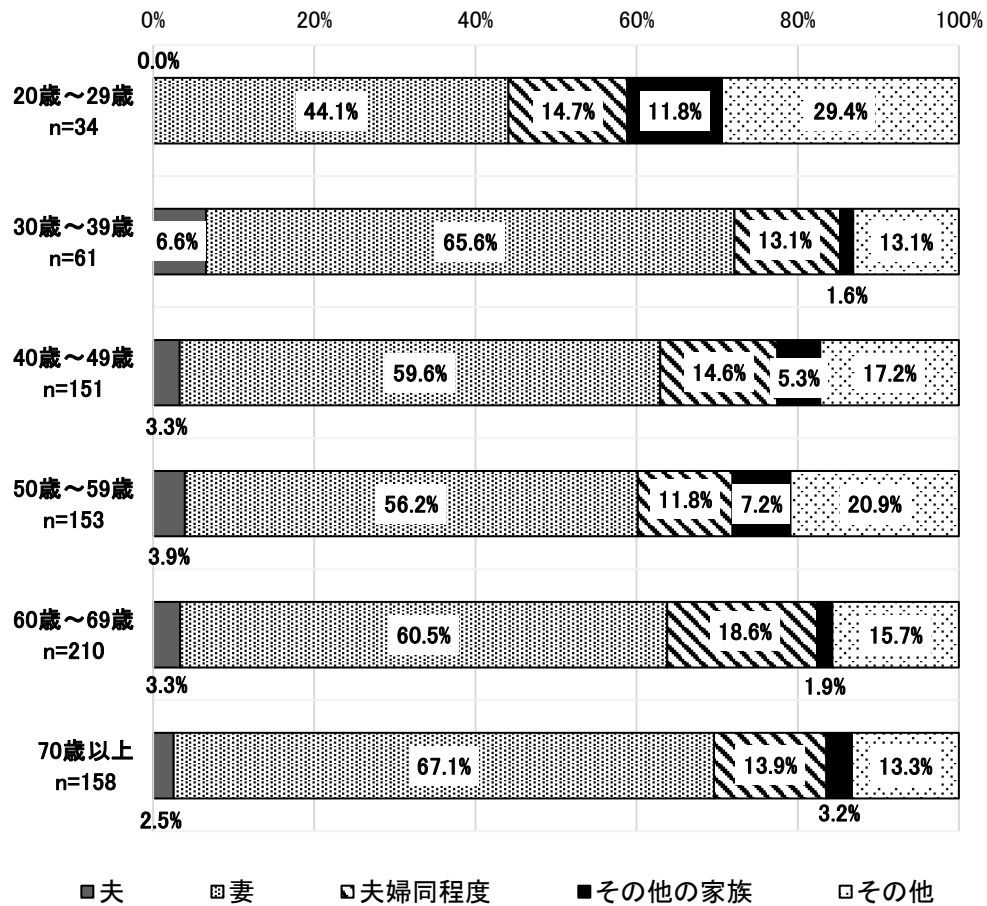
■ 食事の配膳、後片付け



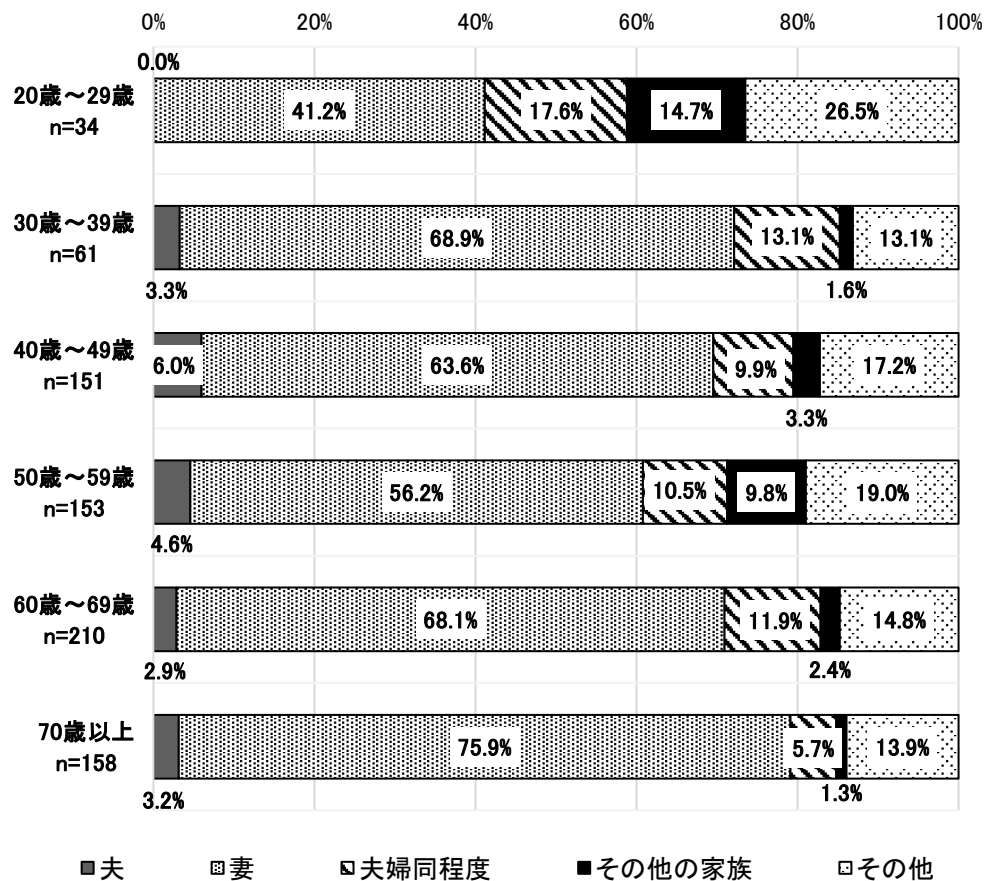
■ 日常の買い物



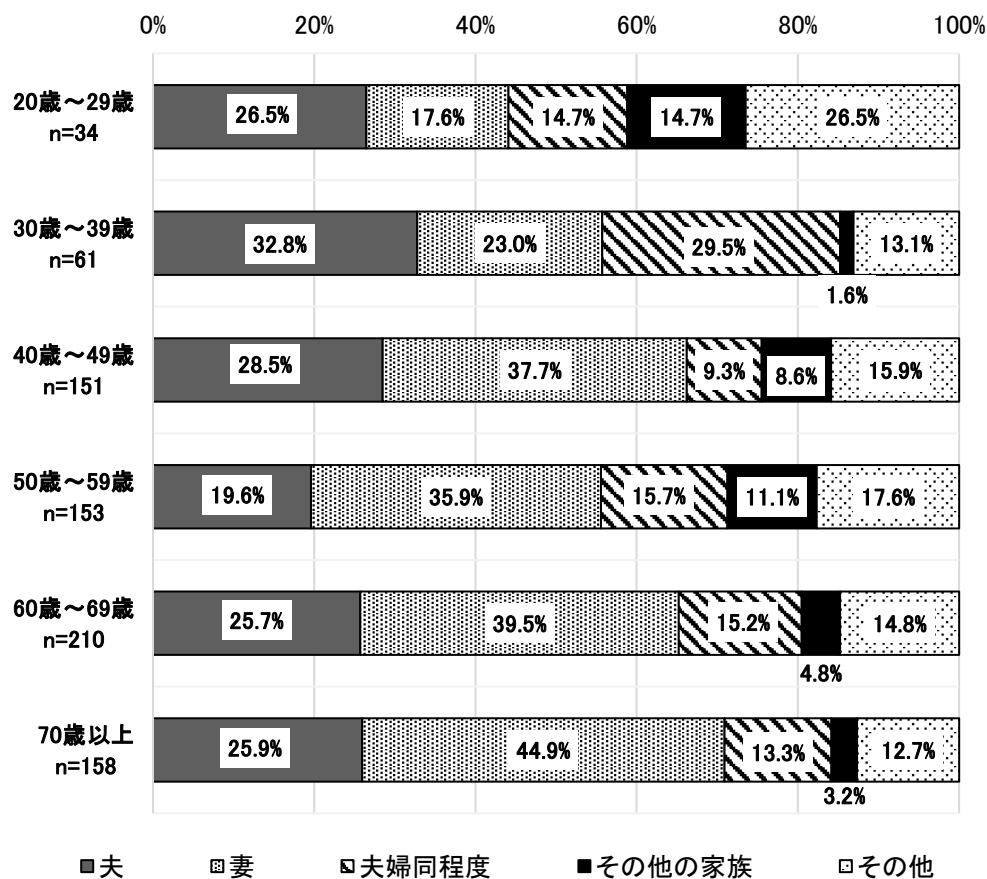
■ 掃除



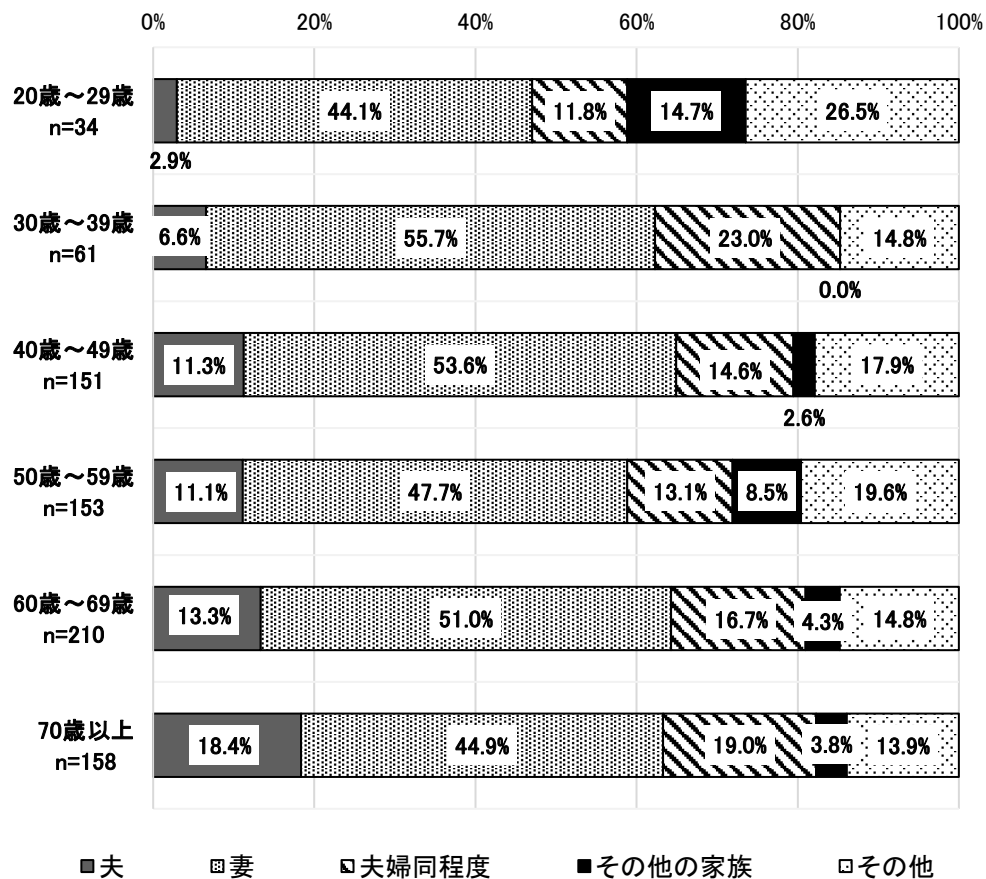
■ 洗濯



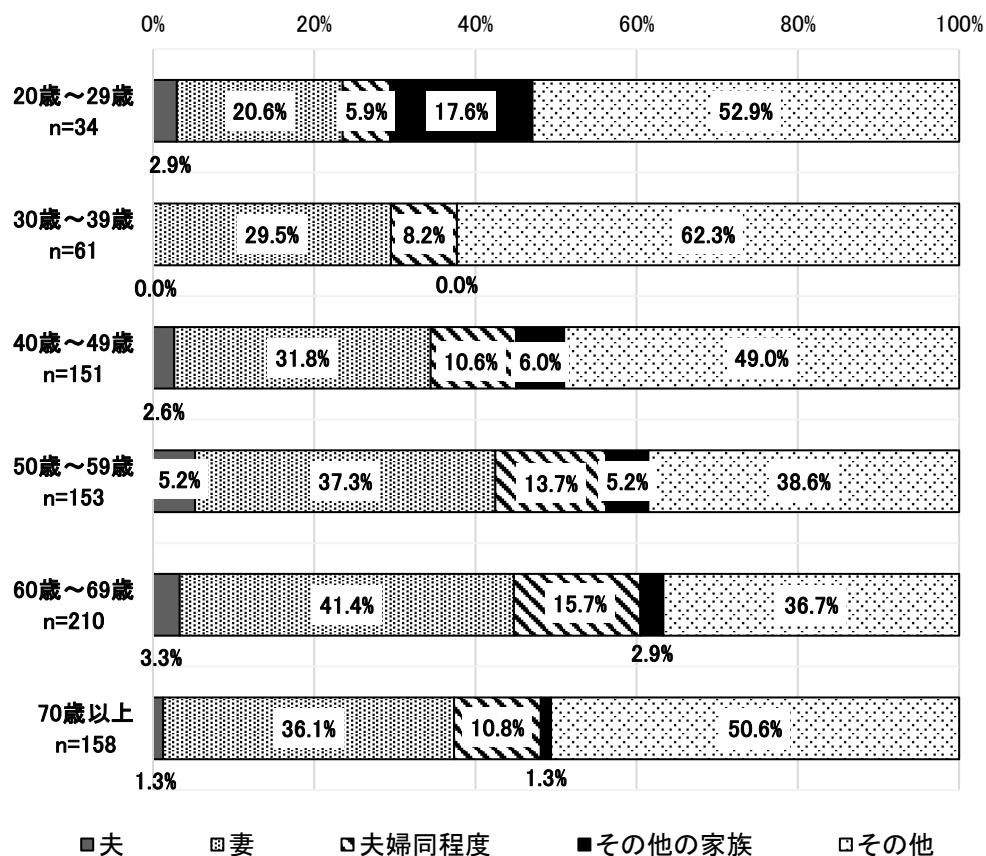
■ごみ出し



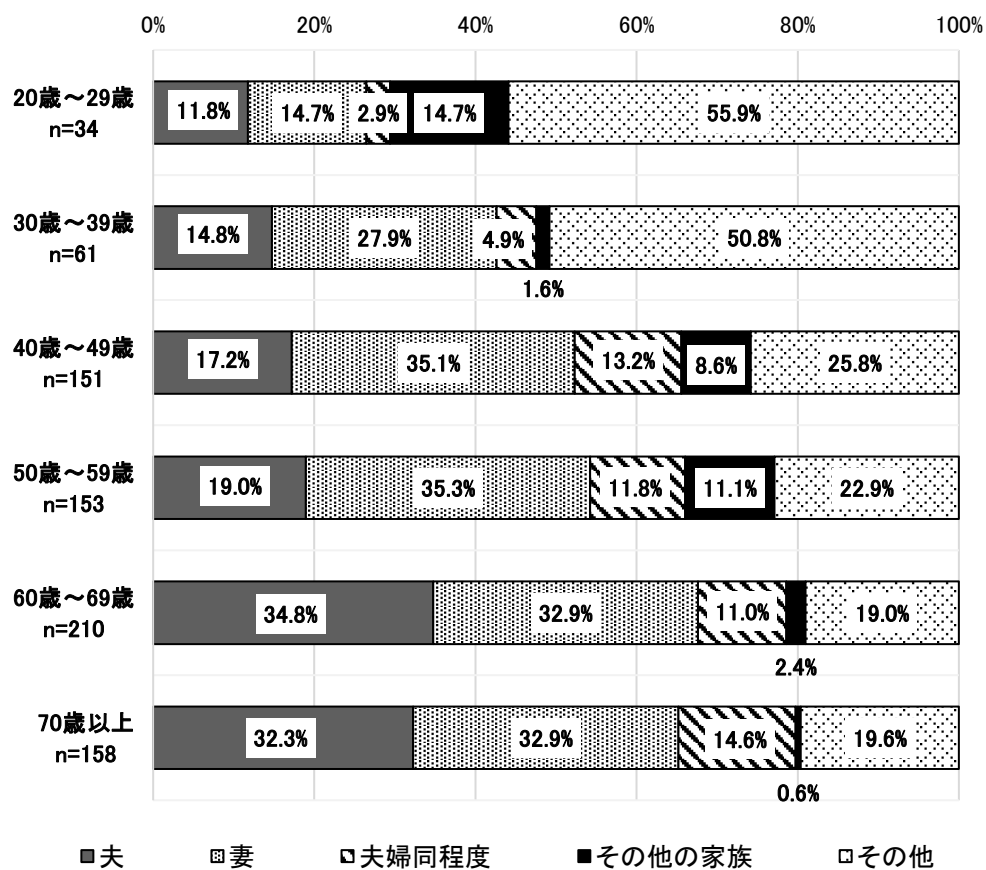
■役所や銀行などへの用事



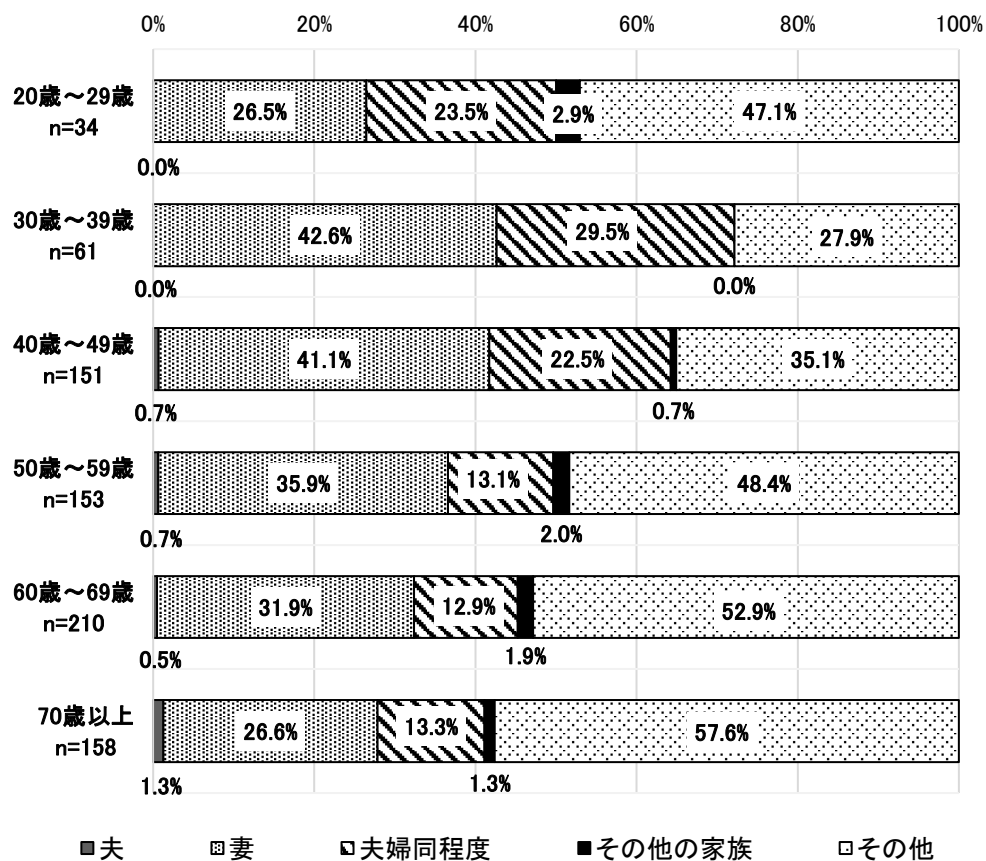
■ 高齢者や病人の世話



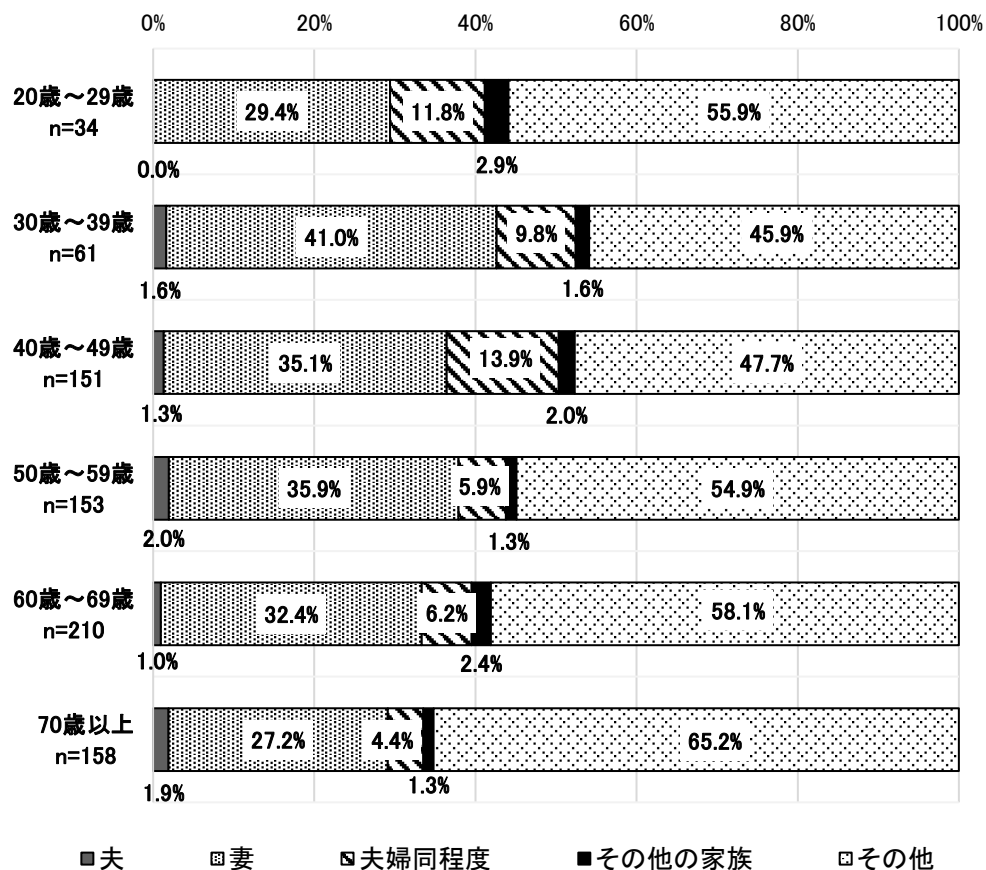
■ 町内会や自治会への出席



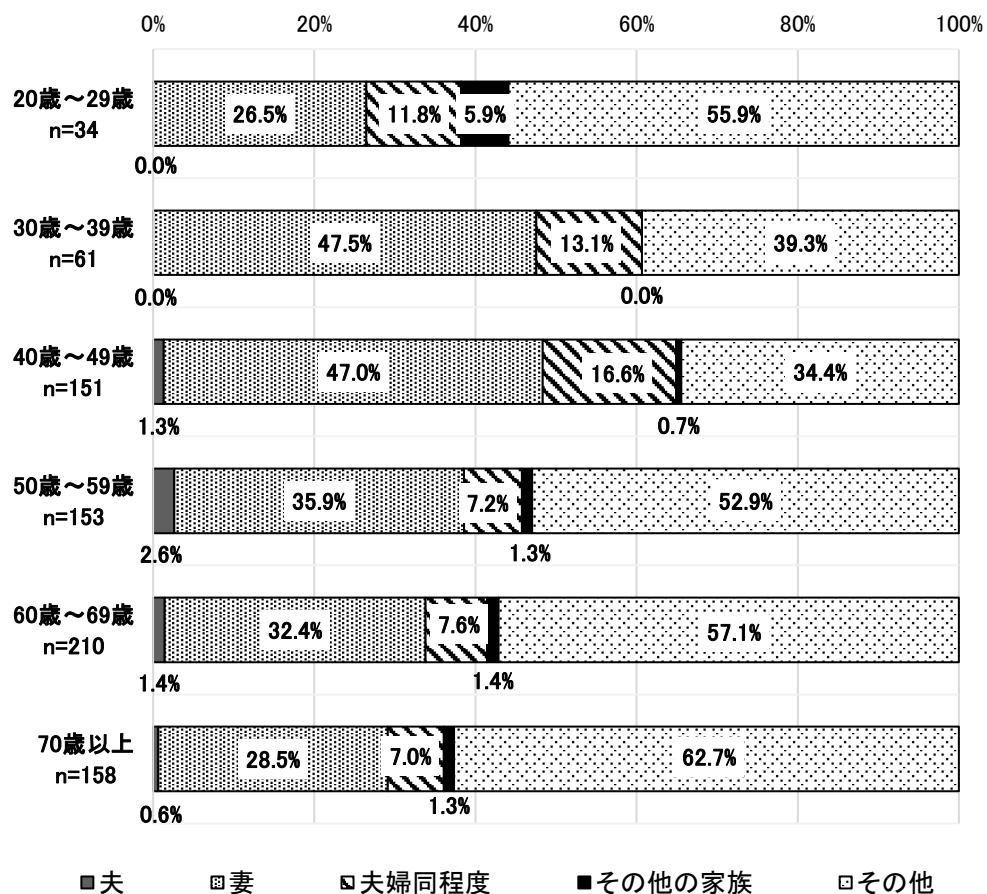
■乳幼児の世話・子どものしつけ



■保育園・幼稚園への送迎



■ 学校行事への参加



3 結婚・家庭について

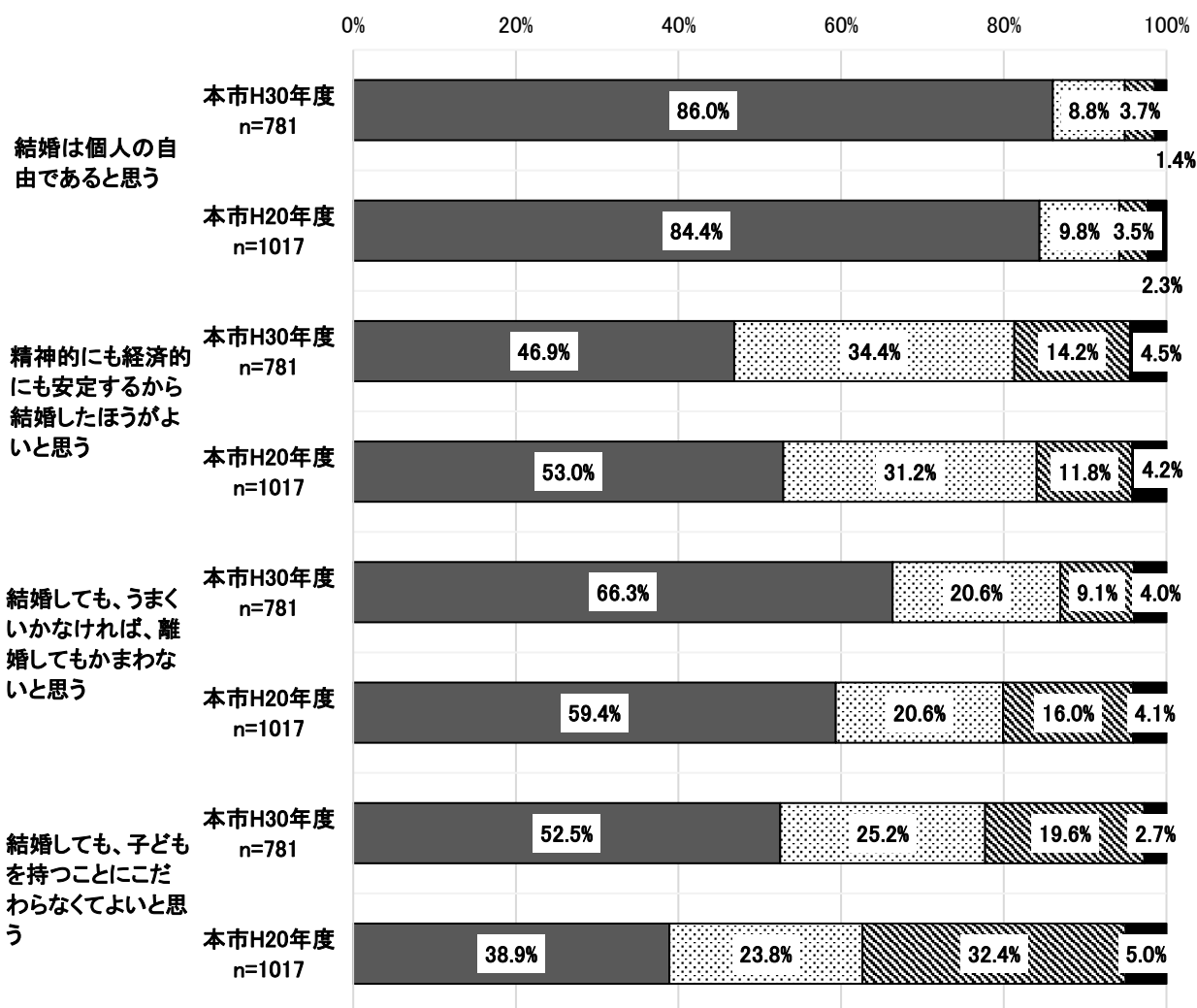
問4 結婚・家庭に関する次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

【1つに○】

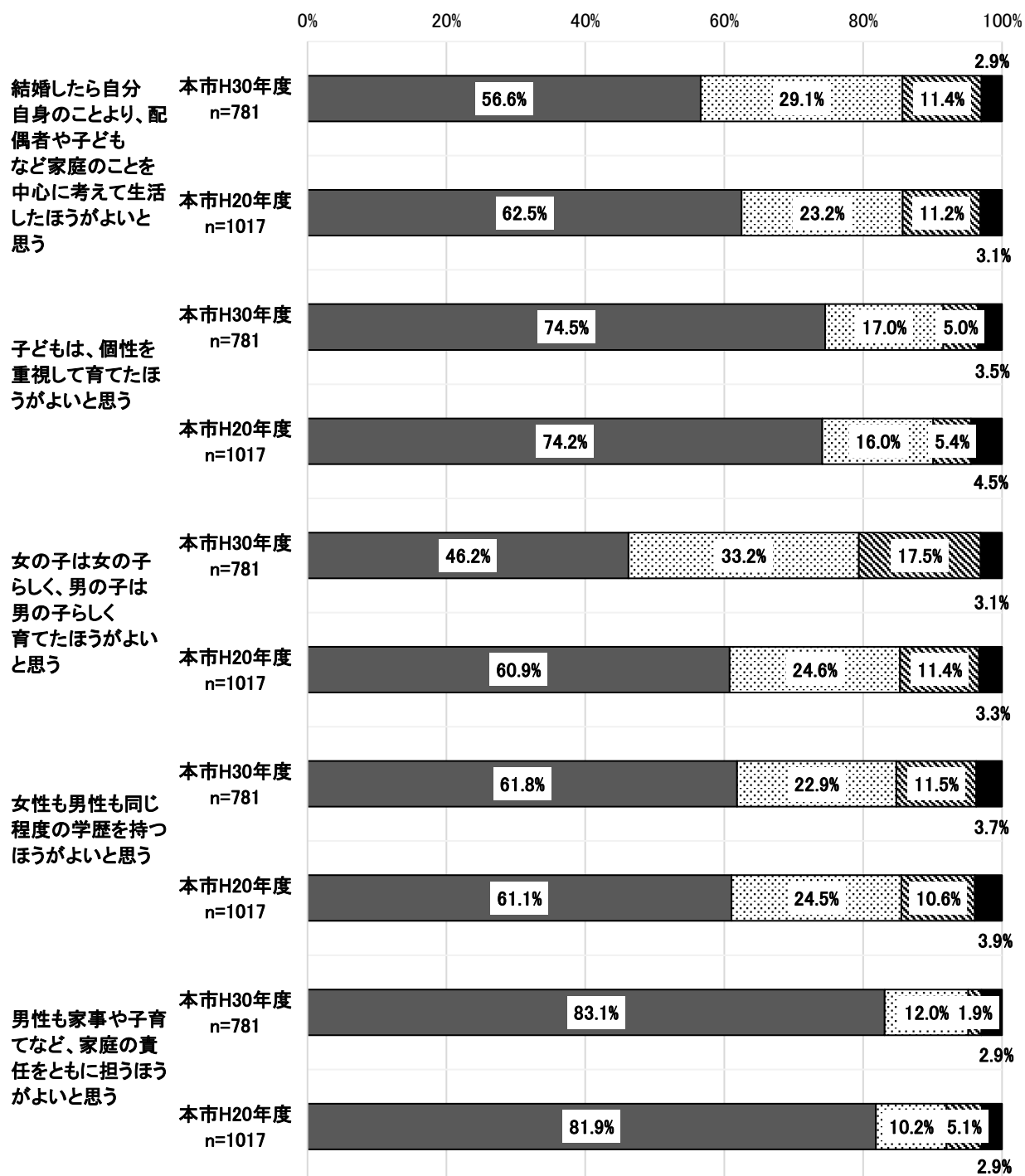
結婚・家庭に関する考え方についてをみると、全ての項目で賛同（そう思う・どちらかといえばそう思う）のほうが非賛同（どちらかといえばそう思わない・そう思わない）より多くなっています。賛同（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合が50%以下になる項目は、「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよいと思う」46.9%、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよいと思う」46.2%となっています。

平成20年度調査と比べると、意識が減少したものは、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよいと思う」が14.7ポイント減となっています。意識が増加したものは、「結婚しても、子どもを持つことにこだわらなくてよいと思う」が13.6ポイント増、「結婚しても、うまくいかなければ、離婚してもかまわないと思う」が6.9ポイント増となっています。

■結婚・家庭に関する考え方（今治市H20年度調査との比較）



■(どちらかといえば)そう思う □どちらともいえない ▨(どちらかといえば)そう思わない ■わからない・無回答



■ (どちらかといえば) そう思う □ どちらともいえない ▨ (どちらかといえば) そう思わない ■ わからない・無回答

【性別による比較】

結婚・家庭に関する考え方についてを性別にみると、賛同（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合に男女の意識差が出ているものは、

「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよいと思う」

→男性 56.3%、女性 38.3%、男女差 18 ポイント

「結婚しても、子どもを持つことにこだわらなくてよいと思う」

→男性 44.5%、女性 58.9%、男女差 14.4 ポイント

「結婚したら自分自身のことより、配偶者や子どもなど家庭のことを中心に考えて生活したほうがよいと思う」

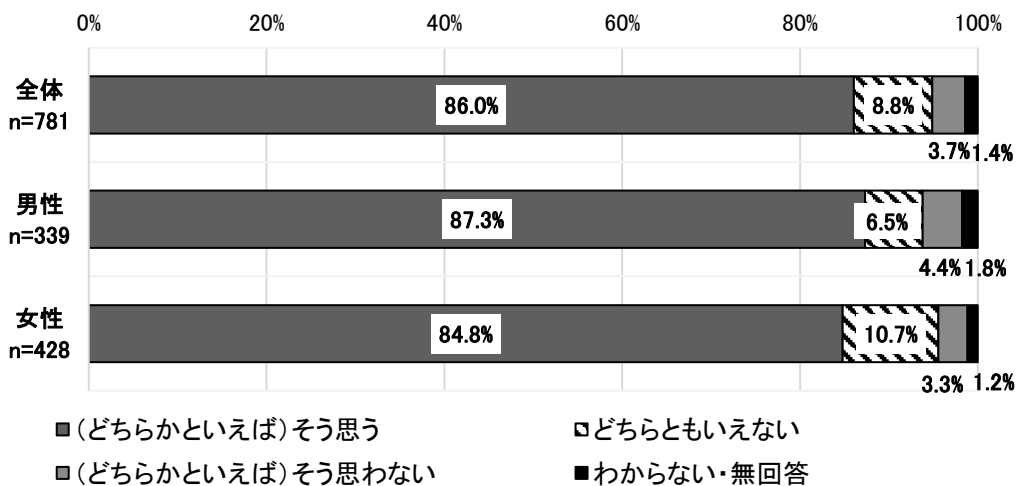
→男性 67.0%、女性 48.6%、男女差 18.4 ポイント

「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよいと思う」

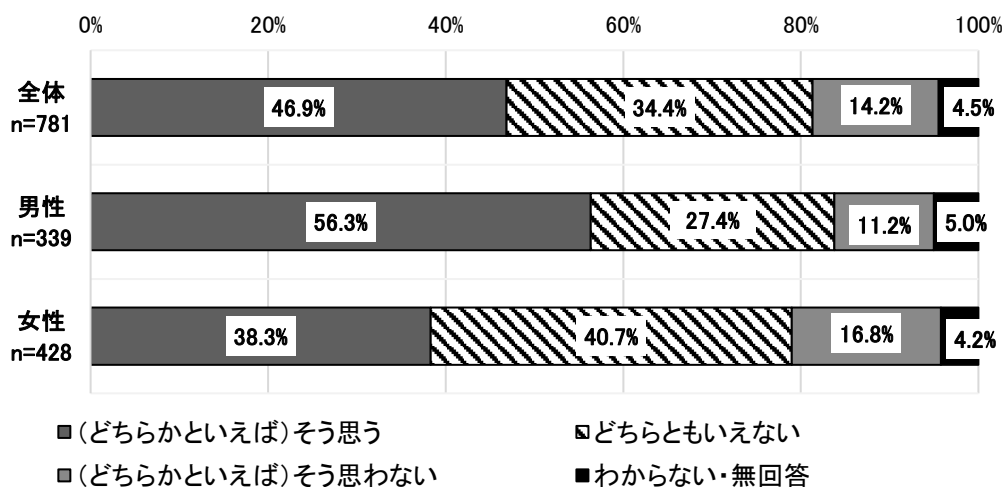
→男性 60.8%、女性 35.0%、男女差 25.8 ポイント

となっています。

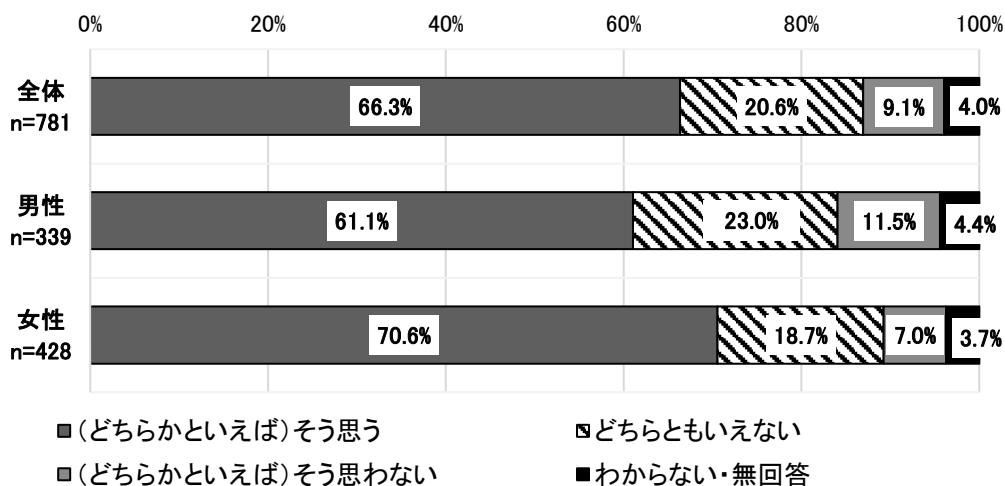
■結婚は個人の自由であると思う



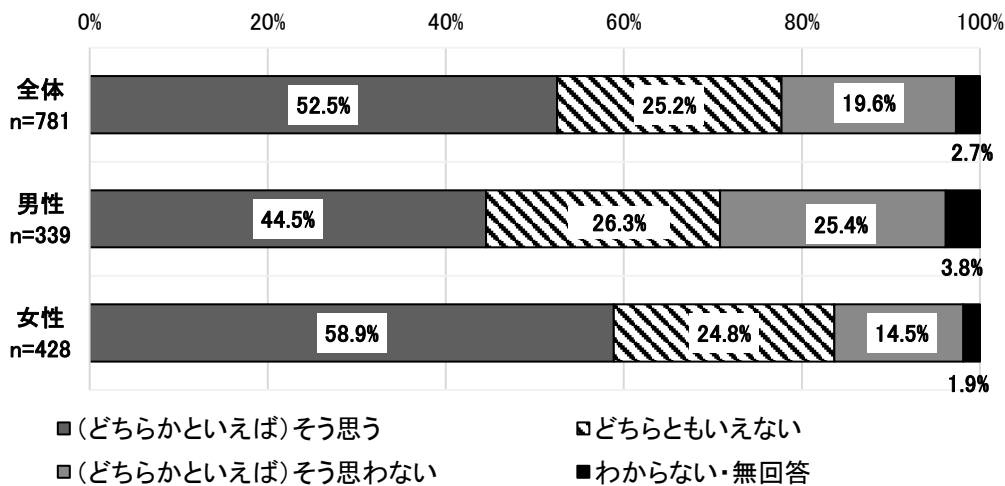
■精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよいと思う



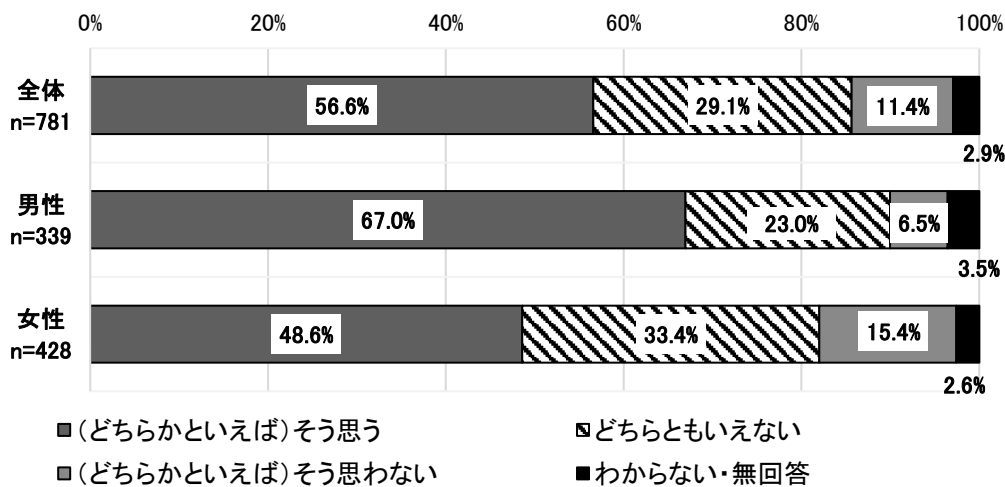
■結婚しても、うまくいかなければ、離婚してもかまわないと思う



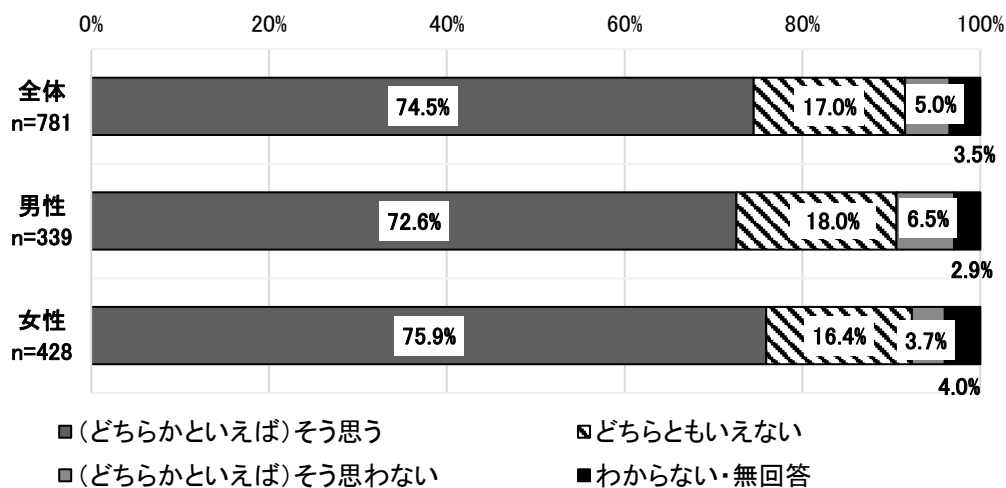
■結婚しても、子どもを持つことにこだわらなくてよいと思う



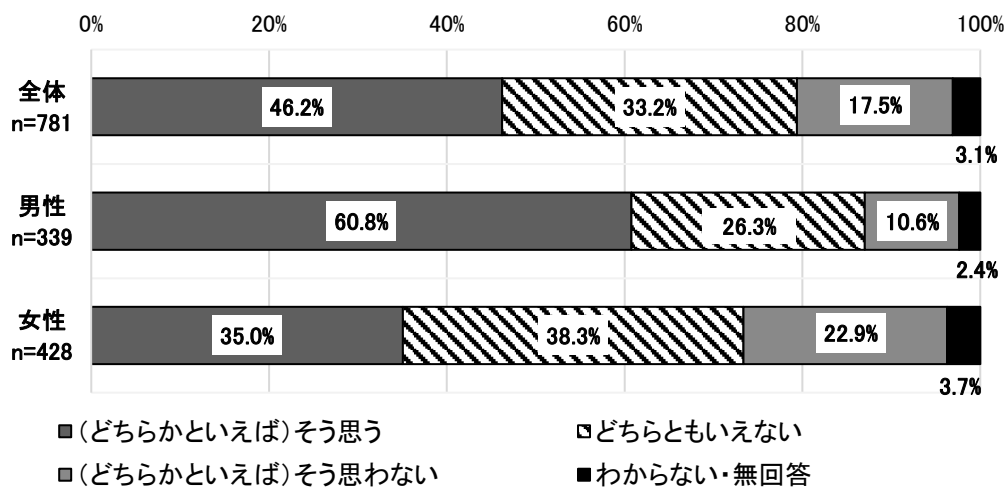
■結婚したら自分自身のことより、配偶者や子どもなど家庭のことを中心に考えて生活したほうがよいと思う



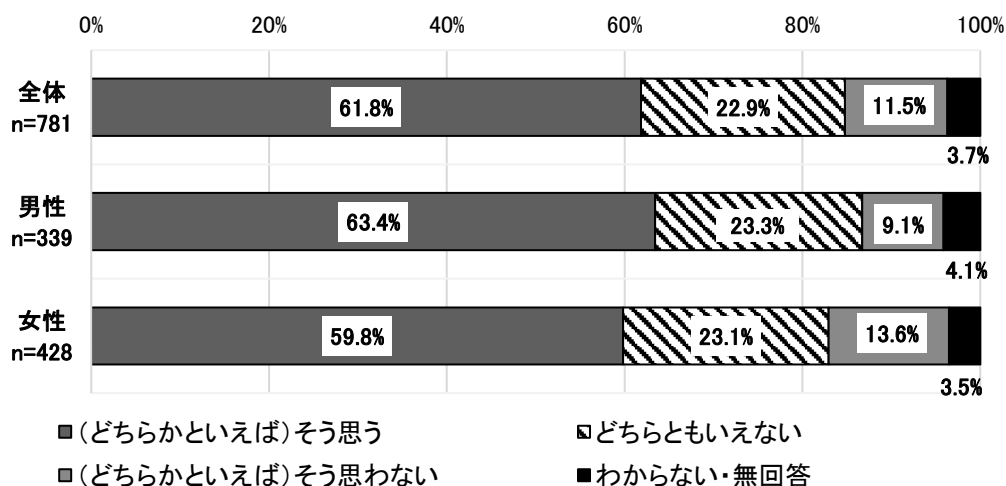
■子どもは、個性を重視して育てたほうがよいと思う



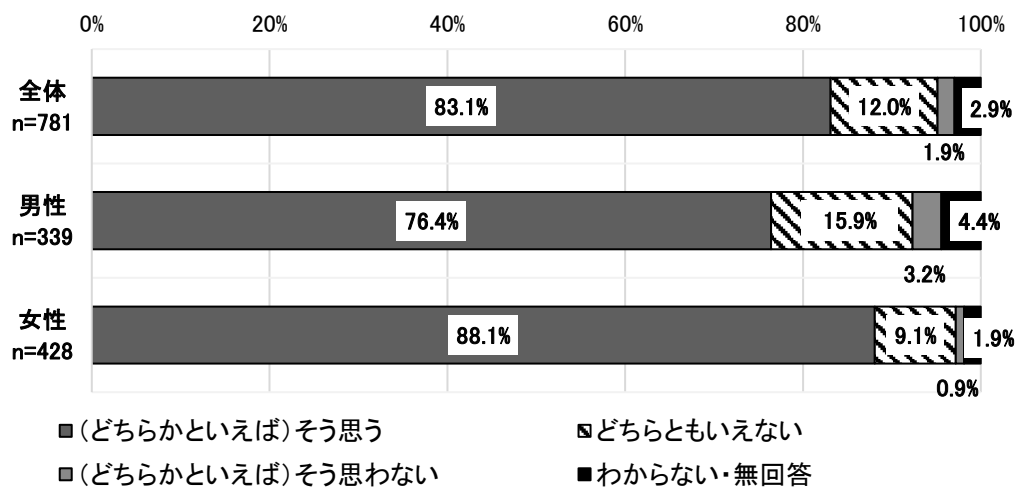
■女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよいと思う



■女性も男性も同じ程度の学歴を持つほうがよいと思う



■ 男性も家事や子育てなど、家庭の責任をともに担うほうがよいと思う



【年齢別による比較】

結婚・家庭に関する考え方についてを年齢別にみると、賛同（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合が、年齢が高くなると減少するものは、

「結婚は個人の自由であると思う」

「結婚しても、うまくいかなければ、離婚してもかまわないと思う」

「結婚しても、子どもを持つことにこだわらなくてもよいと思う」

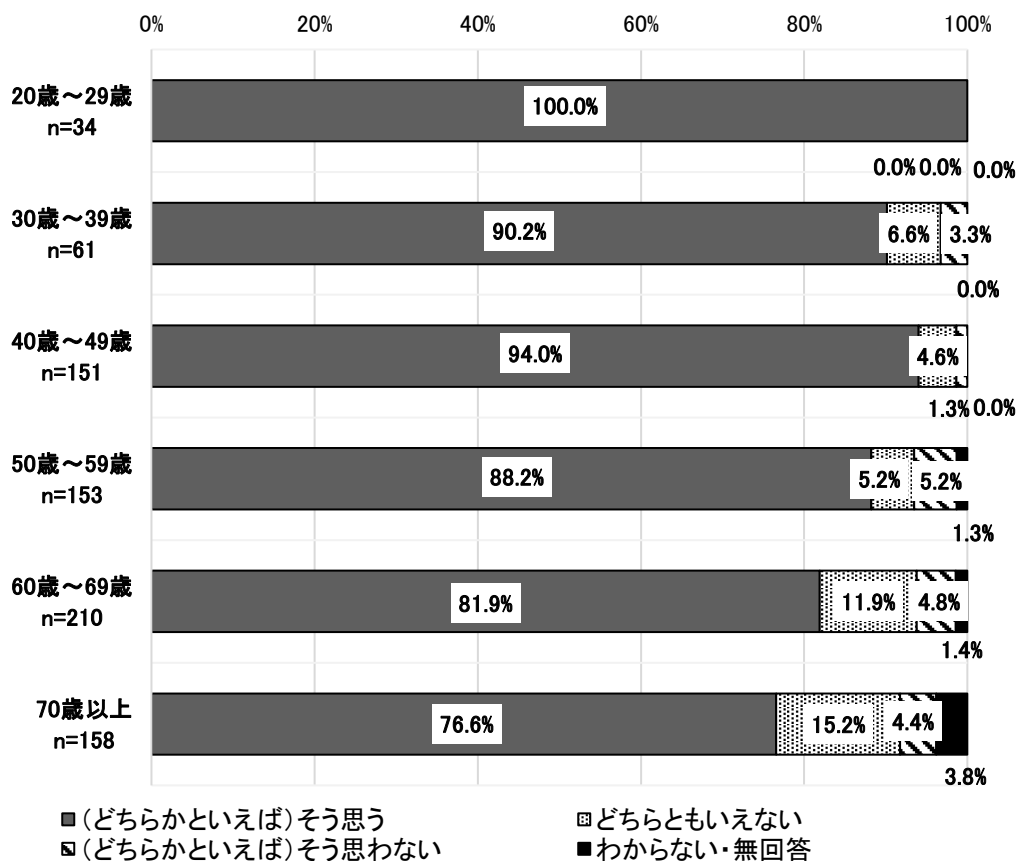
賛同（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合が、年齢が高くなると増加するものは、

「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよいと思う」

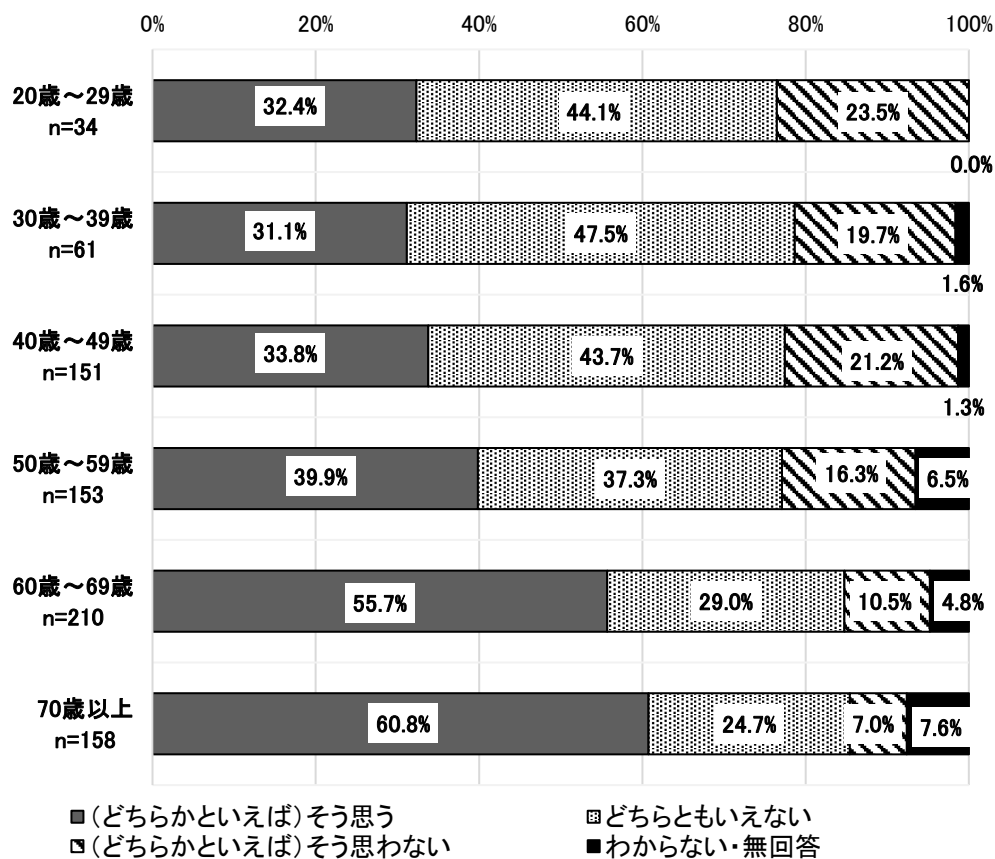
「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよいと思う」

となっています。

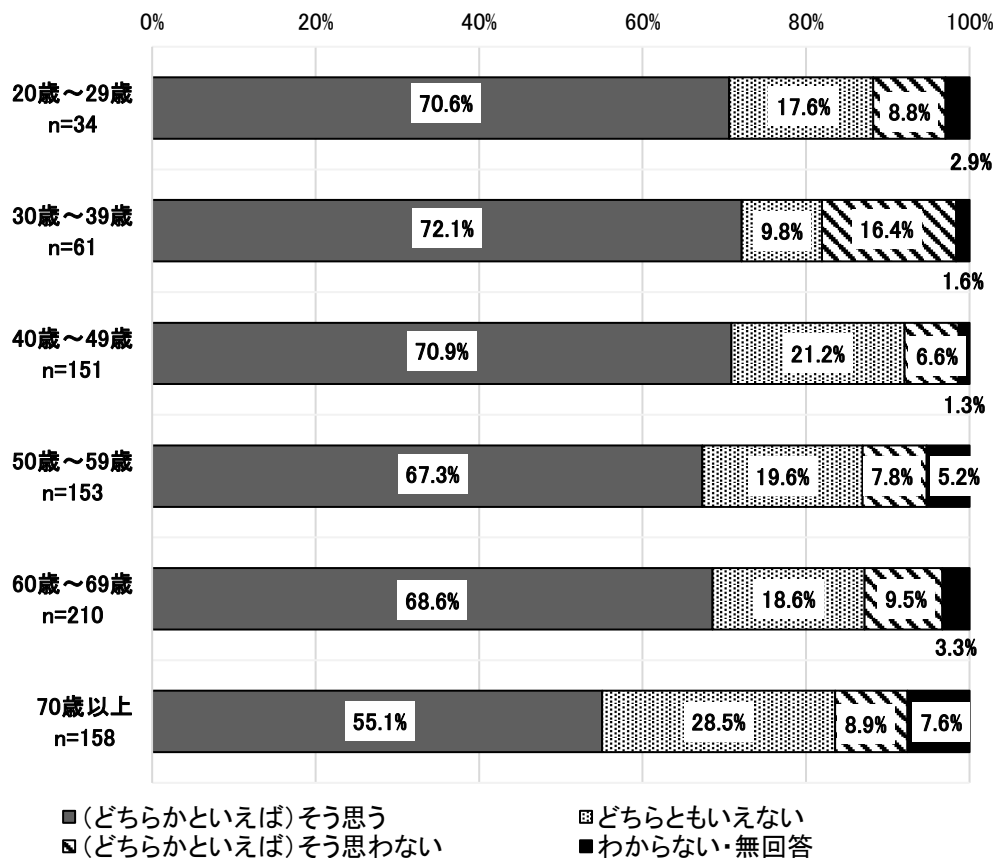
■結婚は個人の自由であると思う



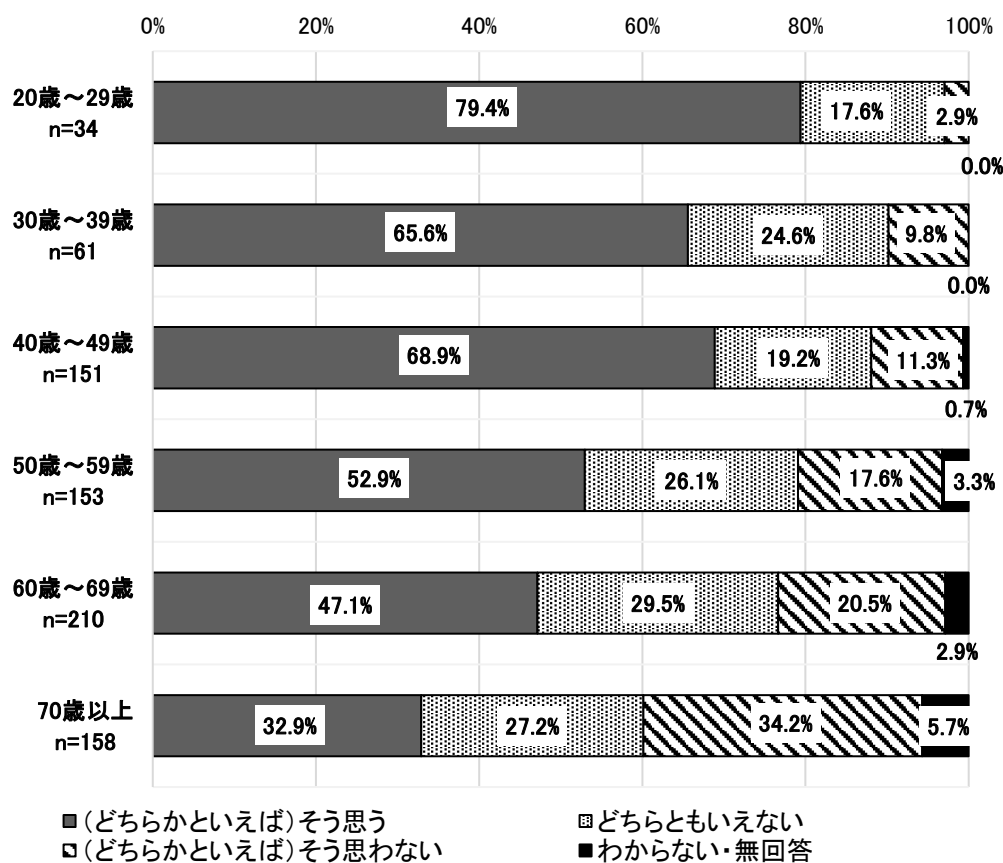
■精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよいと思う



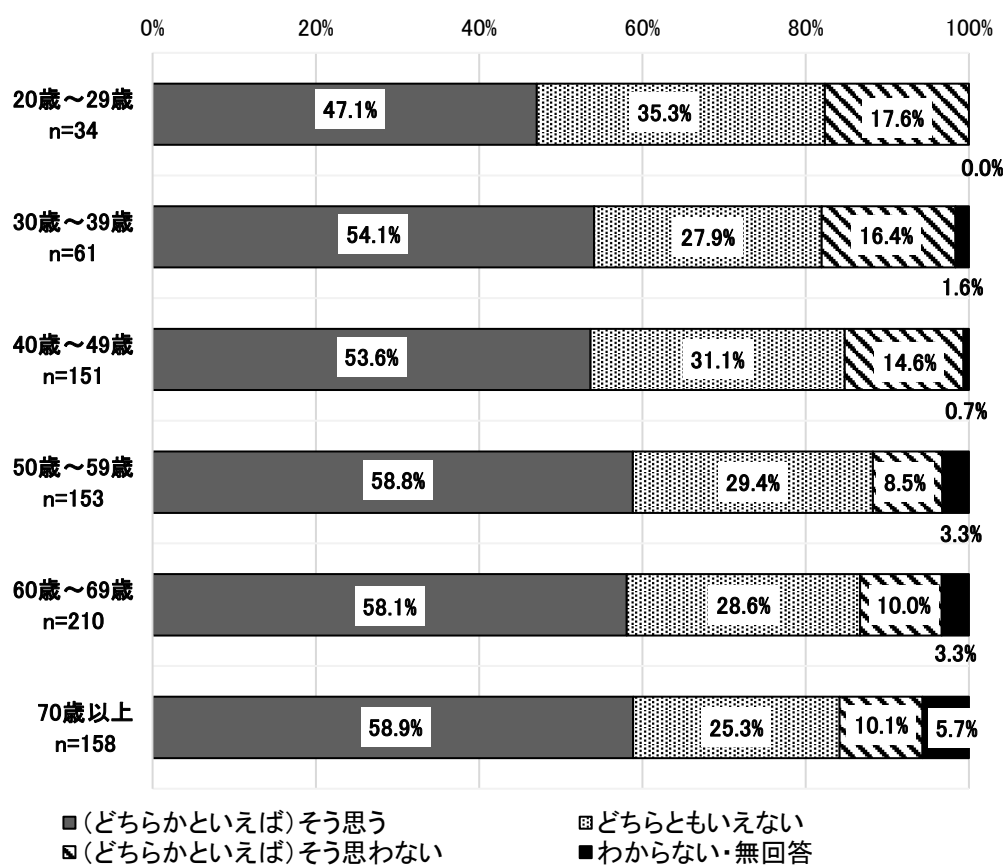
■結婚しても、うまくいかなければ、離婚してもかまわないと思う



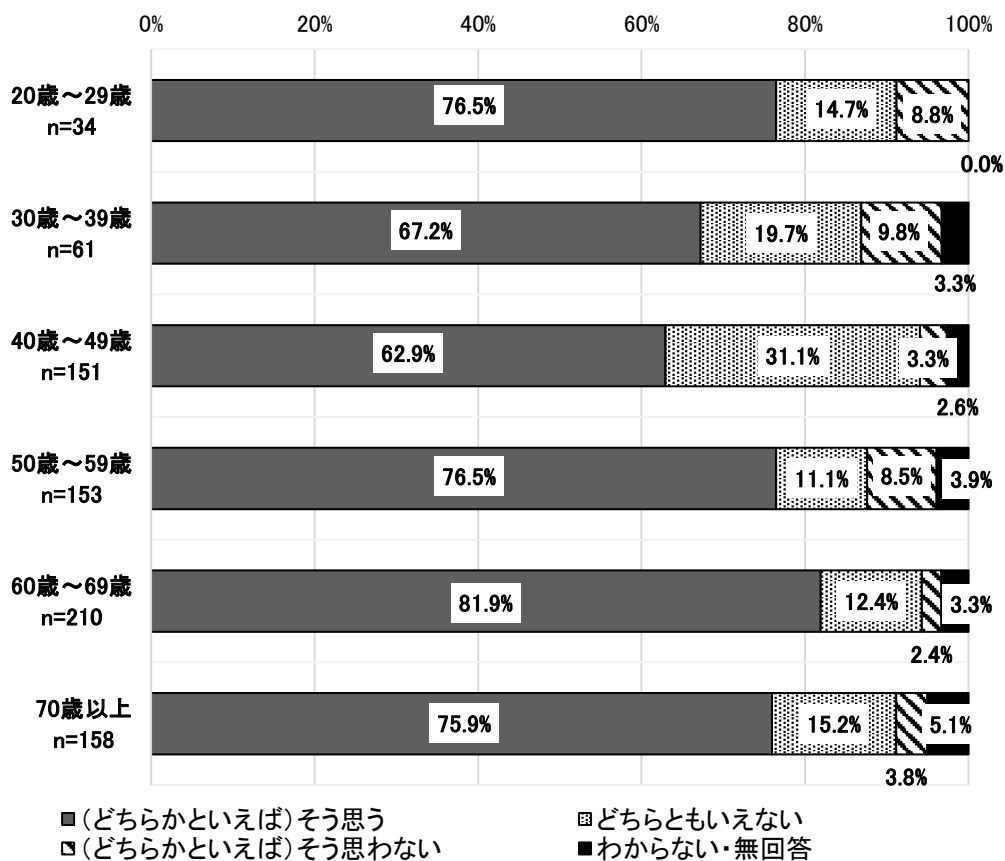
■結婚しても、子どもを持つことにこだわらなくてよいと思う



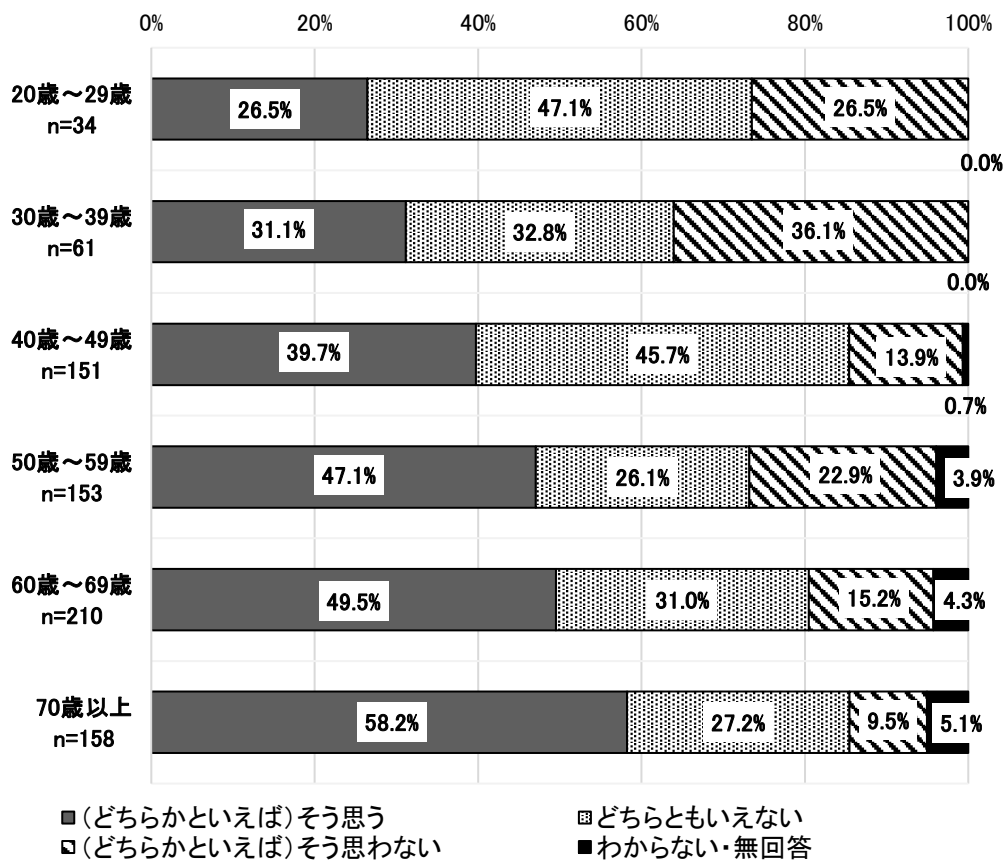
■結婚したら自分自身のことより、配偶者や子どもなど家庭のことを中心に考えて生活したほうがよいと思う



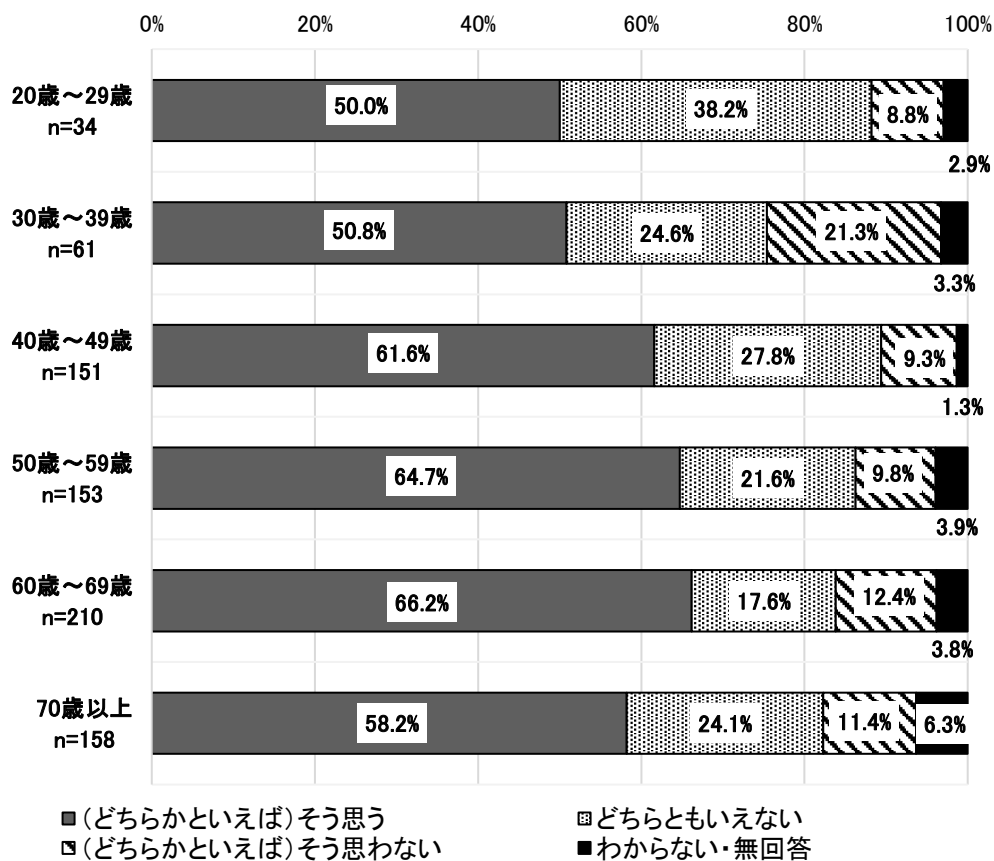
■子どもは、個性を重視して育てたほうがよいと思う



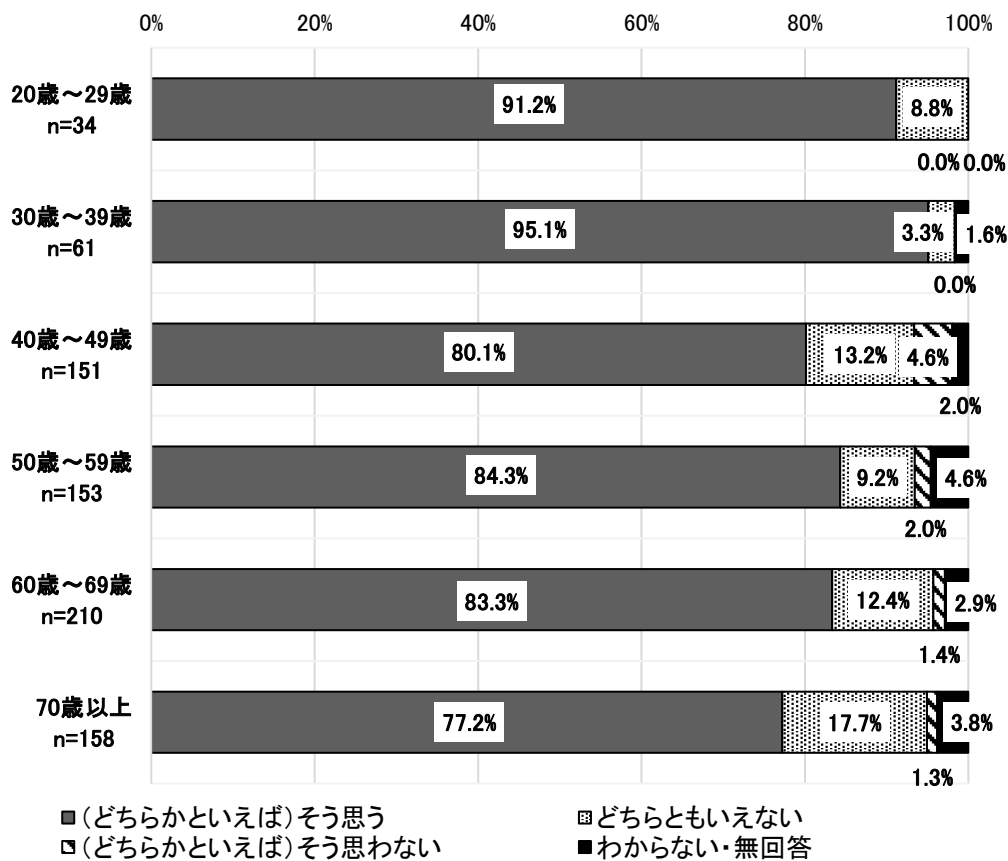
■女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよいと思う



■ 女性も男性も同じ程度の学歴を持つほうがよいと思う



■ 男性も家事や子育てなど、家庭の責任をともに担うほうがよいと思う



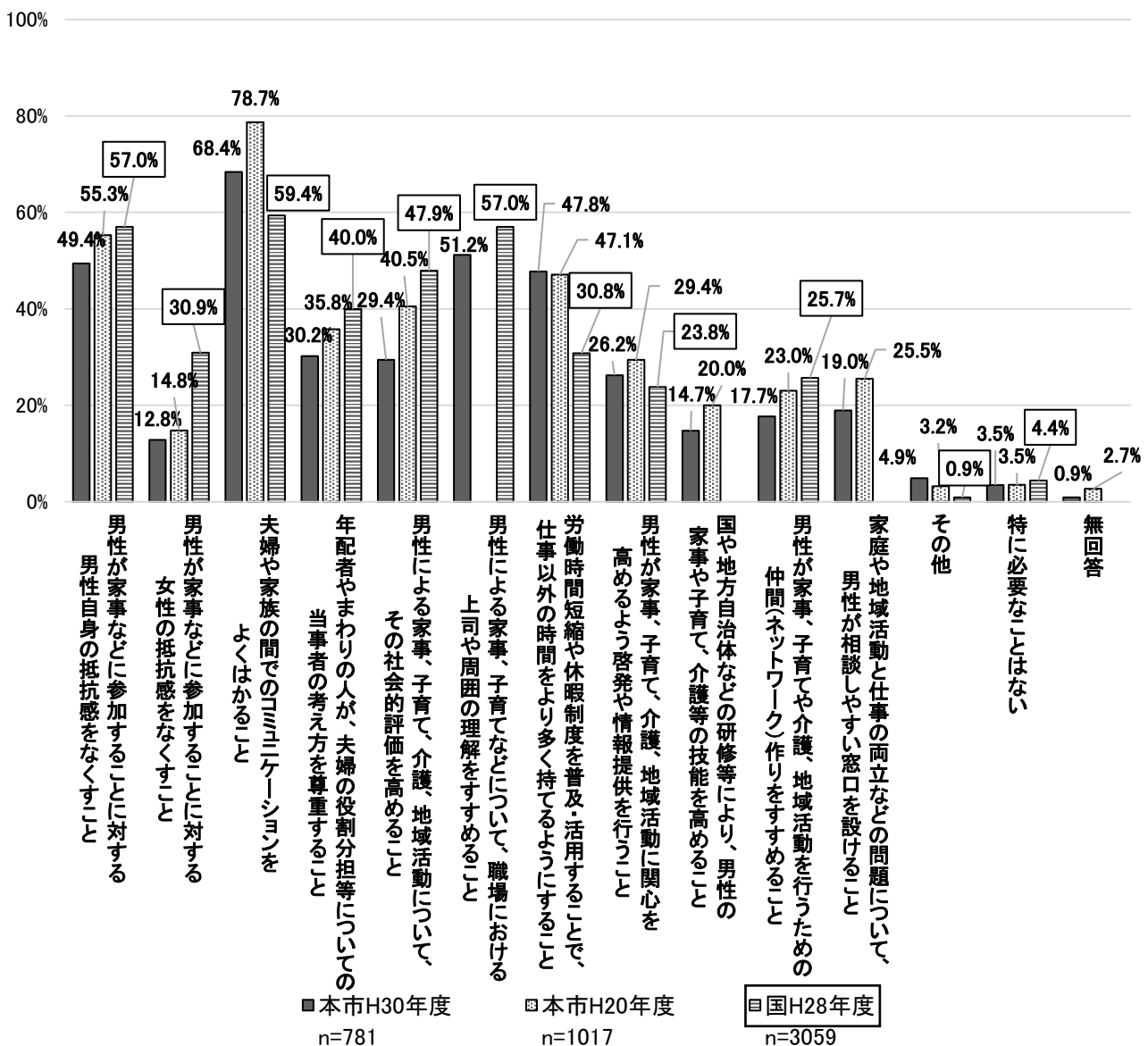
4 生活と社会活動について

問5 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【5つ以内に○】

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことをみると、上位から「夫婦や家族の間でのコミュニケーションをよくはかること」68.4%、「男性による家事、子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解をすすめること」51.2%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすること」49.4%となっています。

平成20年度調査と比べると、「労働時間短縮や休暇制度を普及・活用することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」を除いて、全ての項目で割合が低くなっています。

■男性が女性とともに家事等に積極的に参加していくために必要なこと
(今治市 H20 年度調査・国 H28 年度調査との比較)



○その他の回答（34 件）

■女性（30 代）

- ・質問自体が男尊女卑になっている。（会社員・団体職員・公務員）
- ・それ自体がやりがいもあり楽しいものだという認知度が高まり、性別関係なく取り組む風習が広まればおのずと広まると思う。（会社員・団体職員・公務員）
- ・男性による家事、子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を高めたいが、それによって給料が減るのであれば、生活していけなくなるのでそこは考えてしまうところ。

（家事専業）

■男性（30 代）

- ・男女どちらかが、育児休暇取得を義務化とする、若しくは、被取得者は特別地域振興券（金券）等を配布する。日用品の買物等で、男性割引日を設ける。地域ニュース、地域情報誌等での男性家事情報、子育て情報の紹介。（会社員・団体職員・公務員）
- ・経済の安定、収入の安定。（会社員・団体職員・公務員）

■女性（40 代）

- ・相談する窓口を夜間平日に設けること。（会社員・団体職員・公務員）
- ・男性が家事等に参加すること自体いいかどうかは家庭によって異なると思うので、地方自治体等がその為の環境作りをすることには疑問を感じる。（会社員・団体職員・公務員）
- ・男女問わず、精神面の成熟が必要。（会社員・団体職員・公務員）
- ・安定した収入がなければ、夫が家の事を手伝うなどできないと思う。企業が理解を深めなければ、どうにもならない問題ではないかと思う。（パート、アルバイト、派遣など）

■男性（40 代）

- ・経済的に余裕があれば、仕事も休め子育て家事ができるように思う。
（会社員・団体職員・公務員）
- ・やる気。（会社員・団体職員・公務員）
- ・男性が上記に参加する為には時間と金銭面での余裕があるかどうかが大きく影響するのでは…その辺の改善は地方行政ではどうにもできない気がする。（会社員・団体職員・公務員）
- ・男女間の賃金格差をなくす。（会社員・団体職員・公務員）

■女性（50 代）

- ・男性本人、自身のやる気のなさ、考え方の違い、抵抗感がありすぎる。何をしても参加しないと思う。（会社員・団体職員・公務員）
- ・それぞれの家庭によって事情はちがうと思う。（会社員・団体職員・公務員）

■男性（50 代）

- ・男は仕事の時間が長く家事ができない。（会社員・団体職員・公務員）
- ・本人の意識。（会社員・団体職員・公務員）
- ・それぞれが理解し話し合い進めていく。（自営業（農林業含む）・自由業）

■女性（60 代）

- ・もともと男性と女性は体格・体力など違いがあるので、仕事で男性が時間を使っているぶん、女性が考慮して個々の家庭での分担が必要と思う。なんでも！かんでも！が男女平等とは思っていない。（家事専業）
- ・双方の両親や兄弟等の理解も要る。夫が手伝うと嫁が家事や育児をするものだという考えでは夫もしなくなる。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・伊予銀行のように、病院内にも、大企業はもちろん、公務員も、独自に保育所や保育室を作る。学校は何校かに1つ保育所を!!保育の資格を持った方は、自分の子も同じ職場で預けられる!!
（無職）
- ・子どもの頃から男女ともに平等に生活するとゆう事を、あたり前のこととして教育する。（無職）
- ・家族が仲良くする、できるように生活する。（無職）

■男性（60 代）

- ・公務員・大企業ほどの休暇制度（育休含む）を国全体に広げること。
（会社員・団体職員・公務員）
- ・男女共にお互いが活動に参加する様進めること。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・自分自身が家事・子育て・介護を好きになる。（その他）

■女性（70代）

- ・男女共に地域のメンバーとして地域活動に参加する必要があると思う。お金のための仕事ではなく幅広く社会人として生きて欲しい。（文化・スポーツ、あらゆる面で）生活の中にバランスが必要。（家事専業）
- ・その人の性格だと思う。（家事専業）
- ・強要するのではなく、本人の自覚次第だと思う。（家事専業）
- ・子供の時から学校生活で男女平等の教育を受ける。（無職）
- ・時と場合によって助け合う気持ちを育てること。（その他）

■男性（70代）

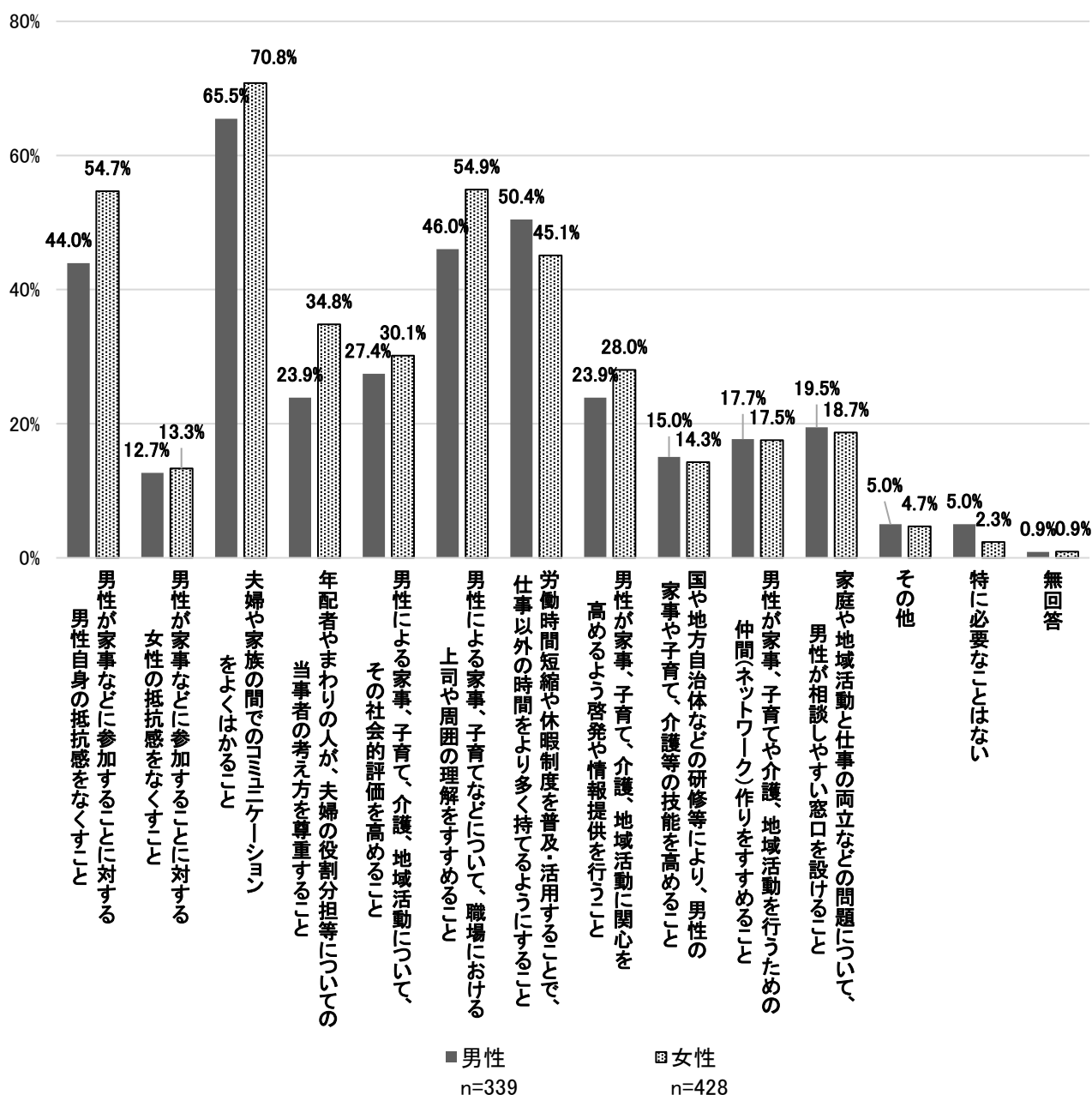
- ・夫婦で話し合ってやればいい。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・民間企業・自由業の場合、仕事と家庭内のことは両立できない。公務員の考えであって現状とはかけ離れている。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・両親が手本を見せればよい。（自営業（農林業含む）・自由業）

【性別による比較】

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことを性別にみると、意識差があるものは、

「労働時間短縮や休暇制度を普及・活用することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が5.3ポイント差で男性の方が高く、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」が10.9ポイント差で女性の方が高くなっています。

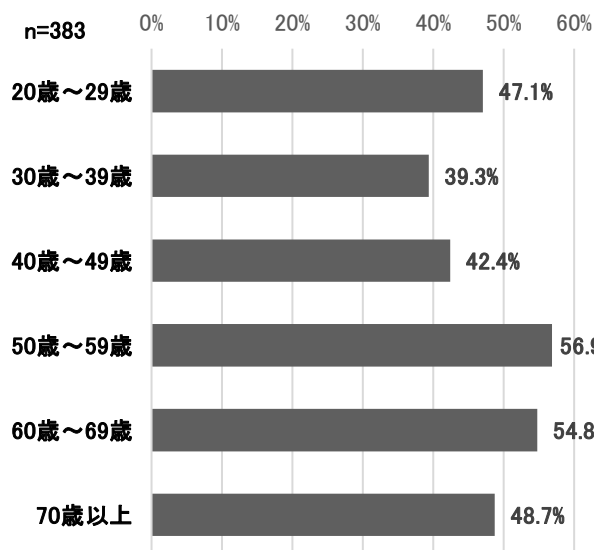
■男性が女性とともに家事等に積極的に参加していくために必要なこと



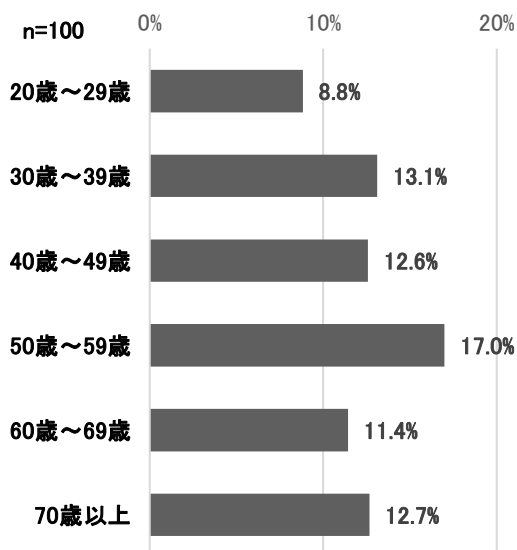
【年齢別による比較】

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことを年齢別にみると、ばらつきはあるものの、「男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その社会的評価を高めること」、「男性による家事、子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解をすすめること」、「労働時間短縮や休暇制度を普及・活用することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」、は年齢が高くなるほど意識が低くなっています。「男性による家事、子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解をすすめること」の20歳代と70歳以上の意識差が35.4ポイントとなっています。

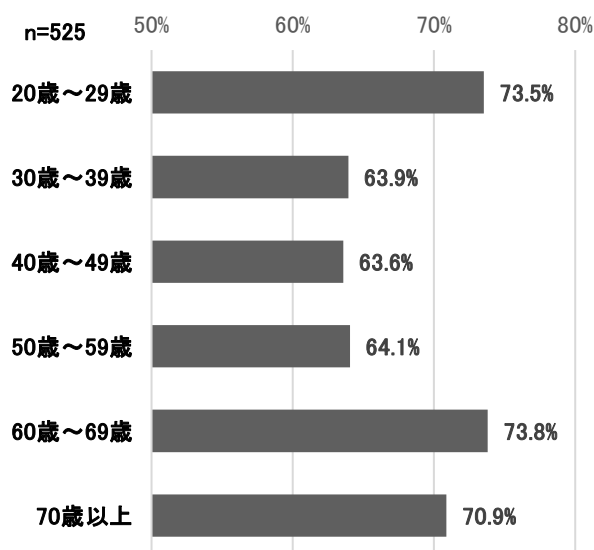
■ 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと



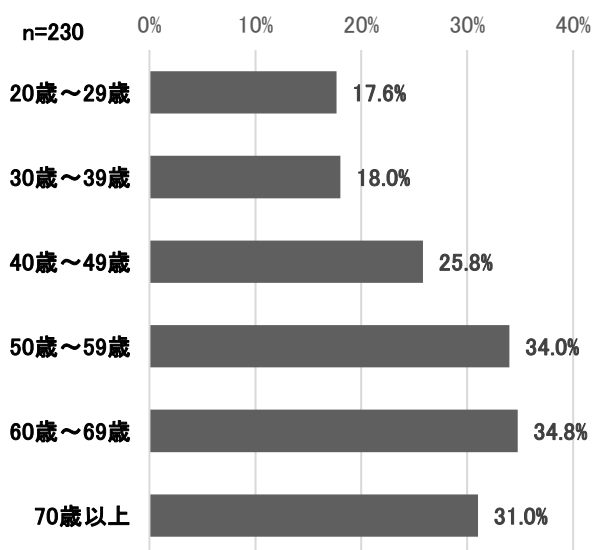
■ 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと



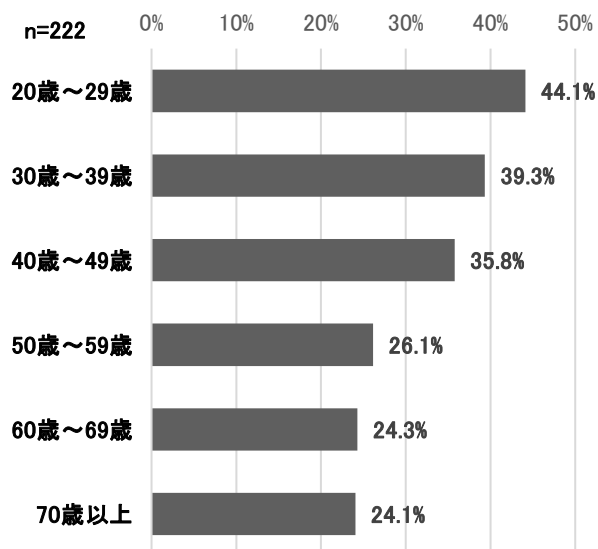
■ 夫婦や家族の間でのコミュニケーションをよくはかること



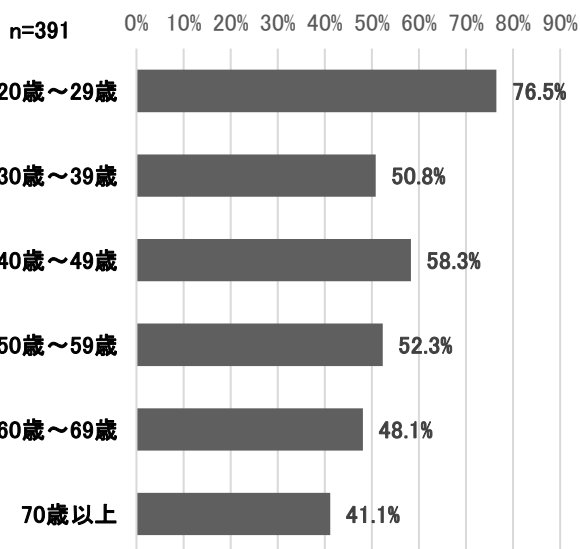
■ 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること



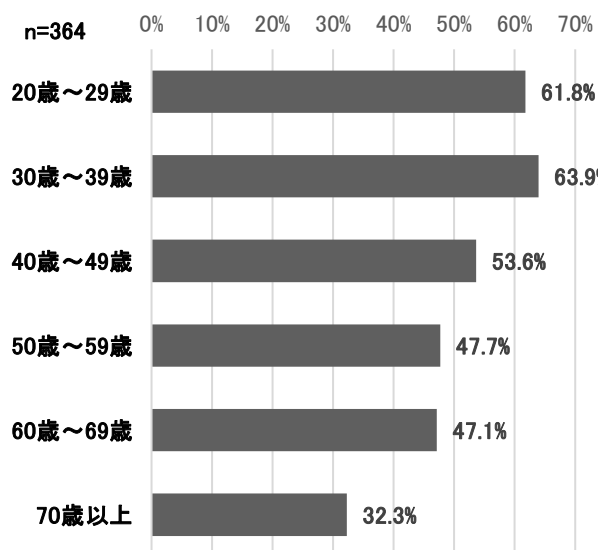
■男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その社会的評価を高めること



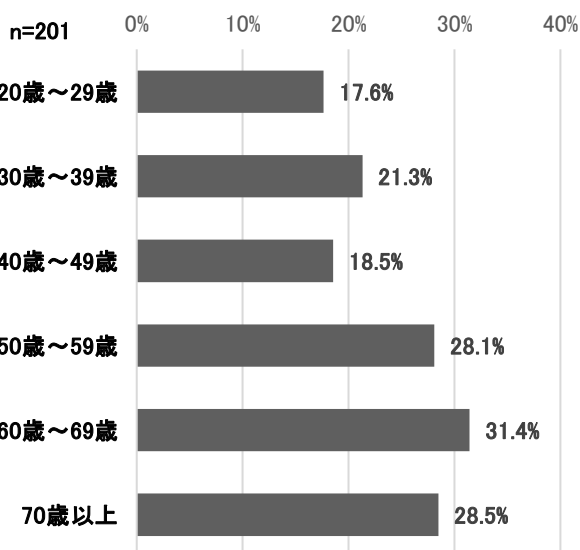
■男性による家事、子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解をすすめること



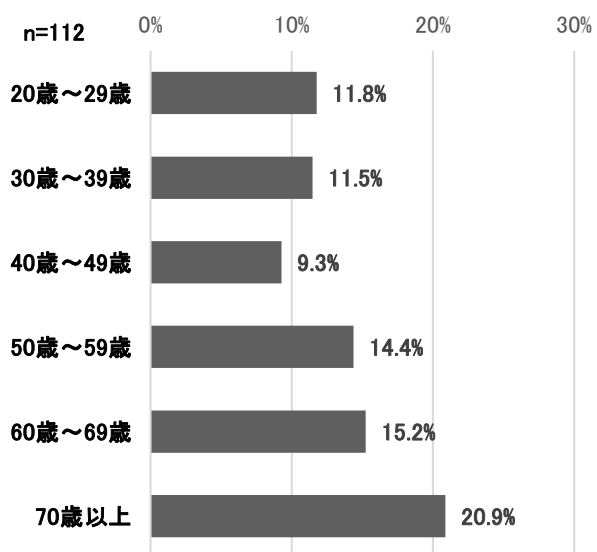
■労働時間短縮や休暇制度を普及・活用することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること



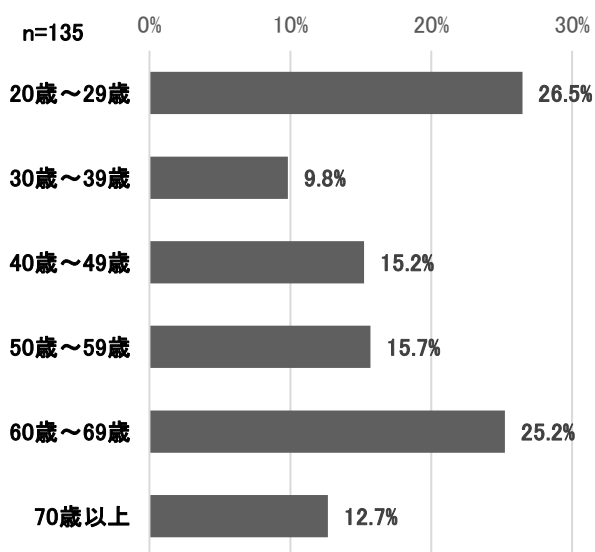
■男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと



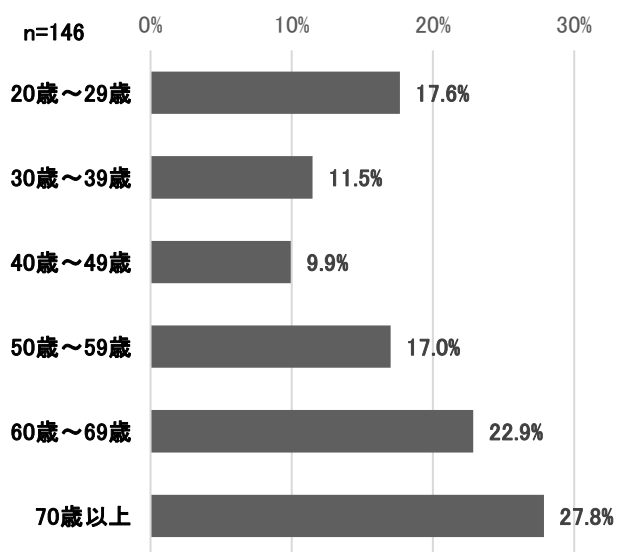
■国や地方自治体などの研修等により、
男性の家事や子育て、介護等の技能を
高めること



■男性が家事、子育てや介護、地域活動を行
うための仲間(ネットワーク)作りを
すすめること



■家庭や地域活動と仕事の両立などの問
題について、男性が相談しやすい窓口
を設けること



問6 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」※の優先度について、あなたの希望に最も近いものを選んでください。【1つに○】

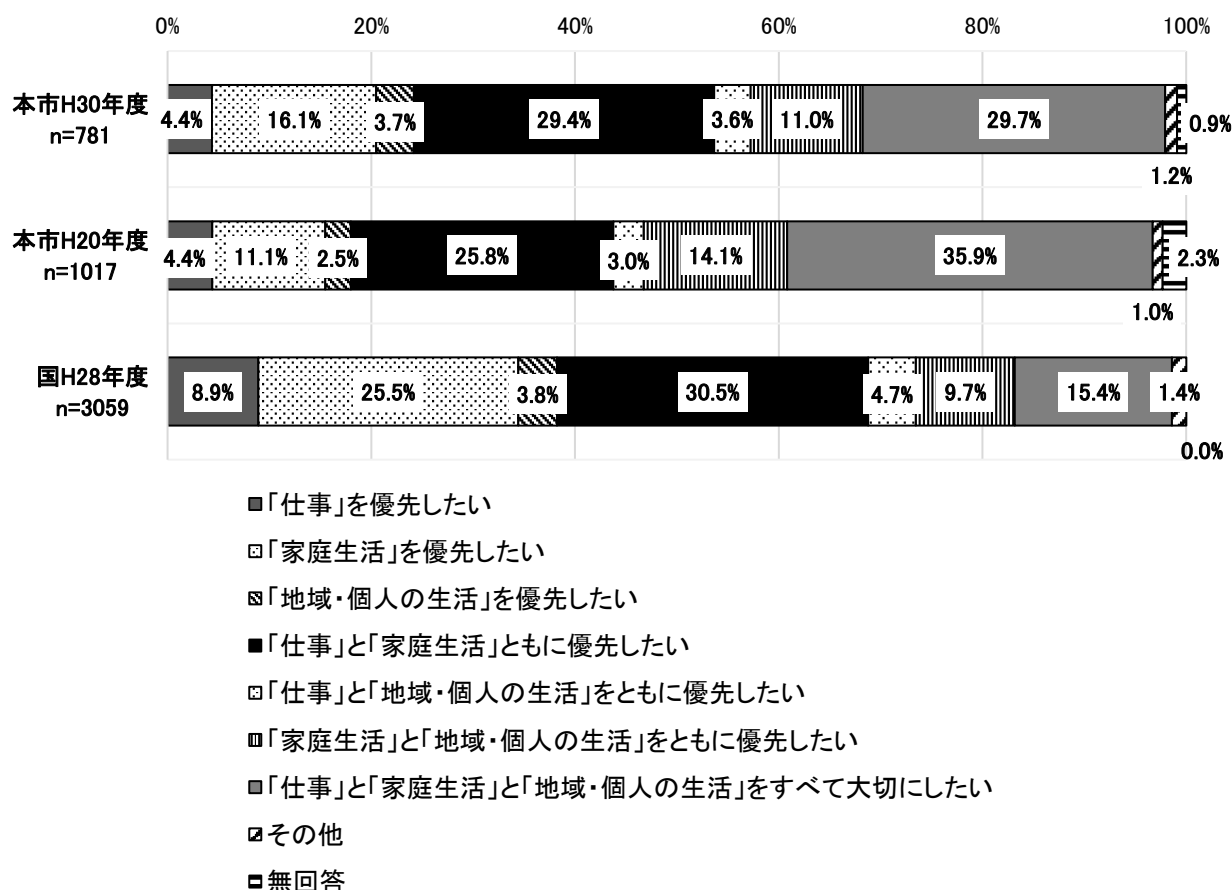
※「地域・個人の生活」とは、地域・社会活動（ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなどをいいます。

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望についてをみると、上位から「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしたい」29.7%、「仕事」と「家庭生活」ともに優先したい」29.4%となっています。

平成21年度調査から「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしたい」が6.2ポイント減となっています。

全国調査と比べると、本市の方が「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしたい」の意向が強く出ています。反対に、「家庭生活」を優先したい」は9.4ポイント本市の方が低くなっています。

■生活の中での優先度（希望）（今治市 H20 年度調査・国 H28 年度調査との比較）



※国 H28 年度調査での選択肢「わからない」は、「その他」に置き換えています。

○その他の回答（7 件）

■女性（30 代）

- ・これらに優先順位をつけようとする事自体理解できない。大切なものに順位必要なのか。どれも大切だ。（家事専業）

■女性（40 代）

- ・個人のやりたい事のように、自分が楽と思えるものを優先したい。（会社員・団体職員・公務員）
- ・介護のため自分の時間がないので、少しでも自分の時間が持ちたい。
（パート、アルバイト、派遣など）

■男性（50 代）

- ・仕事をしないと食べられない。（自営業（農林業含む）・自由業）

■女性（60 代）

- ・環境、年代など、その時々事情によって優先度は変わる。（無職）

■男性（60 代）

- ・無職（無職）
- ・無職、独居（無職）
- ・好きにすればいい。（その他）

【性別による比較】

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望を性別にみると、意識差が大きいものは、

「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしたい」

→女性が11.4ポイント高い

「仕事」と「家庭生活」ともに優先したい」

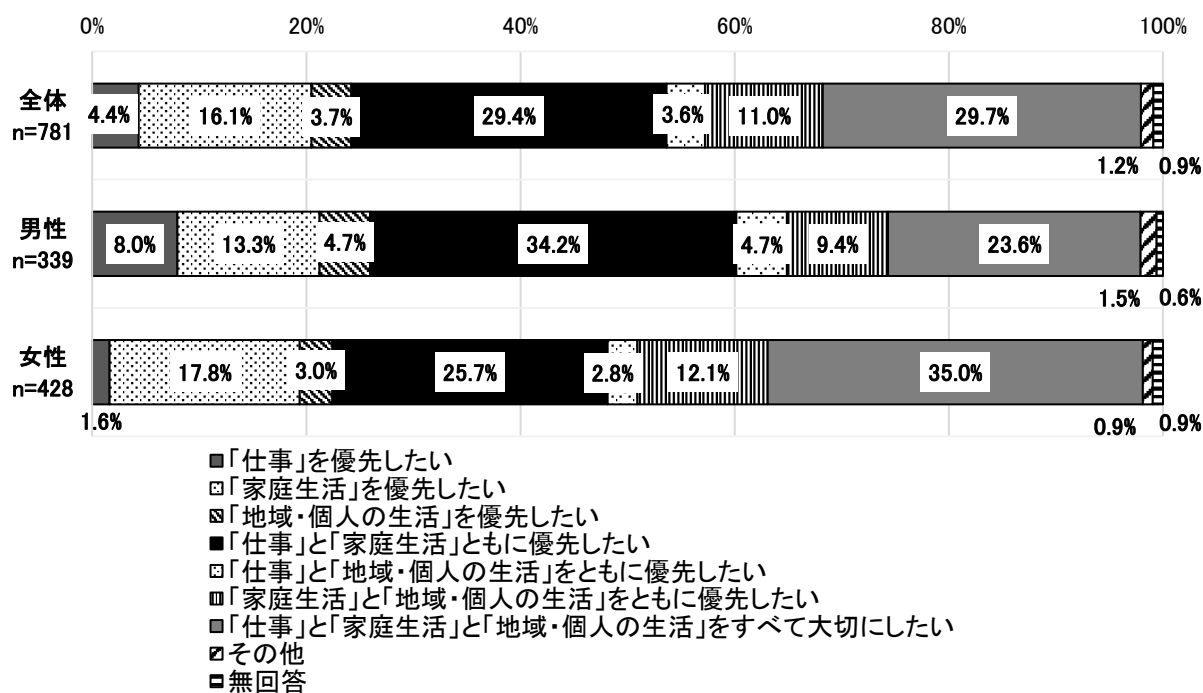
→男性が8.5ポイント高い

「仕事」を優先したい」

→男性が6.4ポイント高い

となっています。

■性別にみる生活の中での優先度（希望）

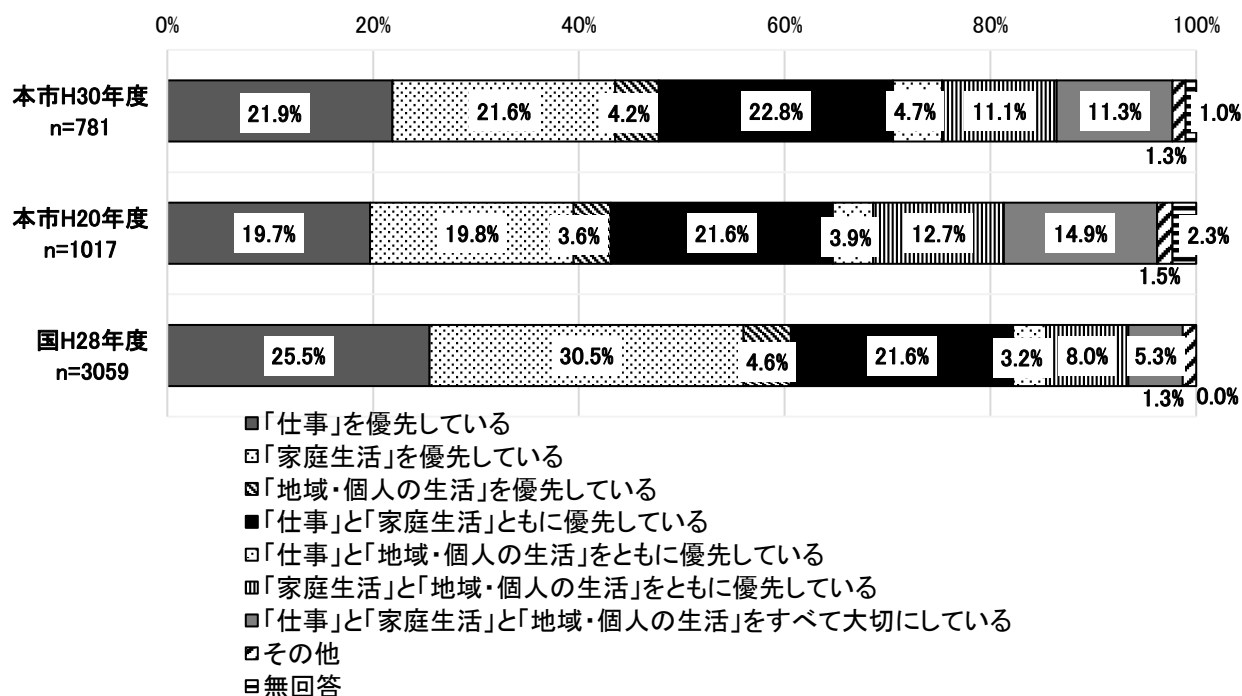


問7 次に、あなたの現実（現状）に最も近いものを、次の中から選んでください。

【1つに○】

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の現状についてをみると、上位から「仕事」と「家庭生活」ともに優先している」22.8%、「仕事」を優先している」21.9%、「家庭生活」を優先している」21.6%となっています。

■生活の中での優先度（現状）（今治市 H20 年度調査・国 H28 年度調査との比較）



順位	現状	割合	希望	割合
1 位	「仕事」と「家庭生活」ともに優先している	22.8%	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしたい	29.7%
2 位	「仕事」を優先している	21.9%	「仕事」と「家庭生活」ともに優先したい	29.4%
3 位	「家庭生活」を優先している	21.6%	「家庭生活」を優先したい	16.1%

○その他の回答（10 件）

■女性（30 代）

- ・質問自体が理解できない。どれも大切、時と場合による。（家事専業）

■男性（30 代）

- ・自分のめざす家庭生活のために仕事を優先している。（会社員・団体職員・公務員）

■女性（40 代）

- ・介護中なので家事がなかなかできない。（家事専業）

■女性（60 代）

- ・兄弟の介護の手助けを優先している。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・バランスよく、心地よく活動できるよう無理しない自分らしい生活をこころがけたい。（無職）

■男性（60 代）

- ・現在は介護で退職してしまったが、完全な仕事人間だった。（無職）
- ・無職（無職）
- ・無職、独居（無職）
- ・個人の自由行動（無職）
- ・年金生活（その他）

【性別による比較】

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の現状についてを性別にみると、意識差が大きいものは、

「仕事」を優先している

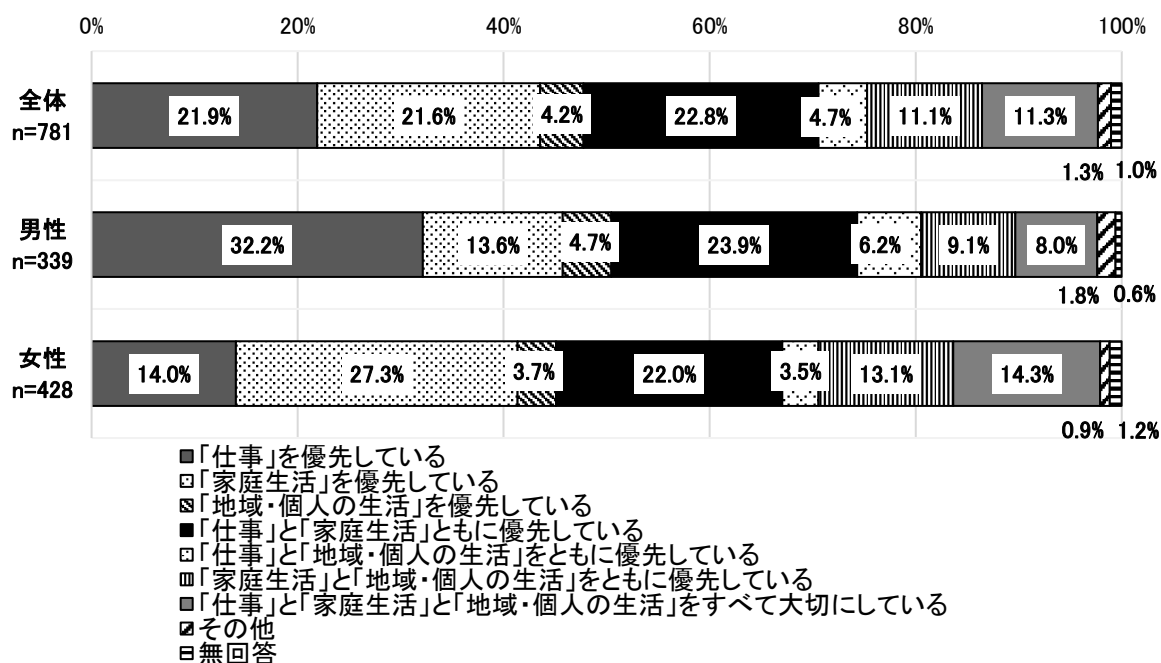
→男性が18.2ポイント高い

「家庭生活」を優先している

→女性が13.7ポイント高い

となっています。

■性別にみる生活の中での優先度（現状）



5 仕事と家庭について

問8 男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方は、どのような形が好ましいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。【1つに○】

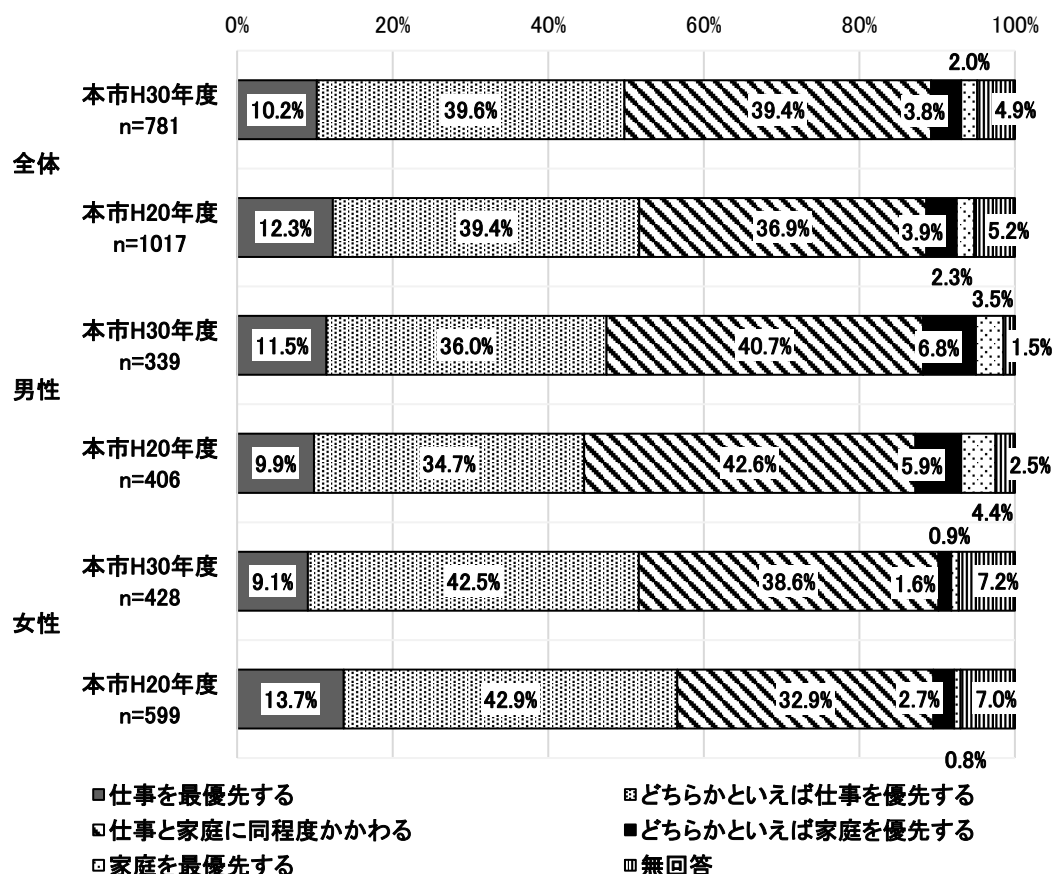
(1) 男性の関わり方

男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方として「男性の関り方」をみると、「どちらかといえば仕事を優先する」39.6%、次いで「仕事と家庭に同程度かかわる」39.4%となっています。

これを性別にみると、男性では「仕事と家庭に同程度かかわる」40.7%と高く、女性では「どちらかといえば仕事を優先する」42.5%と高くなっています。

平成20年度調査から、「仕事と家庭に同程度かかわる」が全体で2.5ポイント増となっていますが、男性では1.9ポイント減、女性では5.7ポイント増となっています。

■性別にみる男性の仕事と家庭の関わり方（今治市H20年度調査との比較）



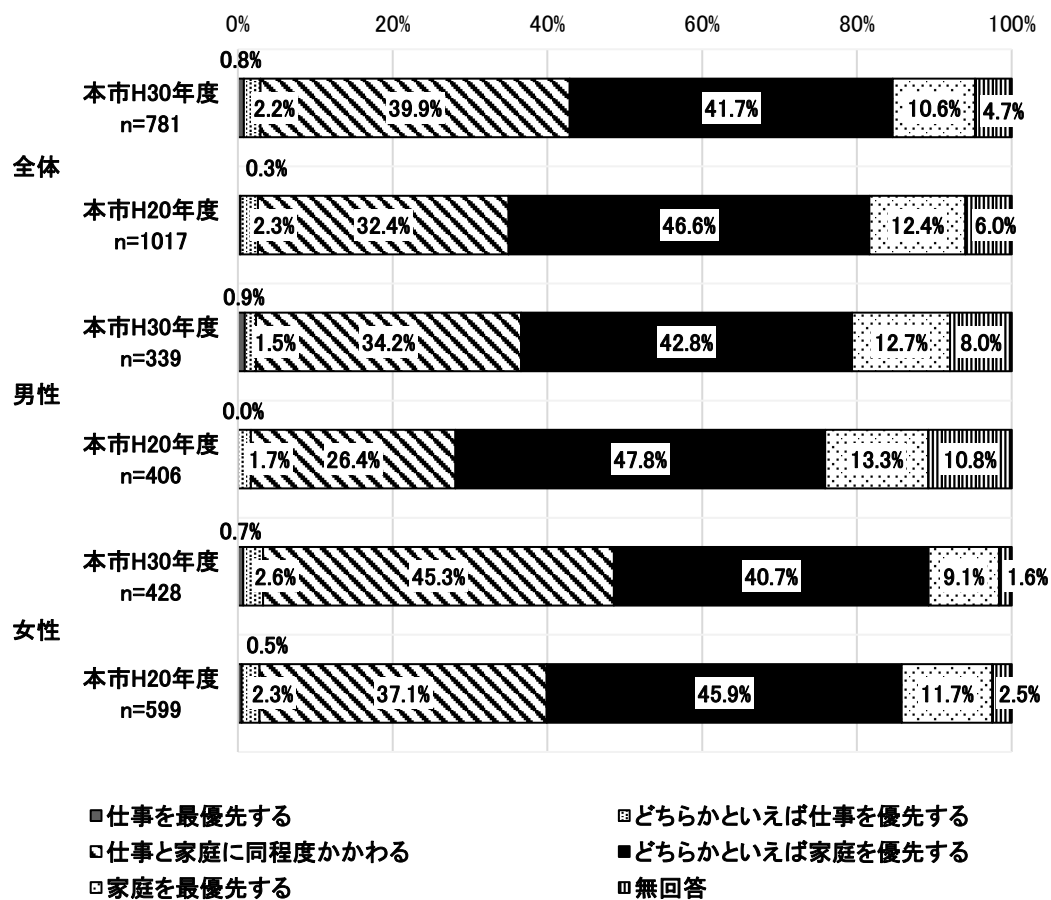
(2) 女性の関わり方

男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方として「女性の関り方」をみると、「どちらかといえば家庭を優先する」41.7%、次いで「仕事と家庭に同程度かかわる」39.9%となっています。

これを性別にみると、男性では「どちらかといえば家庭を優先する」42.8%と高く、女性では「仕事と家庭に同程度かかわる」45.3%と高くなっています。

平成20年度調査から、「仕事と家庭に同程度かかわる」が全体で7.5ポイント増となっており、男性でも7.8ポイント増、女性でも8.2ポイント増となっています。

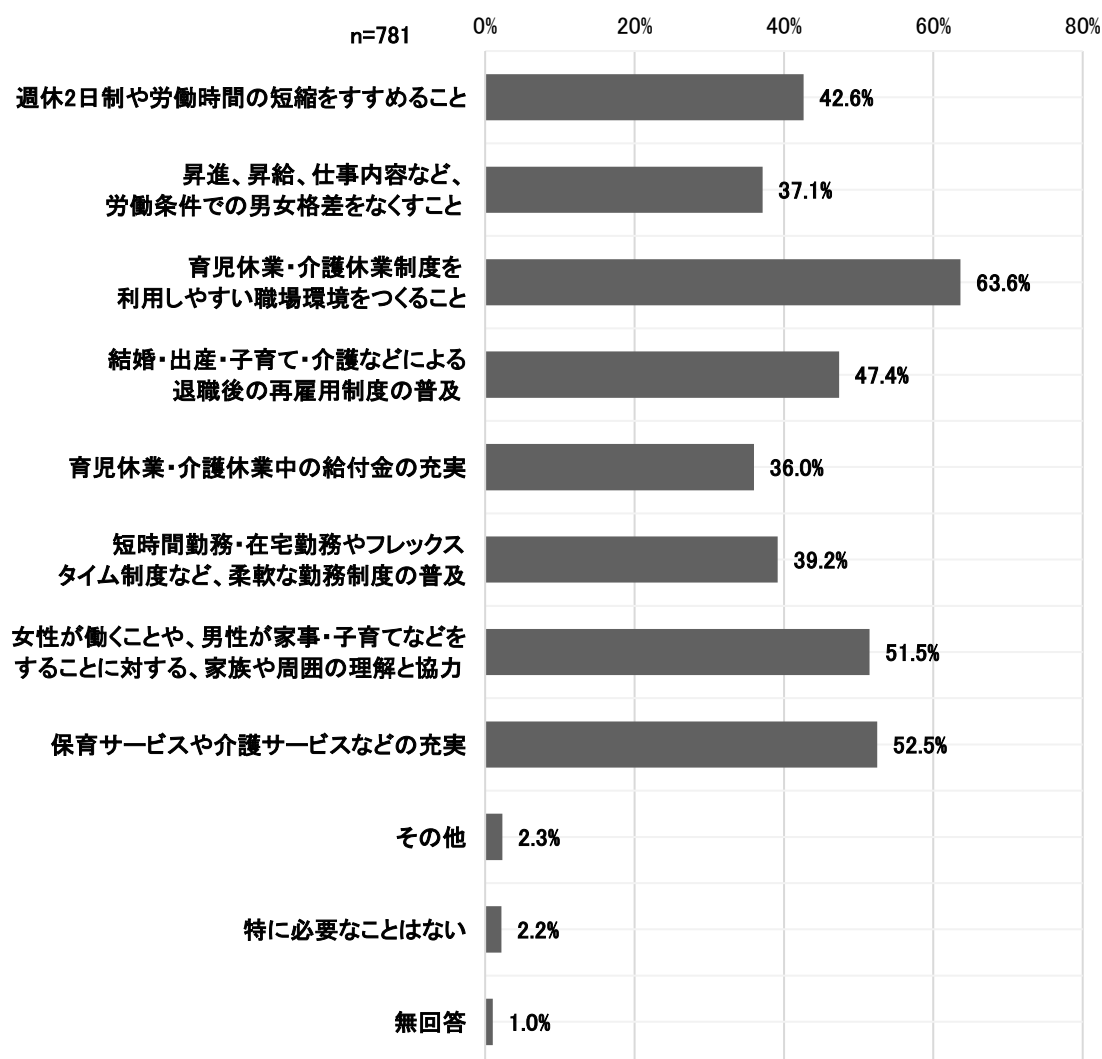
■性別にみる女性の仕事と家庭の関わり方（今治市H20年度調査との比較）



問9 男女がともに仕事と家庭の両立を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【5つ以内に○】

男女がともに仕事と家庭の両立を続けていくために必要なことは、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」63.6%、「保育サービスや介護サービスなどの充実」52.5%、「女性が働くことや、男性が家事・子育てなどをするに対する、家族や周囲の理解と協力」51.5%となっています。

■男女がともに仕事と家庭の両立に必要なこと



○その他の回答（18 件）

■女性（30 代）

- ・職場の人員不足。（会社員・団体職員・公務員）

■男性（30 代）

- ・仕事と家庭を両立するには夫婦間での会話が一番だと思う。男女ともに支えあうのは他人ではなく夫婦だと思うから。（会社員・団体職員・公務員）
- ・職種によって変わると思う。そういう事ではない。（会社員・団体職員・公務員）
- ・地域振興食事券の発行、学生教育の男女意識の改善、男性への料理、家事の推進。
（会社員・団体職員・公務員）
- ・収入の安定。（会社員・団体職員・公務員）

■女性（40 代）

- ・雇用に頼らない自由な働き方の普及。（会社員・団体職員・公務員）
- ・社会保障の充実。（会社員・団体職員・公務員）
- ・学校教育、特に義務教育の充実＋社会変化に伴う地域資源サービスの充実。
（会社員・団体職員・公務員）
- ・パートナーの理解・協力。（パート、アルバイト、派遣など）

■男性（40 代）

- ・両立なんてできない。（会社員・団体職員・公務員）

■女性（50 代）

- ・子供が病気などで仕事が休めない時など、預ける所がない人など、どうすればよいか。（無職）

■男性（50 代）

- ・大企業や公務員だけでなく小さな会社の現状をもっと見るべき。（会社員・団体職員・公務員）
- ・お金と受皿。（会社員・団体職員・公務員）
- ・人ひとりのぞみが違うので…。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・経済の向上、社会全体の生活のしやすさ。（自営業（農林業含む）・自由業）

■女性（60 代）

- ・短時間勤務でも、それなりのボーナスが保証されたい。（家事専業）
- ・地域、学校等の子供の見守り充実。（家事専業）

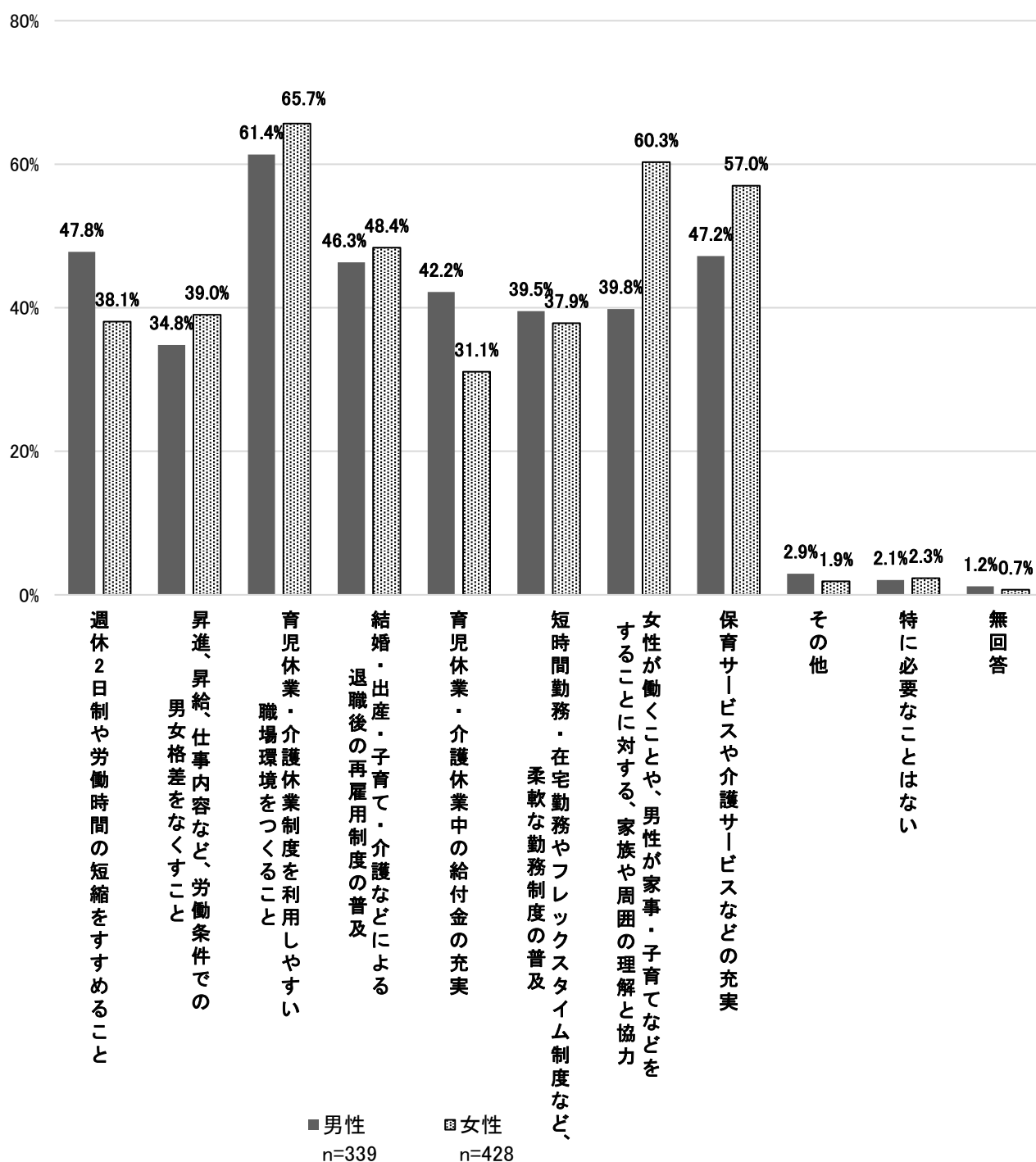
■男性（70 代）

- ・両立などできない。（自営業（農林業含む）・自由業）

【性別による比較】

男女がともに仕事と家庭の両立を続けていくために必要なことを性別にみると、男性では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」61.4%、「週休2日制や労働時間の短縮をすすめること」47.8%、「保育サービスや介護サービスなどの充実」47.2%となっています。女性では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」65.7%、「女性が働くことや、男性が家事・子育てなどをするに対する、家族や周囲の理解と協力」60.3%、「保育サービスや介護サービスなどの充実」57.0%となっています。

■性別にみる男女がともに仕事と家庭の両立に必要なこと



6 育児休業・介護休業について

問10 家庭で育児・介護が必要なとき、ともに勤めのある夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。【1つに○】

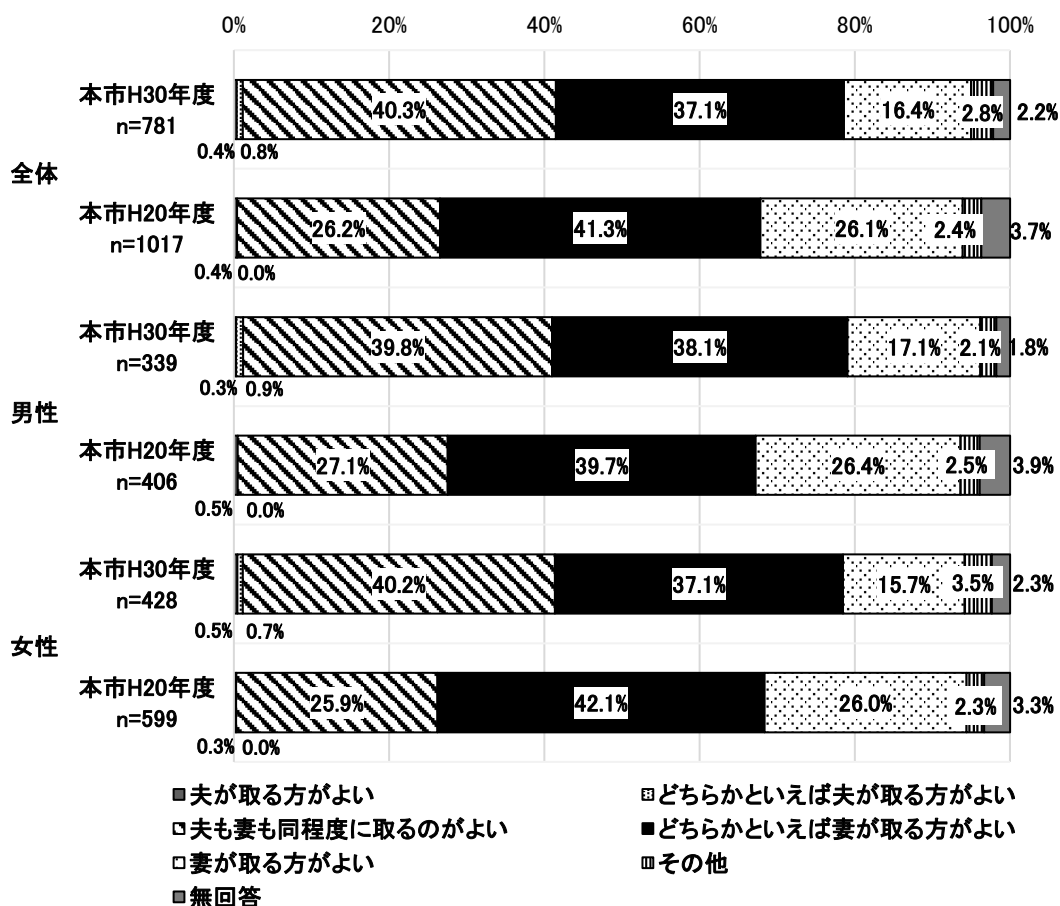
(1) 育児休業

家庭で育児が必要なとき、ともに勤めのある夫婦が育児休業を取るとしたら、どうするのがよいかをみると、「夫も妻も同程度に取るのがよい」40.3%、次いで「どちらかといえば妻が取る方がよい」37.1%となっています。

これを性別にみても、男性と女性ともに「夫も妻も同程度に取るのがよい」、次いで「どちらかといえば妻が取る方がよい」となっています。

平成20年度と調査から、「夫も妻も同程度に取るのがよい」が全体で14.1ポイント増となっており、性別にみても全体同様に伸びています。

■性別にみる育児休業（今治市H20年度調査との比較）



○その他の回答（21 件）

■男性（20 代）

- ・夫婦で話し合って決めることなのでこういう方がよいとは言い切れない。

（会社員・団体職員・公務員）

- ・収入の多い方が仕事をし、少ない方が休みを取る。（自営業（農林業含む）・自由業）

■女性（30 代）

- ・家庭によりちがうが、得意な部分を活用できるよう、おのおのが調整し、周りも理解をしている。（会社員・団体職員・公務員）

- ・夫婦で話し合えば良いと思う。（パート、アルバイト、派遣など）

- ・その家庭で話し合った結果が一番良いと思う。（家事専業）

■男性（30 代）

- ・給料が低い方がとる。男とか女の話ではない。生活がかかっている。

（会社員・団体職員・公務員）

■女性（40 代）

- ・その家族、その時の状況により、よいと思われる方が取ればいい。（会社員・団体職員・公務員）

- ・社会保障の充実。（会社員・団体職員・公務員）

- ・家庭の状況に応じ、対応できること。（会社員・団体職員・公務員）

- ・仕事を休める方が取るとよい。（パート、アルバイト、派遣など）

- ・育児する方が休む、男女どちらでも。（パート、アルバイト、派遣など）

■男性（40 代）

- ・取りたい方が取った方がよい。（会社員・団体職員・公務員）

■女性（50 代）

- ・個別事案による。他者が意識付けすべきものではない。（会社員・団体職員・公務員）

- ・その家族にとって都合の良い方が取る。（会社員・団体職員・公務員）

- ・出産から 1 週間は夫に休んでほしい。（会社員・団体職員・公務員）

- ・その時の仕事の状況や、どちらが育児に適任であるかによる。（会社員・団体職員・公務員）

■女性（60 代）

- ・その時必要な休みをとり易い方がまずとる。（無職）

■男性（60 代）

- ・個別事情による。（無職）

- ・出来る方がする。（その他）

■女性（70 代）

- ・夫婦が話しあって決めればよいと思う。（家事専業）

■男性（70 代）

- ・夫婦それぞれの仕事によるので相談する。（自営業（農林業含む）・自由業）

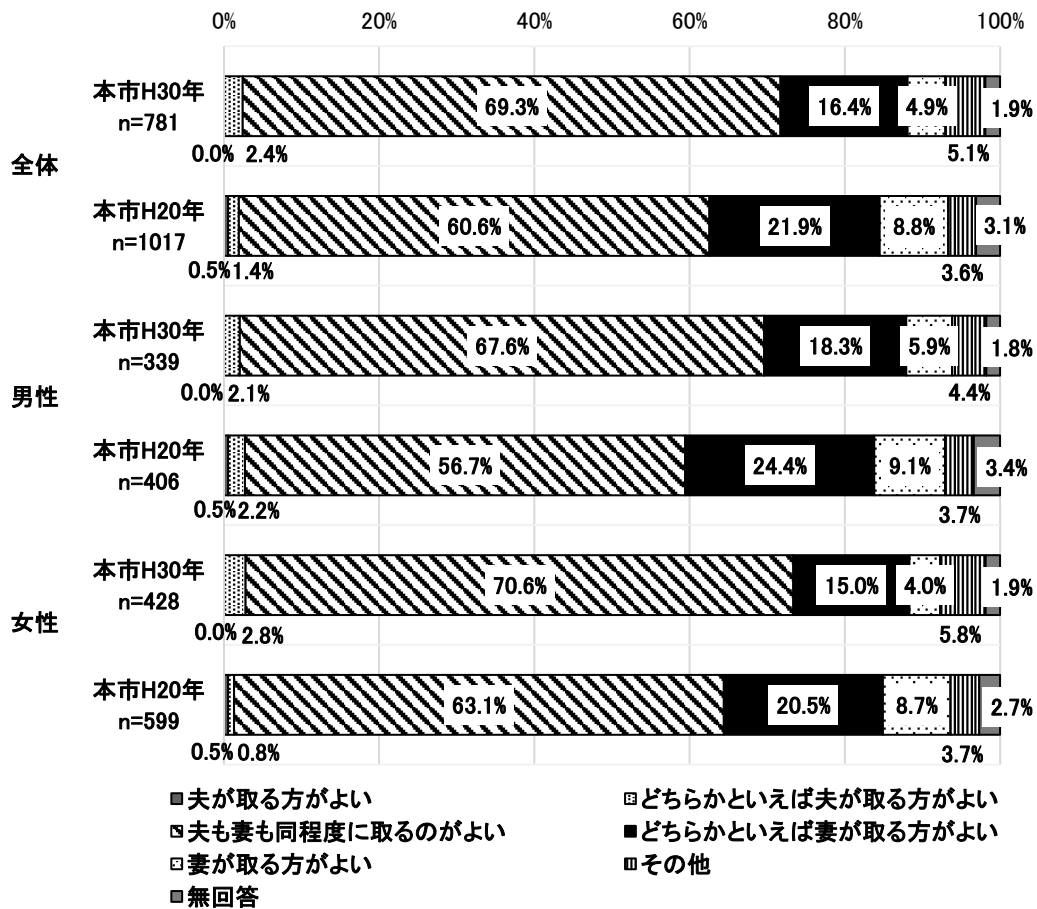
(2) 介護休業

家庭で介護が必要なとき、ともに勤めのある夫婦が介護休業を取るとしたら、どうするのがよいかをみると、「夫も妻も同程度に取るのがよい」69.3%、次いで「どちらかといえば妻が取る方がよい」16.4%となっています。

これを性別にみても、男性と女性ともに「夫も妻も同程度に取るのがよい」、次いで「どちらかといえば妻が取る方がよい」となっています。

平成20年度と調査から、「夫も妻も同程度に取るのがよい」が全体で8.7ポイント増となっており、性別にみても全体同様に伸びています。

■性別にみる介護休業（今治市 H20 年度調査との比較）



○その他の回答（36 件）

■男性（20 代）

- ・夫婦で話し合って決めることなのでこういう方がよいとは言い切れない。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・収入の多い方が仕事をし、少ない方が休みを取る。(自営業（農林業含む）・自由業)

■女性（30 代）

- ・その家庭で話し合った結果が一番良いと思う。(家事専業)

■男性（30 代）

- ・給料が低い方がとる。男とか女の話ではない。生活がかかっている。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・公的介護制度の拡充、病院送迎付き保険又は簡易入院（検査入院）の拡大、基本介護は、公共制度で全てまかなう。(会社員・団体職員・公務員)

■女性（40 代）

- ・親であれば実子が取ればよいと思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・夫婦間で合意できる方が取ればよいと思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・社会保障の充実。(会社員・団体職員・公務員)
- ・家庭の状況に応じ、対応できること。(会社員・団体職員・公務員)
- ・夫側の親は夫、妻側は妻が介護する。(会社員・団体職員・公務員)
- ・仕事を休める方が取るとよい。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・介護の対象によってお互いで考えれば良いと思う。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・男、女ではなく、その家庭の事情があるので協力してすべき。コミュニケーションは必要。
(パート、アルバイト、派遣など)

■男性（40 代）

- ・どちらの親、父か母かなど介護の必要な方で変わると思います。(会社員・団体職員・公務員)
- ・取りたい方が取った方がよい。(会社員・団体職員・公務員)
- ・介護の程度による。力がいる介護なら男性、それ以外なら同程度。(会社員・団体職員・公務員)

■女性（50 代）

- ・その家族にとって都合の良い方が取る。(会社員・団体職員・公務員)
- ・どちらの親かにもより、仕事の状況にもよる。(会社員・団体職員・公務員)
- ・自身の親は自身がした方が親も遠慮がないと思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・個別事案による。他者が意識付けすべきものではない。(会社員・団体職員・公務員)
- ・自身の方が取る。(会社員・団体職員・公務員)
- ・介護される側の意見も必要だと思う。(自営業（農林業含む）・自由業)
- ・介護される人の実子が取ればいい。自身の親の介護をそれぞれがみればいい。
(パート、アルバイト、派遣など)
- ・自身の親によって決める。(パート、アルバイト、派遣など)

■男性（50 代）

- ・その時の状況による。(会社員・団体職員・公務員)
- ・ケースによる。(会社員・団体職員・公務員)
- ・介護が必要な人による。(会社員・団体職員・公務員)

■女性（60 代）

- ・その時必要な休みをとり易い方がまずとる。(無職)
- ・家庭で介護ができるのは、介護度が低いのだろう。夫と妻同程度の取得がよい。介護度が高くなれば身体介護が多くなる為、妻でないと駄目な事が多くなる。(家事専業)

■男性（60代）

- ・夫の親は夫が、妻の親は妻が。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・できる方がやればよい。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・出来る方がする。（その他）
- ・個別事情。（無職）

■女性（70代）

- ・身内又は収入の少ない方、話し合いで。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・夫が会社勤めをしている場合は話しあいで決めればよい。（家事専業）
- ・介護者が重度の場合、夫婦で協力した方が良いと思う。（家事専業）

7 ドメスティック・バイオレンス (DV) について

問 1 1 配偶者や恋人など※からの暴力について、あなた自身の経験を伺います。

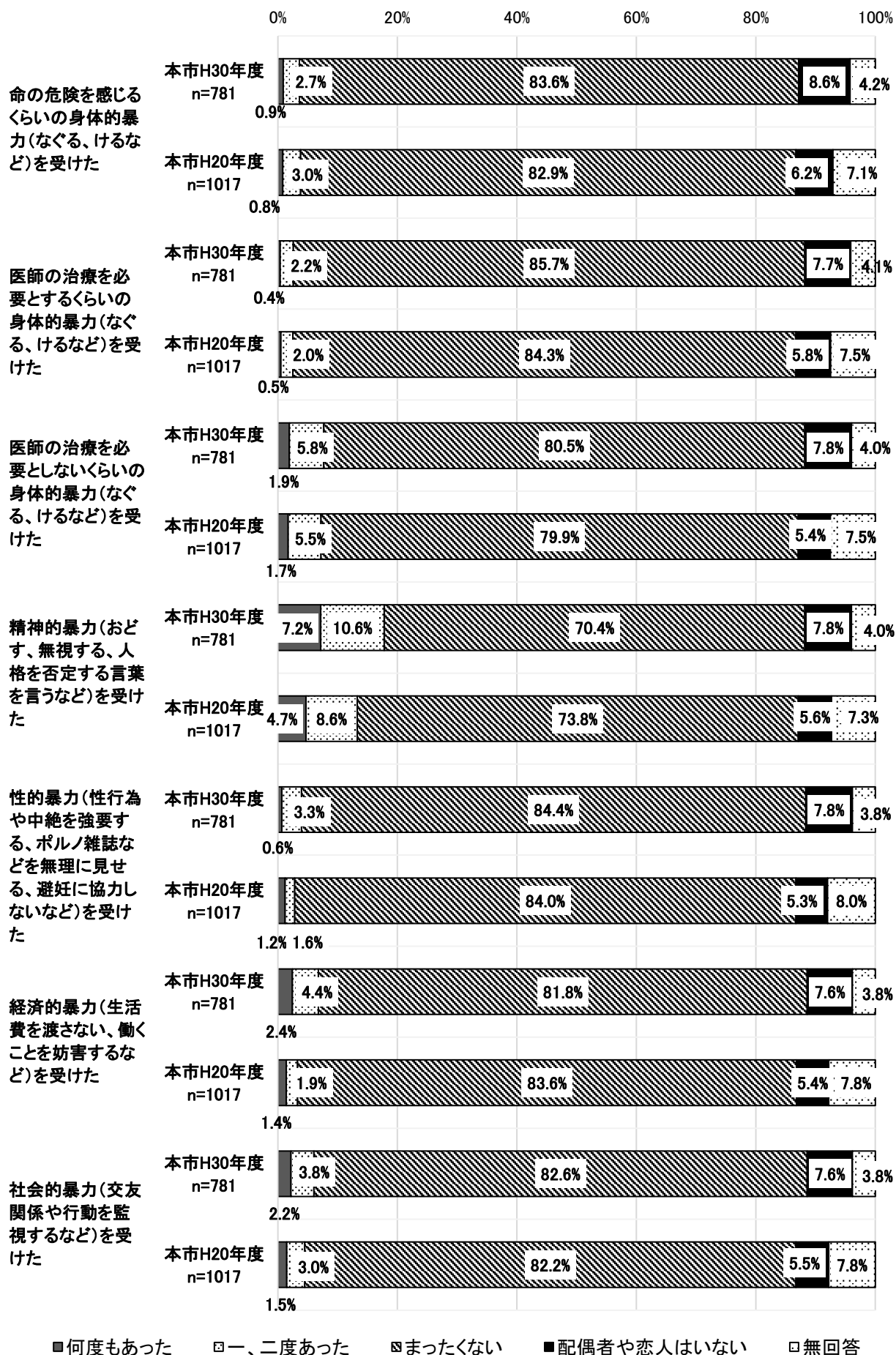
【1 つに○】

※婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者や元恋人も含みます。

DV を受けた経験（何度もあった・一、二度あった）をみると、「精神的暴力（おどす、無視する、人格を否定する言葉を言うなど）を受けた」17.8%、次いで「医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた」7.7%が多い回答となっています。

平成 20 年度調査から比べると、「命の危険を感じるくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた」を除き、全ての経験が高くなっています。平成 20 年度調査から高くなっている経験は、「精神的暴力（おどす、無視する、人格を否定する言葉を言うなど）を受けた」が 4.5 ポイント増、次いで「経済的暴力（生活費を渡さない、働くことを妨害するなど）を受けた」が 3.5 ポイント増となっています。

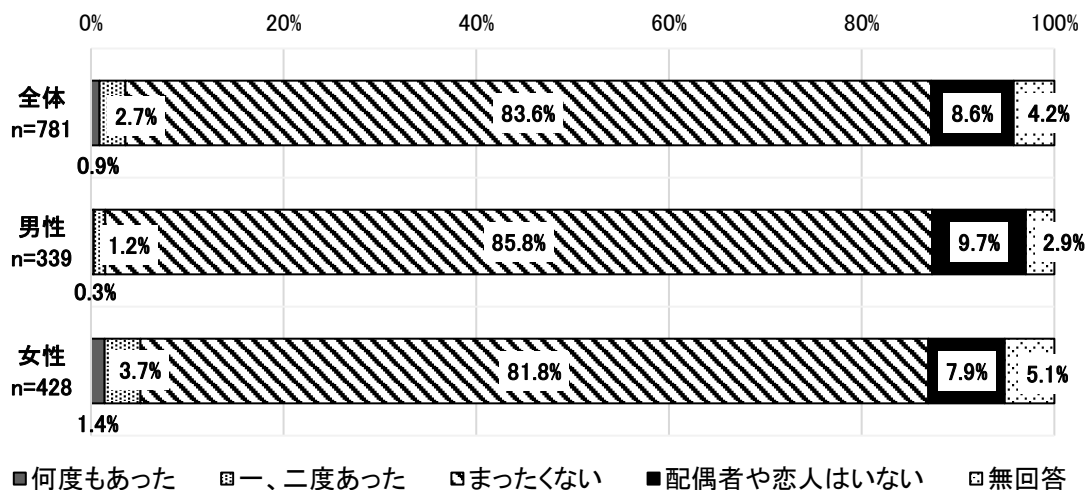
■ DVを受けた経験（今治市 H20 年度調査との比較）



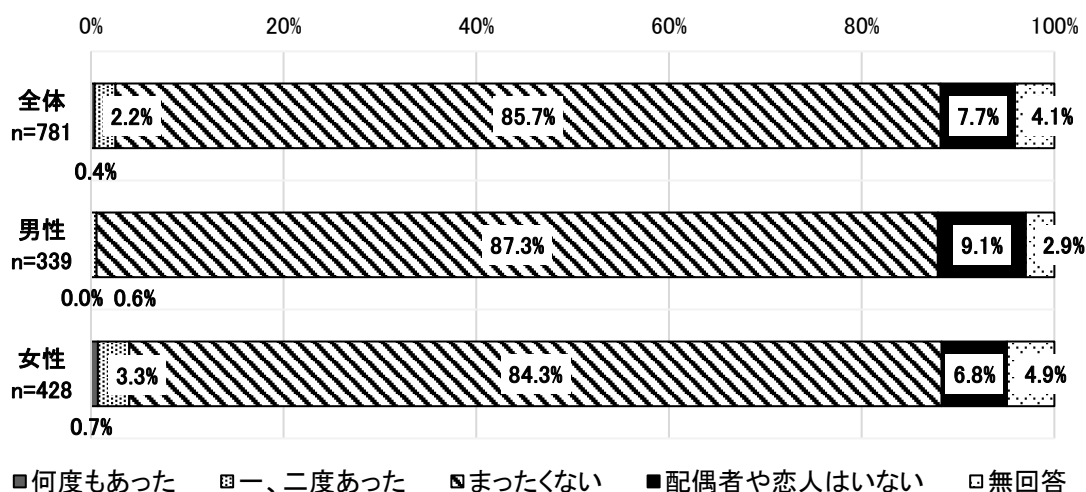
【性別による比較】

DVを受けた経験（何度もあった・一、二度あった）を性別にみると、全てにおいて、DVを受けた経験は、全体より女性の割合が高くなっています。

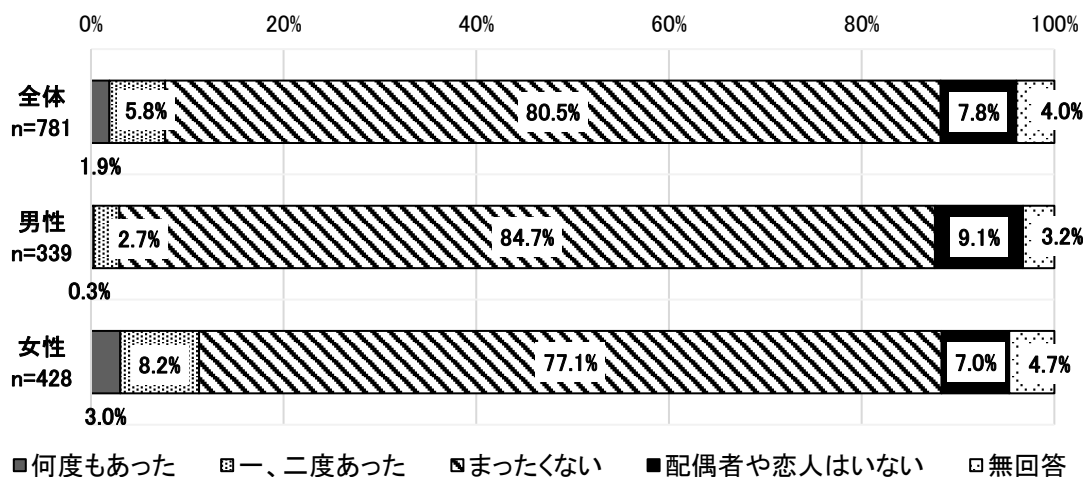
■ 命の危険を感じるくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた



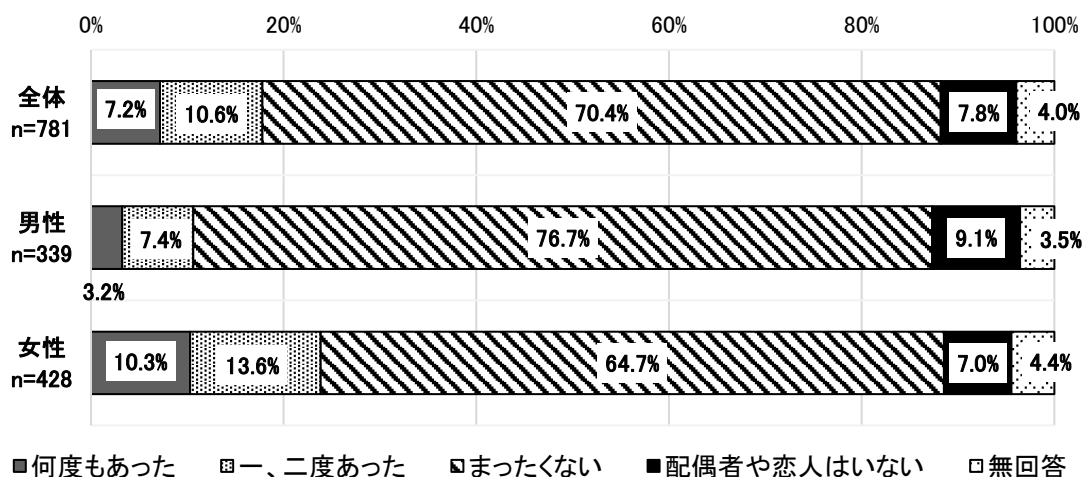
■ 医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた



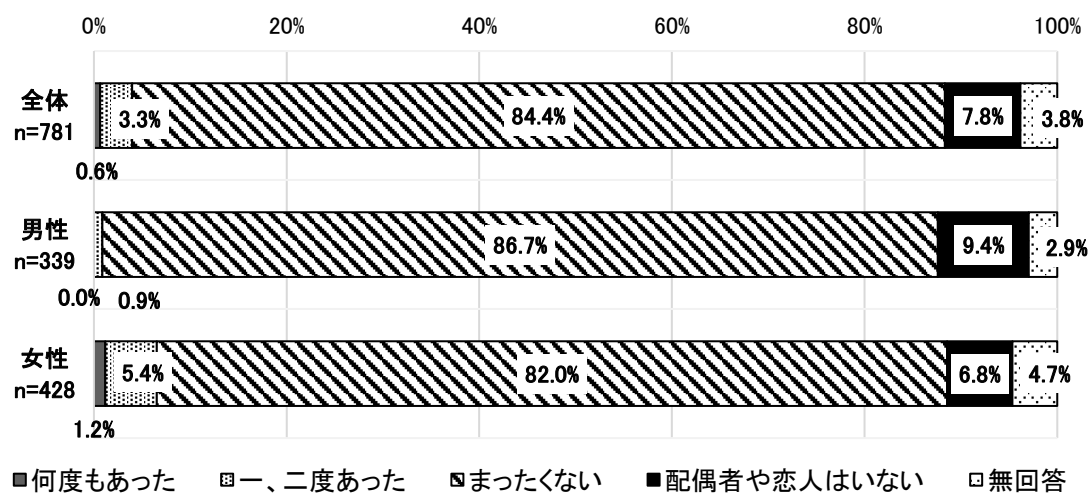
■医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた



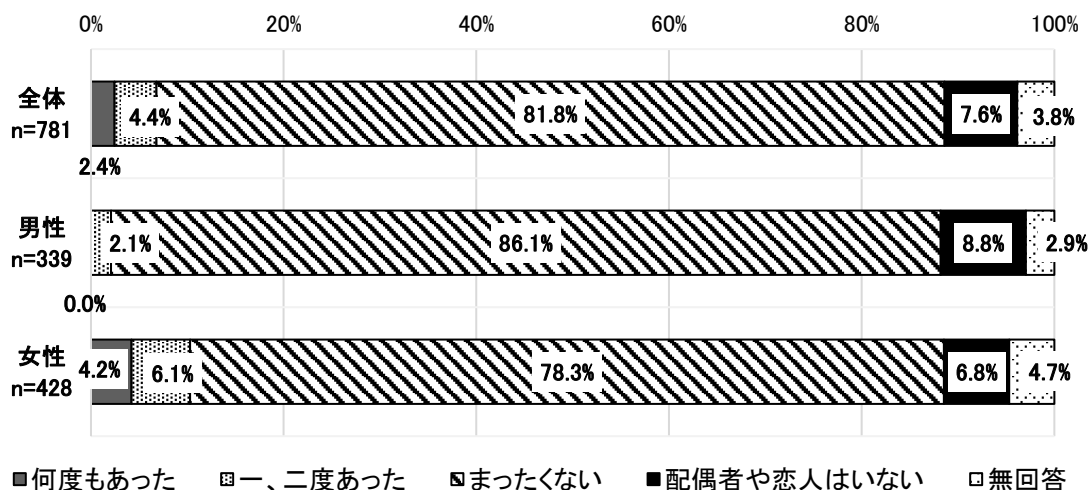
■精神的暴力（おどす、無視する、人格を否定する言葉を言うなど）を受けた



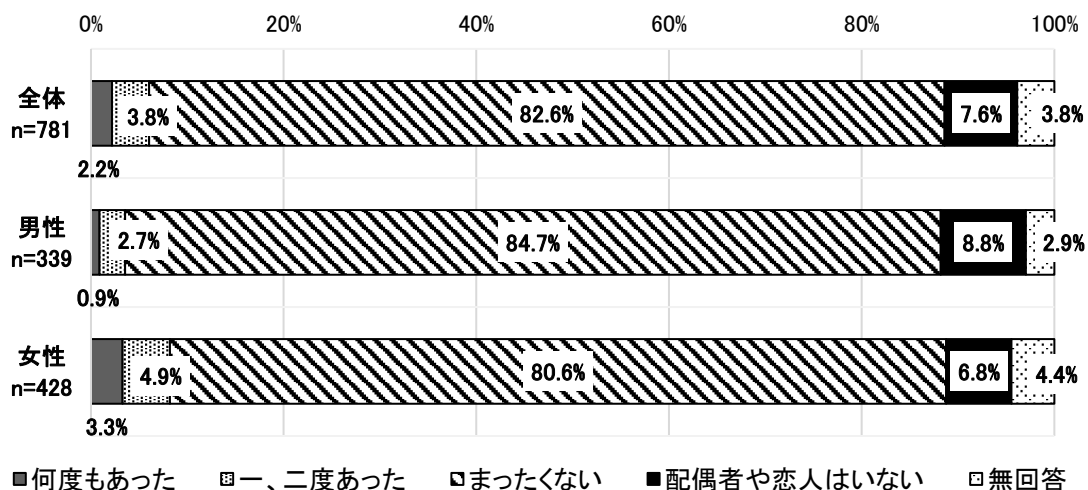
■性的暴力（性行為や中絶を強要する、ポルノ雑誌などを無理に見せる、避妊に協力しないなど）を受けた



■経済的暴力（生活費を渡さない、働くことを妨害するなど）を受けた



■社会的暴力（交友関係や行動を監視するなど）を受けた



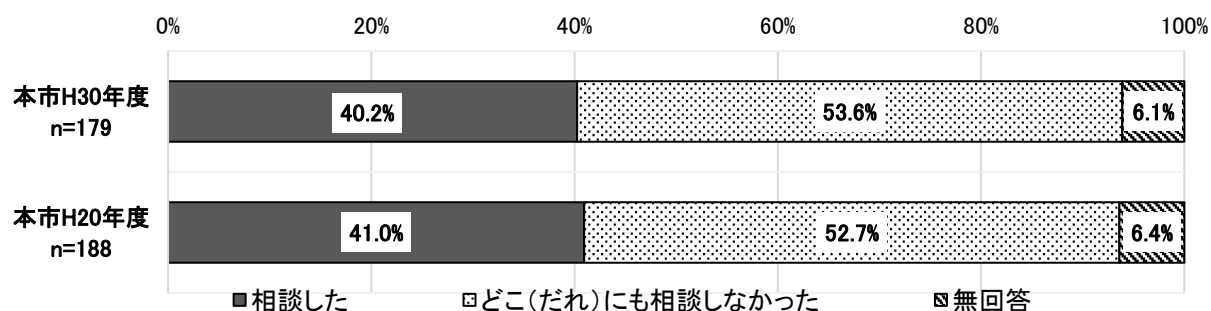
問 1 2 （問 1 1 で「何度もあった」または「一、二度あった」とお答えの方に伺います。）
配偶者や恋人などから受けた行為について、だれかに相談しましたか。

【あてはまるもの全てに○】

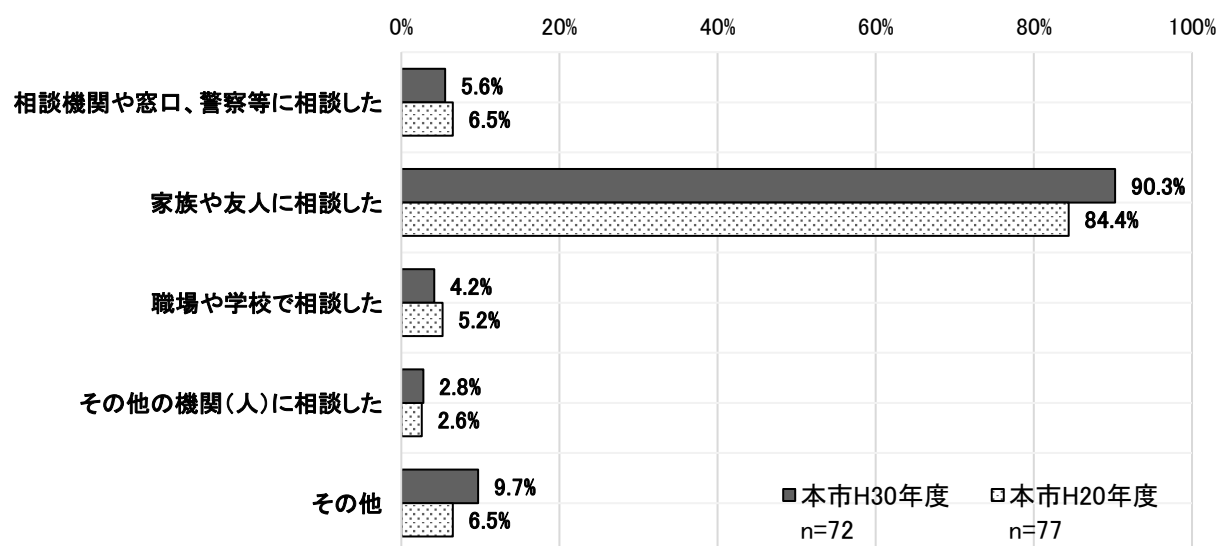
DV を受けた経験のある人の相談状況をみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」53.6%、「相談した」40.2%となっています。

相談した先は、「家族や友人に相談した」90.3%となっています。

■ DV を受けた時の相談の有無（今治市 H20 年度調査との比較）



■ DV を受けたときの相談先（今治市 H20 年度調査との比較）



○その他の回答（7 件）

■ 女性（40 代）

- ・ 弁護士。（会社員・団体職員・公務員）
- ・ 相談しようとしたが、システムが不十分なため、話を聞くだけで何もしてもらえないことがわかった。（パート、アルバイト、派遣など）

■ 女性（50 代）

- ・ 近所の方に助けを求めた。（会社員・団体職員・公務員）

■ 女性（60 代）

- ・ 必要なし。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・ 生活を続けることができなくなり、離婚した。（その他）

■ 女性（70 代）

- ・ 短気、亭主関白の認識をもっていた、年を取り今であればDVで犯罪よと言い合えた。
（パート、アルバイト、派遣など）
- ・ 訪問看護師さん、子供。（家事専業）

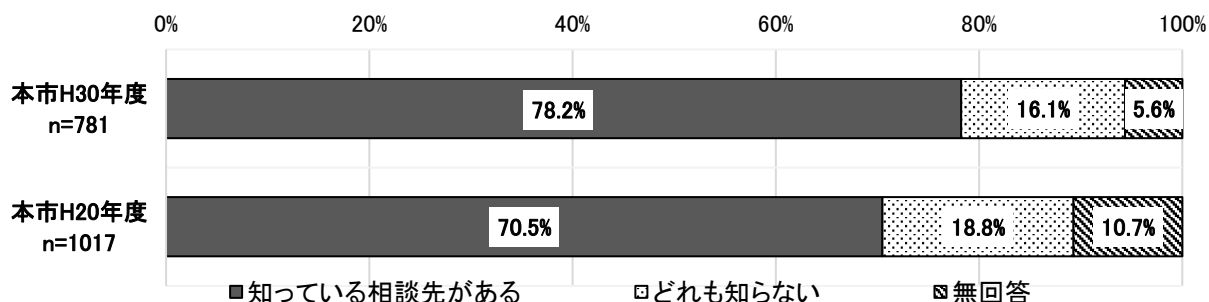
問 13 配偶者や恋人などからの暴力の被害に対して、相談機関や窓口が設けられています。
次の中からご存知のものすべてに○をつけてください。

【あてはまるもの全てに○】

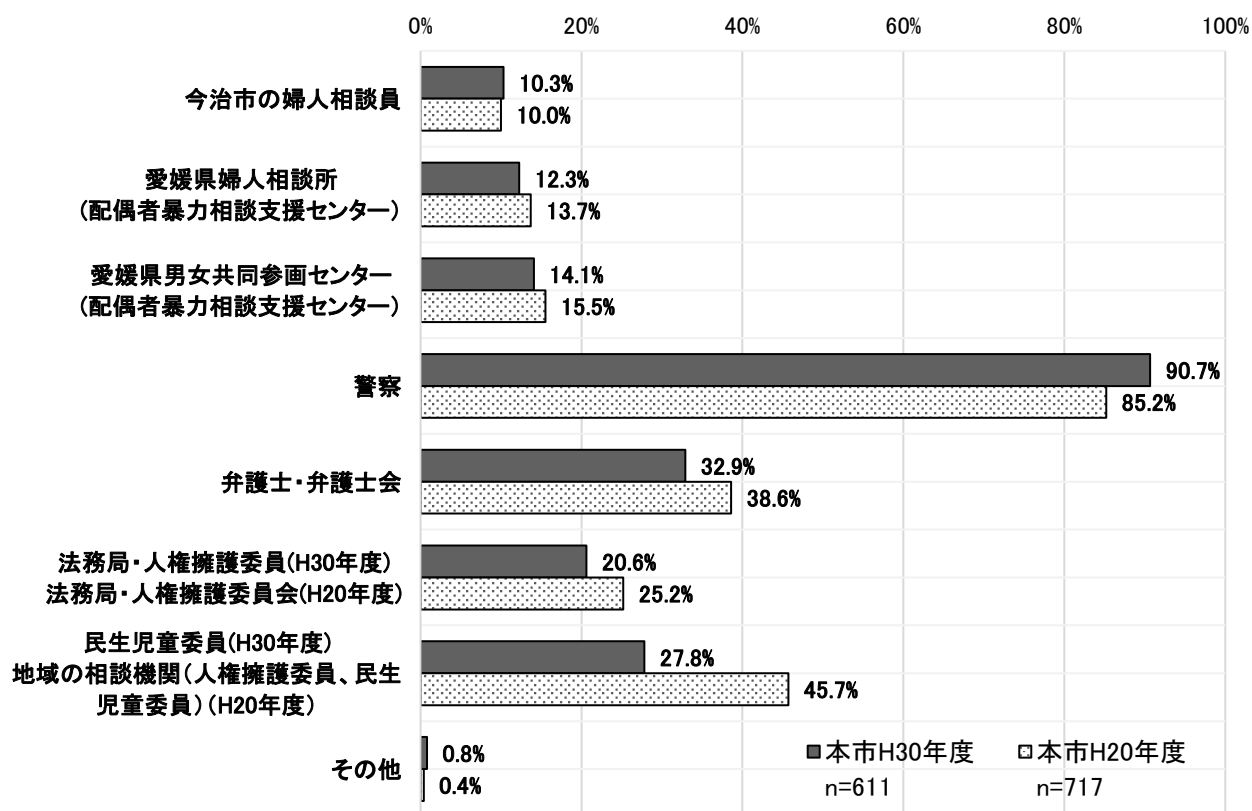
DVに関する相談先の認知度は、「知っている相談先がある」78.2%、「どれも知らない」16.1%となっています。平成20年度調査と比べると、認知度が7.7ポイント高くなっています。

知っている相談先は、「警察」90.7%、次いで、「弁護士・弁護士会」32.9%となっています。平成20年度調査と比べると、「民生児童委員」の認知度が17.9ポイント減となっています。

■DVを受けた時の相談先の認知（今治市H20年度調査との比較）



■知っている相談先（今治市H20年度調査との比較）



○その他の回答（5 件）

■女性（40 代）

・ コンビニのトイレやお店に貼ってあるのはどこのだろう。わかりにくい。

（会社員・団体職員・公務員）

・ 相談しても、はけ口にはなるが、根本解決にはならない。（パート、アルバイト、派遣など）

■女性（60 代）

・ 必要性がないので気にかけたことがない。公共のトイレなどにはっているのは見かけたことがある。（家事専業）

・ かけこむ所あり。（無職）

■男性（60 代）

・ 現在は経験がないので関心もない。（会社員・団体職員・公務員）

8 セクシュアル・ハラスメントについて

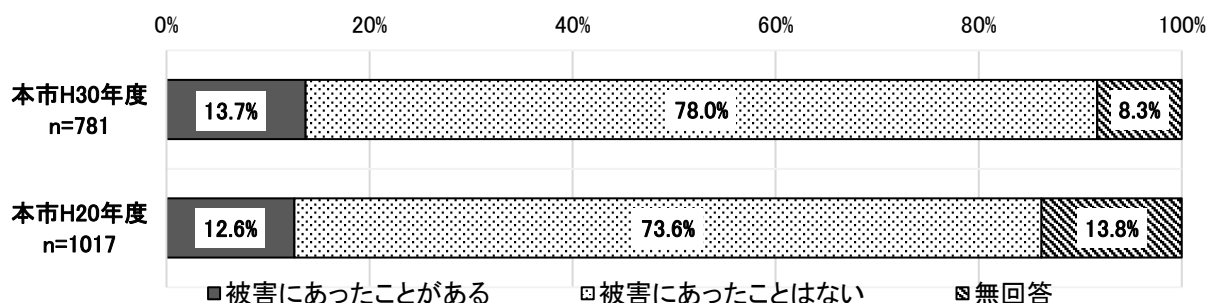
問14 あなた自身がセクシュアル・ハラスメントの被害にあったことはありますか。

【あてはまるもの全てに○】

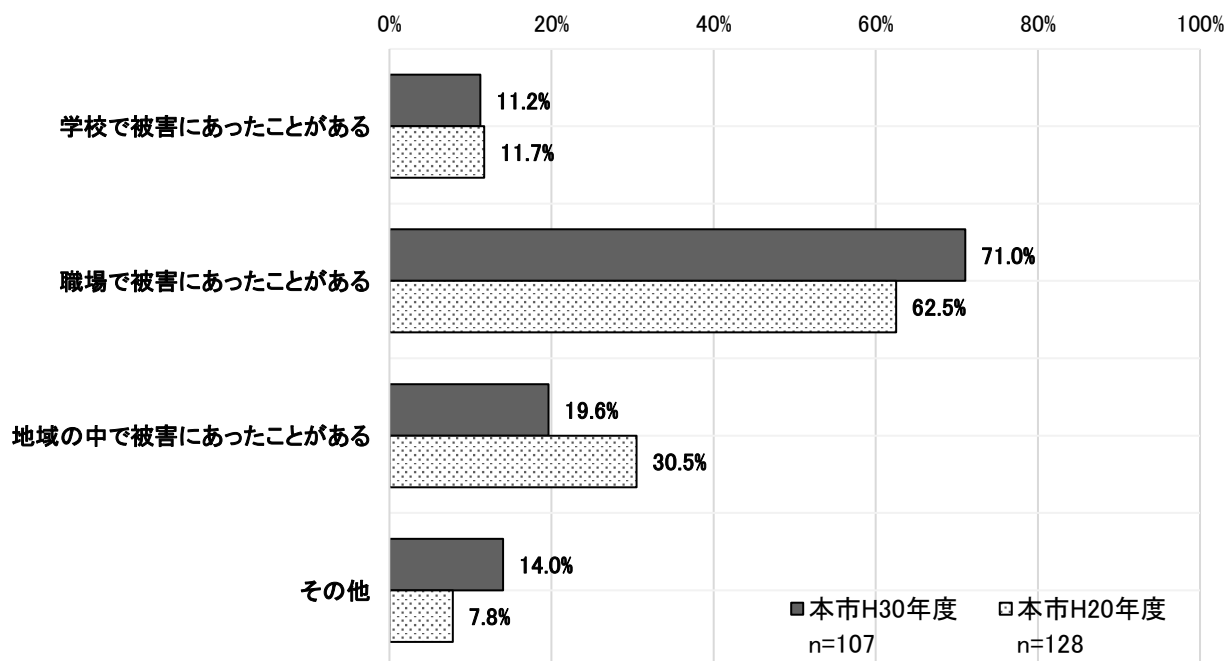
セクシュアル・ハラスメントの被害経験は、「被害にあったことがある」13.7%、「被害にあったことはない」78.0%となっています。平成20年度調査と比べると、「被害にあったことがある」が1.1ポイント高くなっています。

被害を受けた場所は、「職場で被害にあったことがある」71.0%、「地域の中で被害にあったことがある」19.6%となっています。平成20年度調査から変化のある項目は、「職場で被害にあったことがある」が8.5ポイント増、「地域の中で被害にあったことがある」が10.9ポイント減となっています。

■ セクシュアル・ハラスメントの被害経験（今治市 H20 年度調査との比較）



■ セクシュアル・ハラスメントを受けた場所（今治市 H20 年度調査との比較）



○その他の回答（16 件）

■女性（30 代）

- ・取引先など微妙に断りにくい関係性の人からの食事の誘いなどは断ることが難しい。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・塾の先生。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・バイト。(パート、アルバイト、派遣など)

■男性（30 代）

- ・こちらの挙動の一から十まで DV だと訴えてくる同僚がいる。(その他)

■女性（40 代）

- ・あったかもしれないが意識して苦痛というものはない。(会社員・団体職員・公務員)
- ・「被害」というほどでもないを受け止め流せている。「ハラスメント」という言葉が世の中で過剰反応しすぎ。(会社員・団体職員・公務員)
- ・地域の中小企業ではセクハラは普通にあるが気にしないことにしている。(家事専業)

■女性（50 代）

- ・塾。(会社員・団体職員・公務員)
- ・子供のころ。(パート、アルバイト、派遣など)

■男性（50 代）

- ・個人の感じ方次第でもあり、男性女性両方にあてはまり、知らないうちに加害者にも被害者にもなりえるので、ない人はいないと思う。(無職)

■女性（60 代）

- ・映画館での痴漢。(会社員・団体職員・公務員)
- ・幼い頃、小学生の頃、イヤな思いをした。(無職)
- ・昔、ペットの散歩中に、しつこくつきまとい、家の玄関ドアを何度もたたかれた事があった。
(その他)

■女性（70 代）

- ・近所の無職の独身男性の視線が気持ち悪かった。(家事専業)
- ・コンサート会場。相手はアルコール飲酒者であった。(無職)
- ・夜、出航する船の中で 25～26 歳位の時男性に身をすりつけられた。今思えば大声を出せば良かったと思うが若かったので何も言えなかった。(無職)

問 15 (問 14 で「被害にあったことがある」とお答えの方に伺います。)

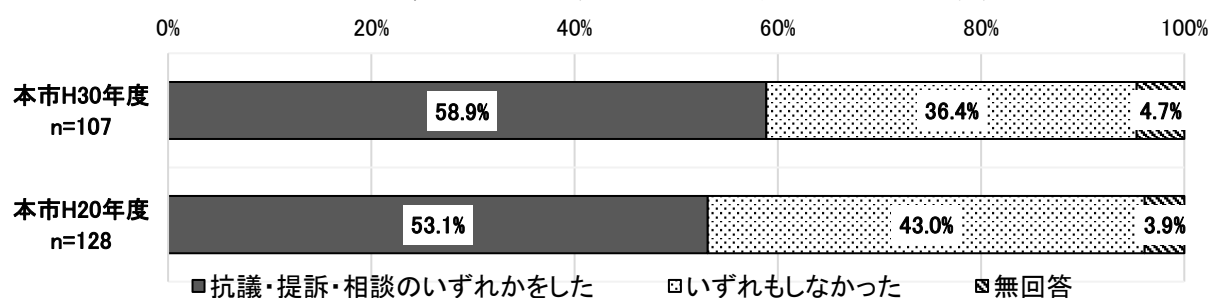
セクシュアル・ハラスメントの被害について、どのような対応をしましたか。

【あてはまるもの全てに○】

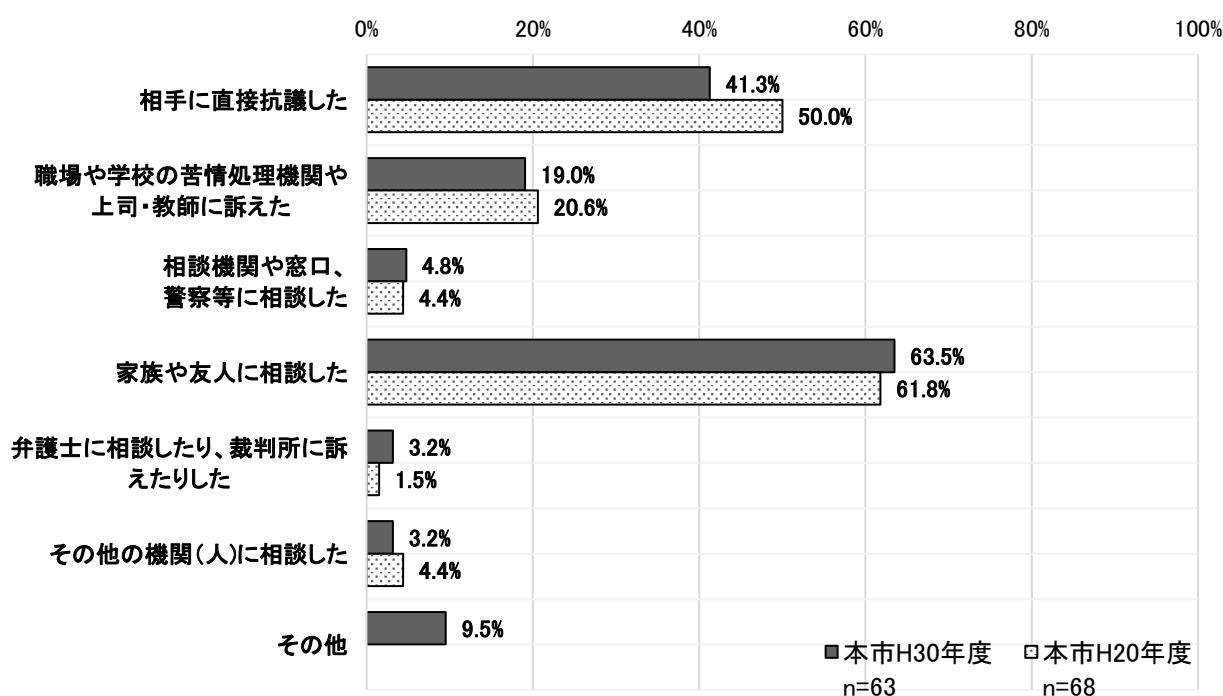
セクシュアル・ハラスメント被害への対応をみると、「抗議・提訴・相談のいずれかをした」58.9%、「いずれもしなかった」36.4%となっています。平成 20 年度調査と比べると、「抗議・提訴・相談のいずれかをした」が 5.8 ポイント高くなっています。

被害への対応は、「家族や友人に相談した」63.5%、「相手に直接抗議した」41.3%となっています。

■セクシュアル・ハラスメント被害への対応（今治市 H20 年度調査との比較）



■セクシュアル・ハラスメント被害への対応方法（今治市 H20 年度調査との比較）



○その他の回答（4 件）

■女性（30 代）

- ・幼過ぎてわからなかった。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・退職した。（家事専業）

■女性（60 代）

- ・にらみつけて退散させた。（家事専業）
- ・私も誤解を招く言葉を言ったかもしれないと思い、ハッキリとやんわりと、その気はなく迷惑である事を伝えて、わかってもらった。（その他）

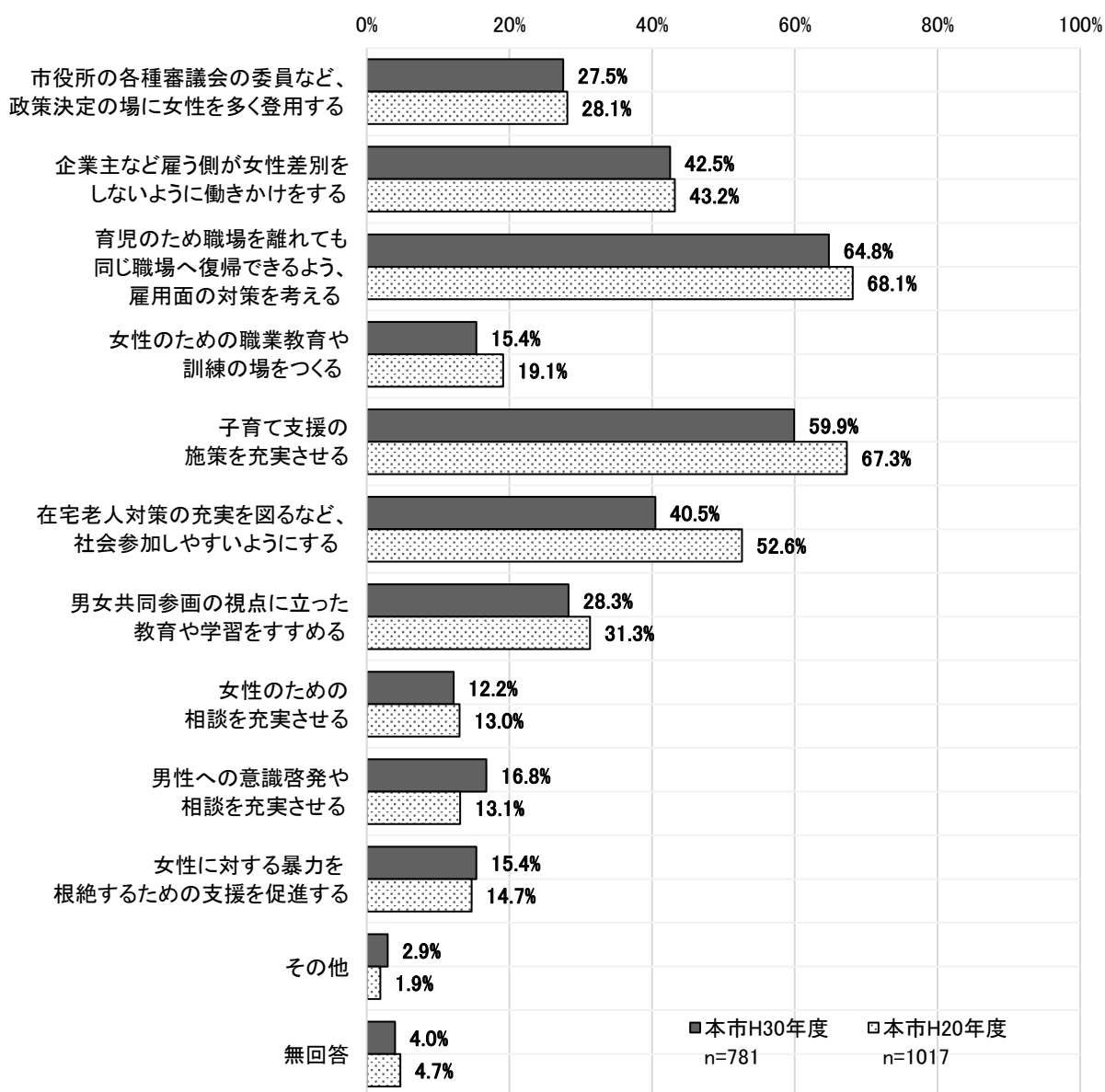
9 今治市における男女共同参画社会の実現に向けて

問 16 今治市は、男女共同参画社会の実現をめざし、様々な施策を実施しています。今後、特にどのようなことに取り組んでいくことが必要だと思いますか。【5つ以内に○】

今治市における男女共同参画社会の実現に向けて必要な事は、上位から「育児のため職場を離れても同じ職場へ復帰できるよう、雇用面の対策を考える」64.8%、「子育て支援の施策を充実させる」59.9%、「企業主など雇う側が女性差別をしないように働きかけをする」42.5%となっています。

平成 20 年度調査から変化した項目において、最も減少したものは、「在宅老人対策の充実を図るなど、社会参加しやすいようにする」(12.1 ポイント)、最も増加したものは、「男性への意識改革や相談を充実させる」(3.7 ポイント)となっています。

■男女共同参画社会の実現に必要な事（今治市 H20 年度調査との比較）



○その他の回答（21件）

■女性（30代）

- ・共に協力しなければ社会的に不利益になると理解し、モデルケースを目にする機会を増やす。
(会社員・団体職員・公務員)

■男性（30代）

- ・結婚、出産を機に簡単に仕事をやめてしまう、やめるつもりで働く、女性の意識の改革。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・男性育児休暇推進モデル企業の指定と経過報告の開示。(会社員・団体職員・公務員)

■女性（40代）

- ・男・女分けずに何事も！（会社員・団体職員・公務員）
- ・人それぞれ、いろいろな形の幸せがあると思うので「女性も男性と同じように働ける社会」とか「男性も子育てや介護に参加しましょう。」とかいうような「男女平等」ではなく「普通（多数派）と違う」ことに対する偏見がなくなればいいと思う。企業主など雇う側が女性差別をしないように働きかけをすることについて、雇う側にも男性か女性かを選ぶ自由があっていいと思う。女性差別をしないように市が働きかけをしているから、しぶしぶ女性を採用した企業で働く女性が幸せかどうかかわからない。喜んで女性を採用してくれる企業もあるのだから、そういうところへ行っただけで女性は幸せになれると思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・大手企業の為、福利厚生は手厚く、ここまでのアンケートに対してこんなアンケート内容か、とも思うくらいだった。既にいろんな面で対応してもらっている。やはり企業に勤める側はもちろん、企業側の理解、環境面での見直し、意識付が一番ではないかと思う。
(会社員・団体職員・公務員)

■男性（40代）

- ・企業の労働時間等の労働環境の改善。(会社員・団体職員・公務員)
- ・男女平等を旨とする。(家事専業)

■女性（50代）

- ・実際に施策を実施していてどういう成果が出ているのかを可視化する。
(会社員・団体職員・公務員)
- ・保育士の給料を上げる。(会社員・団体職員・公務員)
- ・保育の方は充実しているが、介護は充実していない。加計学園にかける財政を介護にまわしてほしい。未来に希望がもてないと、若者は、結婚・出産に躊躇すると思う。
(会社員・団体職員・公務員)

■男性（50代）

- ・男、女という比較自体が差別と考える。(会社員・団体職員・公務員)

■女性（60代）

- ・高校、大学等の入試の可否に関して男女で差別しない。(無職)
- ・家庭科も技術も共に学ぶ。実習の時間を増やす。学校のカリキュラムの中に、保育や介護の実習を組む。(無職)
- ・男女差だけでなく、全ての差別について、全人間的な教育が行われるように。男女間では同じ人数の参加を心がけての議会などとする。(無職)

■男性（60代）

- ・男女関係なく実力の有る人がやる方が良い。平等平等と言う方が差別を感じる。
(自営業（農林業含む）・自由業)
- ・施策と費用対効果が分からない。(無職)
- ・今治市だけでも市会議員の三分の一を女性にする制度かきまりを作る。各種審議会の委員、政策決定の場に三分の一は必ず女性を入れる。(その他)

■女性（70代）

- ・男の仕事時間が長過ぎて帰宅は深夜ではあたり前の生活が出来ない。(家事専業)
- ・学校でのいじめ、家庭での虐待をなくすしくみを作る。孫が学校でいじめにあっていた。先生に言ってもとり合ってもらえなかった。(無職)
- ・主人は25年前に亡くなった。子どもはいない。この用紙の中で何に○を付けて良いのかわからない。(その他)

○回答件数：95 件

■女性（20 代）3 件

- ・昔よりは男女の差が無くなってきているかもしれないが、十分ではないと思う。「男はこうあるべき。女はこうあるべき」という日本ならではの考え方がまだ残っていると思う。
(パート、アルバイト、派遣など)
- ・(問 6-④) 難しい社会を何とかして欲しい。女性も働かなければ家計は回らない。子どもが小さいうちは病気をよくして幼稚園からの呼び出しも多い。2 択しかないのだろうか。学歴があれば良かったのか。(問 9-①) 夫は週 1 日しか休みがない。でも収入も必要。(問 14-②) 出産後も働きたかったが理解が得られず、復職できる空気でなかった。「妊婦になったから夜勤が出来ないの？」など冷たい態度をとられ、居辛くなり退職してしまった。子どもを産んでからの就活は、さらに大変だ。子どもが熱との連絡を受けた時はどうすれば良いのか。もちろん子どもも大事。どこに相談したら良いのか。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・男性がもっと育児に参加できるように、国や市など社会全体が取り組んで欲しい。(家事専業)

■男性（20 代）2 件

- ・個人的な意見として、まず職場環境の見直し・改善が優先されるべきだと思う。その理由は 2 つあり、まず 1 つ目は職場環境を改善する事で、仕事のストレスが減り、家庭間でのすれ違いや DV の被害が減少すると思うからである。ここ今治は造船や鉄工業などハードな仕事が多くあり、職場のストレスはかなりのものである。そのためか家に帰ってもストレスがたまっており、家庭内でのちょっとしたことでそのストレスが爆発し、DV へとつながっている話をよく聞くからである。2 つ目は、女性の産休などについてである。今では、男性の女性の産休についてはあまり厳しい言葉は無いが、女性同士については陰でいろいろ言ったりしているのを聞くことがたまにある。このように女性同士でも産休についての心ない言葉を言われたりしているので、優先は職場環境の改善であると思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・今治から男女差別がなくなるように頑張ってもらいたい。(会社員・団体職員・公務員)

■女性（30 代）6 件

- ・子供に対して、「人種差別」「男女差別」等の事を教えなければ差別は生まれない。知らないままでいいと思う。子供は大人がしている事をマネして育つだけだから。(会社員・団体職員・公務員)
- ・職場の男性の妊娠、出産に対する理解がなさ過ぎる。妊娠をした人を悪者あつかいで、体調も無視して仕事している。(会社員・団体職員・公務員)
- ・世代的に子供の頃、女性は途中まで働き子供を持てば辞めるのが当たり前だったが、自身が社会人になった頃から、女性役員が増えるなど、会社として求められることが増え、頑張っていると、結婚のタイミングを逃し、独身であることで、周囲から意見されることへ矛盾を感じる。いったい頑張ってきた意味はなんだろうとを感じる。少子化となり、人手不足となり、出産するタイミングも、それに協力しようとする相手も見つけきれず、少し混乱する。結婚しなくても子供は育てやすい環境や社会の理解があり、結婚し子供が生まれても、母親なのだからと考えず、個人の自由を尊重していける社会になってほしい。(会社員・団体職員・公務員)

- ・もっと男性が専業主婦の気持ちとかわかってあげるべきだと思う。0 歳児～3 歳児ぐらいの育児と家事をパーフェクトに1週間ぐらいしてみたらいいと思う。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・男性、女性関係なく社会で活躍できるようになることは大切なことだが、そのためには、男性も女性も安心して育休や介護休暇がとれるように、給料体制やその他の環境をととのえてほしい。

(パート、アルバイト、派遣など)

- ・今治の企業では結婚や出産を機に自主退職をすすめる会社が本当に多い。会社規則で産休・育休という制度があっても、実態で利用している人が果たして何人いるのだろうか。一度調べてみてほしい。子育てしながら仕事を続けるためには、柔軟な勤務時間の普及が必要不可欠だ。子どもとの関わりの時間を大切にしながら男女ともに社会、地域でも活躍するのが理想ではないだろうか。今治が日本一子育てしやすい地域になることを願っている。(パート、アルバイト、派遣など)

■男性(30代)5件

- ・現在、制度面等では充実していると思う。また男女共同参画については大多数の人が理解しているとも思う。それでもなおこのような問題が言われるのは、一人一人の意識の差や誇張される報道などに一因があるとも思う。ただ子育てにおいては、母親の存在はやはり絶大だと思うので、幼いころは母親がそばにいてあげることは不可欠だと思う。そのような母親のための政策はもっと議論して充実させていってもよいと思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・僕は女性が職を持つ事はいい事だと思う。僕の家庭は妻と子供三人で生活しているが、僕の考えは「男は働き女は家庭を守る」、そんな古い考えの人間なので、あまりアンケートに答えることができなかったが、僕としては男女ともに働く事はとてもいい事だと思う。男だからすごい、女だからこれは出来ないとかではなく、働く人すべてが平等にあるべきだと思う。今治は造船業が多く女性の活躍する場は少ないが、近年イオンモールができたり色々な場面で女性が活躍する場が増えてきたと思う。男だからすごい女だからすごいとかではない、みな平等に生活ができる今治市になっていったら最高だと思う。今治がよりよい市になるよう心から応援し、願い続けたい。

(会社員・団体職員・公務員)

- ・男女の割合も関係なく、仕事量、給与額等、能力に見合っていないのに無理して平等にする必要はないのでは。うちの会社では男女関係なく能力に見合った給料だ。子供の行事等も関係なく休みもとっている。このアンケートの意図がわからない。内容的に男尊女卑の人か、夫が何もしてくれないっていう人ばかりだと思っているのだろうか。何でも平等になんてできる訳ないと思うが。こんな事をしていたら会社も生活もつぶれるし、子育てできてもそれ以降どうするのかと思う。仕事して帰って育児も対等平等になど、共働きの家庭と専業主婦の家庭も同じに扱うのか。立場がみんなちがうのだから絶対ムリだと思うが。全員お金と使える時間が同じならまだ少しはわかるが。ちなみに妻は専業主婦だ。(会社員・団体職員・公務員)
- ・今でも母子家庭のみ優遇は古いのではないか。「育 MEN」はカッコイイ！を、もっとアピールする。その為には、まず「育 MEN」になってもらわないと。金銭面、男性割引を増やす。大手モール等で、男性限定特価商品を毎月発売。MEN'S 家事グッズ専門ブースを設ける。男の料理レシピを公開。実演。女性割引、LADY'S DAY 等で、女性の居酒屋外食チェーン店利用は確かに増えた。いや今や、女性利用者の方が常連かも。次は生活、家事の男性進出推進に力を入れる地域としてアピールする時代がきている。家のカーテン、家具も男女で決める現代に、料理・家事は女性の仕事だと。この考え方を変える、「家事メン」の方が何かと良い事がある街、今治。そうなってほしい。某モール駐車場ででも、「男性同伴限定イベント」やったらオモシロイかも!!女性社会進出! ←よく聞く。LADY'S 割←いつも何かとやっている。男性家事推進! ←初耳。男性割←見たら教えてほしい。(会社員・団体職員・公務員)

- ・何か犯罪にまきこまれていても訴え方や法律を知っている人が少ないため、私も個人的にも、男女、人として平等になるために、そちらの方を積極的に教育や斡旋をしてほしい。(その他)

■女性(40代) 8件

- ・私の個人的な意見ですので、差別的発言があったら申し訳ない。私は本来、女性は女性の男性は男性の役割があると思っているので、女性の過度な権利の主張により女性優遇を变に感じることがある。男性と女性が協力して子育てや夫婦をやっていくのは当たり前、でも女性は主婦のスペシャリストになれる。もちろん男性でも得意な方はいるが、社会への貢献はそのスペシャリストとしていくだけでも果たせる。私の個人的な経験から子育てをもっと大切にするべきだった。子どもの一瞬一瞬はその時にしかない。それを見逃したり共感してあげられなかったり、悔いが残った。父親もそういう場面はたくさんあると思う。女性が安心して家庭にいれる経済力と保証があり、男性には子育て等に関する休みの取得のしやすさがあればいいのと思う。

(会社員・団体職員・公務員)

- ・色々言われてはいるが、20年前、私が母子家庭になり幼児をかかえ働いていた頃と今では比べものにならないくらいよくなった。20年前は、微熱で保育所から呼び出し、在所中の投薬は不許可。子ども手当もなく、医療費も小学校に入るまでの無料措置もなかった。しかし、母子家庭で子供が男の子の場合、家を貸すことができないと言われたり、子供の病気の場合、欠勤するしかなく、職場が小さければ他所への負担が大きく大変苦労した。今は、あおい小児科などで病児も預かってくれる制度があり、めまぐるしい子育て期間には、今治はいいところとなった。ま、離婚成立するまでに判決が必要な場合、市の保育所に入れず(私立保育20年前、一か月42,000円)、手当もなく、もちろん市営住宅にも申し込めず、どうやって生活しているのかと心配されていた。離婚成立するまでにどのような手助け支援があるか、今一度考えて欲しい。(会社員・団体職員・公務員)
- ・(問8) 男性だからとか女性だから、この形が好ましいとは言い難い。仕事とは家庭とは別々のものではなく、家族が幸せに暮らすために生活費を得るためのものなので、状況によってどちらを優先した方がいいかは変わらと思う。(会社員・団体職員・公務員)
- ・男女共同参画って何?(会社員・団体職員・公務員)
- ・身体の機能の違い、個々の能力の違いなど、あって当たり前。男、女と区別した考えのもとで色々考えても改善されない。個人を尊重し合える社会に少しでもなれば良い。道徳、マナー、モラル、日本人として大切にしてきたものが、社会の変化、多様化に伴い伝承される機会がなくなっている。男も女も将来の不安(年金などの社会保障)を抱え、ギスギスしながら過ごしている人が多い。雇用の場でも、会社に対する義務や縛りは強まる一方、雇われ側の義務や責任は、ほぼ無いに等しい。社会全体が、日本人の資質を変えてしまっている。忍耐強く、勤勉で、精神的に豊かな日本国民を育てられる世の中になりますように。(会社員・団体職員・公務員)
- ・その家庭において、父親が育児・家事・地域活動に参加していたら、子供はその姿を見て育つので、大人になったら父親と同じことをするのが普通だと思ってできると思う。

(パート、アルバイト、派遣など)
- ・こんなことをしても、男女は絶対に永遠に平等にはならない。男女共同参画社会、言葉だけはとても立派だけど、そんなの絶対にムリだと思う。(パート、アルバイト、派遣など)

- ・私は2歳児の子をもつ主婦で、地域の保育所の一時預かりを利用しとしたら、リフレッシュでは月に2回しか利用できないと言われた。リフレッシュと一言でいっても、遊んでいる時間はわずかでである。そうじ、手続き、散髪など、子供と一緒にできないことをする日である。子育て主婦は月に2回しか休むことをゆるされないと言われた気がして、腹が立った。保育所は働く人の子供をあずける所なのだと思った。転勤族の方など、働きたくても働けない状況の人もある。親が近くにいないので、なおさら大変。男女共同参画とは少し違うかもしれないが、子育てしている人の地位がもう少し上がればいいと思う。(家事専業)

■男性（40代）6件

- ・家庭によって様々な働き方があると思う。女性の方が収入が多い場合は男性が積極的に子育て家事を行ってもよいと思う。わたしは介護職だが、職場においては家庭、子供の行事があるからと仕事を投げ出したり仕事量を少なめで調整したりする方を見かけることがある。男女共同参画について男性が優先という理由ばかりではなく少数の女性のふるまいにより、地位の平等が実現できにくい社会になっているような気がする。(会社員・団体職員・公務員)
- ・ウチとしては男女分担でバランスがとれている。妻としては働きたくないらしい。共同参画は望んでいない。(会社員・団体職員・公務員)
- ・育児制度が充実してない為、離職せざるを得ない状況の中、往々にして、企業は出産・育児で離職する女性よりも、男性を優先的に採用する。男性は祝祭日含めて会社での拘束時間が非常に長い。結果、家庭での時間が短くなり家事・育児への参加が難しくなる。その為、女性は勤務時間の短いパートや軽い仕事を選択せざるを得なくなるという悪循環が生まれる。企業の関わりが大きなウェイトを占めると思われる。(会社員・団体職員・公務員)
- ・大手企業は男女共同でみられているようだが、民間企業は男女共同になっておらず労働時間、育児休業、最低賃金などを先に見直すべきだと思う。国や市は大手企業だけみており民間企業まで管理されていないと思う。私は造船所の下請会社に勤めておりますが、労働時間、残業手当、育児休暇、健康診断などありません。もっと中途半端にせず確実な社会にした方がよいと思う。今治市は民間企業がおおいと思うのでこのようなことをしっかりしていたら少子化問題や男女共同問題などの対策になるのではないか。(会社員・団体職員・公務員)
- ・男性蔑視、女性優遇をやめ、男女平等を旨とすること。(家事専業)
- ・男女共良いコミュニケーションが取れてそれぞれにとって良い社会生活が取れたらいいと思う。
(その他)

■女性（50代）12件

- ・市主催の「女性向けセミナー」を企画し、どんどん参加してもらえよう、託児所も設けてはいかがだろうか。子育てが終わった世代の方々に託児スペースでボランティアをしていただくなど、異世代交流の場にもなるのではないか。また、お父さんがお子さんと一緒に参加するといったイベントを催すことで、お父さんが子どもと一緒にどんどん社会に出て行きやすくするといったきっかけになると思う。(会社員・団体職員・公務員)

- ・今治市は、女性議員数の割合が「全国ワースト一位」という新聞記事を以前に何度か見て驚いた。他県からの転入者としては、まだまだ男尊女卑の意識が残っているのだなあ、という印象を受けた。実際に、仕事や、学校のPTA役員などの場面においても、そういう特徴が感じられることも多々あった。市での重要な事柄の多くが、男性によって決定されているという時代錯誤なこの状況を脱するには、とにかく女性議員など、決定の権限を持つ女性を一人でも増やすことが必要など考える。女性が立候補（又は推薦）し易い環境を整え、女性枠を増やす、など思いきった優遇措置をしないと実現は難しいのだが。「男女共同参画の実現」には、まず市民一人一人の意識を改革すること。それには、教育しかないと思う。未来の日本社会を担う、子供に、学校教育の一環としてしっかりと取り入れるのはどうだろうか。年配者はじめ、私たち世代（50代）は、根強く植えつけられている「男女差」意識がどうしても残っており、変えるのは困難だろうが…。子供たちには、片寄った考えではなく、スマートな知的な進んだ品位ある社会に身を置いてほしいと願う。

（会社員・団体職員・公務員）

- ・企業主の意識改革が必要だと思う。様々な制度があっても利用できない（利用しにくい）では意味がない。就業規則に書かれていても従業員は知らない。それどころか就業規則の整備されていない企業もある。男女共同参画社会実現のために、働き方改革は大事なことだと思う。

（会社員・団体職員・公務員）

- ・お金と時間が同じでなければ男女は同じにならないと思う。会社での男女差別はいまだに大きい。今治では大きい会社だと思うが女の役員上司は1人もいない。（会社員・団体職員・公務員）
- ・子供の頃からの教育が大切だと思う。私達の年代の教育が今につながっているのだから、これからの子供達には、学校で正しい意味の平等を教えて欲しいと思う。（会社員・団体職員・公務員）
- ・今治市において男女共同参画社会の実現に向けて様々な努力・企画を立ててくださり感謝している。市民ひとりひとりがより良く個性を生かして性別年齢等をこえ、支えあって暮らしていけるよう今後も活動していただけたらと思う。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・男女共同参画社会を知らなかったのが急にアンケートを送付されて困った。無作為ではなく会社とかで調査すればよい。統計調査は色々問題があったので送付されて迷惑。

（パート、アルバイト、派遣など）

- ・男女共同まだまだ無理だと思う。私が子育てしている時とあまり変わってないと思う。

（パート、アルバイト、派遣など）

- ・男女共同参画社会の実現に向けての施策の取り組みが、少しずつでも確実なものになっていけばいいと思う。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・男性に助けてもらいたい。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・「男女共同参画」を目指し、添付記事の様な経験を経て、さあこれから…、気がつくとな年を取り仕事もなく、疲れ果てていた。この理想をある程度実現できるのは、給与・地位、共に男性と全く同等の資格、技術のある職、自営業や農業ならば女性も男性も子供も老人も何とかやれるかなと思う。女、子供を今の社会に合わせようとするから無理があり、何十年たった今も同じところをグルグルまわっていて少子化云々となった様な気がする。ならば、企業が、学校が、行政が、家庭生活に合わせれば良いのでは…。子供の教育費は、大学も含めて一切不要、幼、小、学年にかかわらず全員同時刻に集団登下校、それに合わせて男女共に在宅ワークに切替え、若しくはフレックス制で24時間勤務可能とし、夫婦でやりくりする。介護についても同様で…etc. 皆様の知識お知恵でもって私の理想とする、自営業や農業「おかみさん」のような、仕事も家庭も、変なストレスなくバリバリこなす、ハツラツとした女性が増えるよう願っている。（家事専業）
- ・問2、一般的に男性が職業を持つことについて、あなたは云々は無いと思う。こういう所だと思う。すでに「男は働くのがあたりまえ」反対が「女は家にいるのがあたりまえ」が見え見えだ。

（無職）

■男性（50代）10件

- ・勤めている会社が週休二日有休など取らない状態で育休介護休業社会参加活動など考えられない。そんな中小企業が多いと思う。そこから変えていかなければ難しいと思う。

（会社員・団体職員・公務員）

- ・最近はずっと女性優遇ばかりが目立つ。女性だけ、男性だけではなく、自然と男女の区別なく全ての社会生活ができるのが良い。特に議員等は男性比率が非常に高いので、法律で最低40%以上とか具体的に決めてしまうのも面白い。（会社員・団体職員・公務員）
- ・社会全体で人権教育を徹底したら解決に向かっていくのではないかと。男女差別、いじめ、虐待など社会のさまざまな問題は、人権意識の低さから人の気持ちを思いやれないことが原因だと思われるので。国会、地方議会など要職にある人、マスコミなど、先頭を切って人権意識の高さを感じさせる発信をしてほしいと思う。（会社員・団体職員・公務員）
- ・何年か前からいろいろな調査があり協力してきたが、何のメリットもない。回答に協力した人に何らかのメリットがあるようにしたらもっと協力してくれる人が増え、マシな調査ができると思う。ちゃんと回答しても、国会で問題になっている様なデータいじりである方面に都合の良いデータにされるのではないかと心配している。（会社員・団体職員・公務員）
- ・男女平等ということだが根本的に体のしくみ体力面などの違いがあるのだから平面的な平等ではない所を目指さなければ意味がないような気がする。職種などによる男女の差は歴然、なにをもって平等とするのかが今後の問題かなと思う。今のすべての職、すべての事柄において平等とはよべないと思うのだが。（会社員・団体職員・公務員）
- ・男性が主に収入をまかない、女性は、自分に適した仕事（ストレスのないパート）を行い、（自分に自信がある人は、職場で昇進を目指して努力を行い）少し矛盾があるかもしれませんが、その人なりに仕事をしていけば良いと思う。男としては、妻は自宅で家事、子育てをしてもらいたいが、以前（昔）と違い、男性だけの収入では生活、教育費等、考えると難しい現実があると思う。女性で、社会進出を自ら求める人は、自分の思いがかなう様、会社がそれなりの対応ができる様、昇進、待遇を整えられる様、国が対応していけば良いと思う。一企業だけでは大企業だけでないと対応できないと思う。（会社員・団体職員・公務員）
- ・税金の取りすぎ。若い者の力だけでは食べていけない。まじめに働いている低所得の人の生活を守る。生活保護の仕組みの考え直し。調査のしかた。悪いことをする人が得をする世の中。真面目に生活しているものが泣いて、あきらめをしなければならない。ブラックリスト者がうまく利用して金もうけをしている。国会の話し合いを見ていると腹が立つ。子どもどうしの喧嘩みたいだ。金持ち優遇制度が多すぎる。根本的に貧乏人の気持ちをわかっていない。市、国も年金ひとつ取り上げても言える。金のない者は月々しか払えないのに金を持っているものは3か月6か月1年分納めると安くなる。この現実。色んなことを徹底して調べる事。市役所に対しても腹立つ事ばかり。本音でいうが、世の中がおかしい。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・経済的にも時間にも生活の余裕があれば男女平等にも考える事も出来るだろうが、生活する事に精一杯の状態では無理だと思う。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・日本バンザイ!!（無職）
- ・身体的等完全に平等とはいかないかも知れないが、基本的に、男女とも平等であるべきだと思う。まだまだ不平等な事も数多くあるのが現実だが、少しずつでも直していく必要があると思う。先日、今治市役所にある事で相談に行ったとき、正職員と思われる人が対応したが、上から目線のえらそうな態度で非常に不愉快な思いをした。去年もそういう態度の職員がいた。一部のそういう職員がいる事で全体が悪い印象になる。市民の手本になるよう、また、市民の奉仕者であることを自覚して欲しい。職員の教育から徹底してほしい。（無職）

■女性（60代）15件

- ・P8の問13について それぞれの連絡先（電話番号）がわかる書物がほしい。すぐわかるように見やすい所、場所とか。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・私達古い人間にはむずかしい事だと思う。女がするものだという概念があり、若い人が助け合っているのを見ると、いいなと思う。お互い当り前じゃなく尊敬しあうのが理想かなと思う。今一人で何もかもしているの、手伝ってもらえるとありがたいと思う。余談だが、一人になって（老人はいますが）わかった事だが、感謝って大事だなと思った。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・子育て支援、保育所、学童保育等の充実。事業所等も働きやすくなる環境づくり。地域でも、交流の場があり、世代を超えてのふれあいが望ましい。家庭でも家事分担、協力的になる様、理解し合う。次世代は仕事、母親、父親も大変な時代と思う。高齢者も社会活動に参加し、生きがいのある生活を続けたい。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・個人によって得意とする分野に違っていると思うので一概に仕事育児介護の分担をどうするかはそれぞれの家庭でコミュニケーションをよく取り女性にだけ偏らない様にすることは必要であると思う。公務員であっても妊娠出産産休と複数回取ると同期の男性やとらない女性との差はあると思う。（しかたない面もあるけど。）少子化の一因にもなると思うので、社会全体として考える必要があると思う。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・私の若い時の子育ての経験でまるを入れた。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・国民健康保険税、介護保険税の高いのがつらい。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・何を意見で言ってもダメだと思う。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・家庭生活、職場、地域と個人の生活の3つのシチュエーションに於いて考えていく必要があると思う。そして、各々の男女共同参画の機会、質の向上を長期的かつ継続的に行いながら相乗効果も生み出していくことにも価値があると思う。人口減少や労働力人口の低下、地域社会の高齢化（高齢化）という問題を解決していくうえでも、一人ひとりが意識を変え、また、お互いに啓発刺激していくことが大切だと思う。お互いの特性（男らしさ、女らしさ）を尊重しつつ、短所を補い（たとえば体力面）、活性化された毎日を送ることが次世代への良き手本となると思う。
(パート、アルバイト、派遣など)
- ・女性が社会に進出していく事は大いに賛成だ。しかし、子供が小さい間は親の愛情をいっぱい受けて育ててほしいと思う。寂しい思いをしている子供がたくさんいる。育児休業、その間の生活の援助をいかにするかを一番に考えてほしい。生活の為、休暇も取れず子育てもままならない人も多いのではないかな。（家事専業）
- ・今治市の職員で、女性の部長や副市長が活躍することを期待している。（家事専業）
- ・今までの家事・子育ては女性の仕事という考え方が、今の若い人達にもまだ残っていて、共働きの女性の負担が大きい。男性が手伝うという考え方ではなく共にする。そういう姿勢が必要だと思う。（家事専業）
- ・私は女性で、男性ももっと家事を担当すべきと思い、経済面で対等でありたいと思ってきた。その思いに変わりはないが、それは男性ばかりを批難したり教育したりするだけでなく、女性への教育等ももっと必要だと思っている。先日のフォーラムのコウケンテツさんのお話の中でもあったが、日本の女性の就学率は世界の中でもトップクラスなのに、政治への参加は少ない等の状況もある。以前は参加したくてもできなかった、難しかったと言えと思うが、環境が変化してきていても、逆に女性が男性に押しついたり、甘えてしまう傾向はまだ強いと思う。幼少時からの教育に期待したいし、年老いた私自身も男性に甘えすぎないように自戒していきたいと思う。（無職）

- ・地区の集会などほぼ男性のみになっていますし、もし女性が居たとしてもお茶くみなどの昔からの習わしが当たり前として通っている。そういう事に疑問を持たない又、思って意見を言えば異質と見られる。世間の考えは、公の場（政治関係）から対等に（数的にも）同じにし、指導も必然的にしないと意味がなく、男女平等になど絶対にならないと思う。せめて今治市議会から、男女半々となる様な企画を望む。（無職）
- ・40代半ばで初期の乳がんで入院・手術をし、職場で辛い思いをした。1ヶ月ほどで職場復帰したら、すでに1人パートの人を入れ、「1週間に〇〇時間」に決められた。正社員からパートにさせられ、年金は国民年金、保険は国民健康保険、当然ボーナスもなし。それでも仕事を辞めたくないの我慢したが、10年以上勤めてあっさりリストラされた。女性が安心して勤めることができる会社が増えることを願っている。（無職）
- ・このようなアンケートをとること自体が、男女共同参画が出来ていないからだろう。上から目線の指導など要らない。行政は、人にやさしく、弱い人を助ける、公務員の姿勢をまっとうすればよい。議員の手先になるような、そんな行動を慎んでほしい。公務員は尊敬されていると思っているのか。失礼ながら、ほとんどの方はそうではないだろう。「スーパーボランティア」、「ボランティア」と言われる方々がいるということは、公務員の力が発揮されていないからだ気づいてほしい。力尽くして全員責任感強く仕事してほしい。それを見て、市民は納得して税金を払うだろう。（無職）

■男性（60代）8件

- ・育児休業後、知識や技能をもってる人などをスムーズに職場に戻れるようにしてあげてほしい。（会社員・団体職員・公務員）
- ・子供たちの子育てを見ていると、出産後教員のように3年育休が取れることが当たり前のようにすべての女性が取得できれば出産しやすくなると思う。女性が働くことをよしとするならば、まず子育てしやすくないと。全ての人が祖父母が近くにいて助けてくれる人ばかりではない。祖父母ですら働かなくては生活できない人がほとんどの中で、休みやすい職場でないとまず女性は子供が欲しくても産める状態ではない。（会社員・団体職員・公務員）
- ・今回の調査結果を、テレビ放送などで、具体的に表現し見える化をしてほしい。地域の方々と話題になる様、結果報告をお願いしたい。（自営業（農林業含む）・自由業）
- ・市の男女共同参画に関するアンケートに関して、市が求めている姿は、人間育成ではないかと感じた。経費がかかるのはしないほうがよい。経費は有効に使用すべきと思う。また、市民一人ひとりの時間を束縛するのも好ましくない。講演会などは、経費もかかるし、なかなか人の都合がつかない。また一度だけでは、覚えられないし、記憶に残らないし、効果がないと思う。よって、模範となる講習資料（動画・テキストなど）を作成、そしてこれを市のホームページに公開する。同時に、DVDにまとめて、市の図書館で貸し出す。中央図書館でときどき視聴会行う。これで、ほとんど全ての人に行渡ると考えられる。後は、何らかの手段（広報いまばり等）を利用して、広く市民に紹介することだと思う。このようにすれば、心ある人は、公開された資料を閲覧、ダウンロード、DVD貸し出し等で、自分で見る、子供に見せる、家族に見せる、知人・友人に見せる等することにより、個人の知識・教養を深めることができ、住民一人ひとりの人格の成長が見込まれると思う。壮年期、老年期を迎える人（出来上がった人）の意識改革は難しいと思うが、「鉄は熱いうちに打て」という諺のとおり、少年・青年期の時期に人格形成の機会を与えるのは、適切と考える。日本人は、頭が良くて、創造力があり優秀な国民といわれるが、ただ残念なのは、英数国理社ができる子を褒め称え、人文学・人間学に長けた人は、水面下にいる。あくまでも、私案でありアイデアなので、参考にしてもらえればうれしい。（パート、アルバイト、派遣など）
- ・「今治市男女共同参画」がイメージできない。（無職）
- ・男、女と区別するのがまちがいか？（無職）

- ・私も年金生活になり妻が働いているもので家事を手伝うようになり、女性の大変さが分かるようになった。これからは進んで家事も協力したいと思う。おそまきながら男女平等にこれからはつとめたいと思う。(無職)
- ・女性々と言いきる所がある様な気がする。(その他)

■女性(70代) 13件

- ・年配者の健康促進の充実。公園で軽いストレッチが出来る様、整備して欲しいと思う。軽いスポーツで団体活動の様な事も考えて欲しいと思う。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・私、本人としては興味なし。息子夫婦、結婚した時に、子供ができたなら別れないで、子供が生まれた時家族養う力あるから子供を学校保育所へ送り出し帰って来る頃家で迎える事をお願いした。仕事はドック関係と看護師さん、パート契約かもしれない収入は正職員より少ないと聞く。子供3人育て保育所でよく病気もらってよく休んでいた。子供が中学生になり変動勤務もしている。私は孫育ての自信もなく、身近に嫁さん朝早く仕事でおばあさんが子供を送り出して子供が登校しなくなったのを2件聞いた。仕事も大変だが家庭あつての仕事である。意欲ある人は進んでもらいたいのが政治でどうこうはどうかと思う。(パート、アルバイト、派遣など)
- ・十人十色、人生いろいろ、多様性、個人。1人1人の違いがあつてこそ楽しい毎日となる。人に合わせて生きるのはストレスそのもの。仕事、責任、義務を果たした上で趣味・ボランティア等、人を生かす為のステーションの充実を願う。(家事専業)
- ・この問題を手掛けるのは遅すぎる。やるからには迅速に全力をあげて進めてください。
(家事専業)
- ・現代はやさしい男性が多くて、指導しなくても、仕事から帰宅後、自然と自分から進んで家事や育児に参加している男性を多く見かける。たとえ指導したとしても、やる気のない人は参加しないと思われますので気にする必要はないと思う。仕事時間を短縮したり、休日を増やせば、一般企業の方やその他の仕事関係で休めない方もおられますし、また、休むことにより生活が苦しくなる方たちもいる。これ以上、時間短縮したり、休日を増やしたりしないで欲しい。公務員中心の考え方は、やめて欲しい。(家事専業)
- ・年齢が高いので今の事はよくわかりませんが、いつの時も子育ては大変だと思う。私の場合は生活のために共働きで、負担が大きくて体を壊してしまい子供を産むことができなかった。育てていく自信も支援もない時代だった。今思うと申し訳ない気持ちだが、まず第一にお母さんが元気であることが家庭でも地域でも大事だと思う。働く事や地域の参加(画)もすすんでした方が良いが、何よりも家庭を守り子供を育てていく母親の健康を守って、未来の今治を支えていってくれる人が育ってほしいと思う。結婚は早い方が良いと思うので若い人のサポートや育てを年長者はしていくべきではないかと思う。健康あつての男女共同参画で表面的なことで終わらずしっかりした礎の元にすすんでもらいたい。(無職)
- ・高齢になって女性の地域参加は多いが男性も気楽に出かけれる社会の場があつても良いのでは？あつても男性は参加しない人が多いが、もう少し男性の意識を変える勉強会が欲しい。なかなかそれさえも参加するのを嫌う人が多い。何か気安く気軽にかけれる方法はないものか？(無職)
- ・(問5)介護もほとんど自分一人ですしてきたので協力があれば助かると思う。ダウンして二人で入院した。(問10介護休業)夫の介護に疲れ果てていた。少しは家族が協力してくれるとありがたい。(無職)
- ・夫92歳、書いた私90歳、長男70歳で知的障害とてんかん病を合わせ持ち今治宮ヶ崎の老人ホームかのこでお世話になっている現在だが、先のことが案じられる。(無職)
- ・江戸時代から長男優先で社会も家庭も育ててきた。女性が今ほど社会に出て働くようになったのは、ここ30年ほどだ。男性の意識を変えていくのは家庭だと思うし、道のりは遠い。(無職)

- ・いつも男女共同参画のお話しには参加させて頂いている。74歳の私には男女共同にはまだまだ遠く感じていますが、少しずつ間を縮めようと私なりに見つめている。例えば、ゴミ出しをわざと気づかないふり。出せば良い様には準備はしている。自分の着用する服等も自分で出来る様に47歳の息子を見ていると子育て、学校への協力、有休を上手に使うって家庭を楽しんでいる。主人の協力はほとんどなくて、一人てんてこ舞いで頑張っていた自分。楽しく明るい家庭を作っている息子に拍手して笑顔を送っている。(その他)
- ・非正規雇用制は、改めるべき。男女共気持にゆとりある生活基準でくらししていける社会なればと思う。(その他)
- ・いなかに住んでいるので、お互いにできる事をし助け合って生活をしてきた。主人が良く気が付く人なので、協力して子育ても介護もしてきた。今は荒れた土地をきれいにし、桜や梅を植え、力を合わせて地域を守っていこうと思う。相手の事を思う心が大事だと思う。(その他)

■男性（70代）5件

- ・経験豊かな相談員が必要と考える。職業、収入、性格、教育歴、年齢などの条件が違えば当然考え方も変わる。同じ人でも年を取ると考え方が変わっていく。ぜひ、集計結果が見たい。
(自営業（農林業含む）・自由業)
- ・性教育により男女のちがいをお互いに理解しあい共に助けあうようしてはどうか。(その他)
- ・男女とも生まれた持ったものを大切にしたい。男らしさ、女らしさを持って行動したい。性別がある限り日本人らしくしたい。(無職)
- ・別にありません。(無職)
- ・男女共同参画社会基本法第2条に「男女が、社会の対等な構成員として…もって男女が均等に政治的・経済的及び文化的利益を享受することができ、かつ共に責任を担うべき社会」と法制化されている。この文面から見ると、女性の市政への参加を要請している。現在、今治市の女性議員数は2人。(男性30名)。いかに少ないか。これでは、現実問題として、直接女性が市政に関わることは難しいと思う。まずは、条例で議員数を男女均等(16:16)にすること。それによって女性の柔軟な意見・問題提起がでてきて硬直化した市政に変化が出ると思う。この一点につける。それと議員在職期間もこの際12年(3期)で終了にしたらいと思う。慣れあい、癒着など、財政健全化のためにもいいと思う。社会の変化に遅れないようにするために必要だと思う。(無職)

■性別及び年齢不明2件

- ・小学校の行事など、そもそも専業主婦(夫)を想定しているので、まず社会の基盤を整えてほしいです。
- ・子育て中に女性が仕事を持つには、周りの支えや男の人の考え方(家事は女性がするもの)をかえる必要があると思う。まだまだ女性が家事育児をメインにしている世の中なので、もっと社会全体のしくみや考え方を変えるべきだと思います。

調査票

今治市男女共同参画に関する市民意識調査のお願い

日ごろは、市政に対して格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

今治市では、男女共同参画社会の基本理念であります「男女が平等で、互いに人権を尊重しながら、家庭や地域、職場などあらゆる分野で支えあう、男女共同参画社会の実現」に向け、取り組んでいます。

このたび、20歳以上の市民の方の中から、無作為に抽出した2,000人を対象として、「今治市男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することとなりました。

この調査は、皆さんの日常生活における男女共同参画に対するお考えをお尋ねし、今後の今治市における計画の策定や施策を充実させていくための基礎資料とするものです。

この調査でお聞きしたことは、すべて統計的に処理し、上記の目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年2月 今治市長

◆ご記入にあたってのお願い◆

- あなた自身のお気持ちをありのままご記入ください（記入はご家族の代筆でもかまいません）。
- ご記入の際は、ボールペンまたは鉛筆などで、はっきりお書きください。
- 質問ごとの指示に従って、あてはまるものの番号を○で囲んでください。「その他」を選ばれた場合は、（ ）の中にできるだけ具体的にご記入ください。

◆調査票の回収について◆

- ご記入いただいた調査票は、**平成31年3月15日（金）**までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、ポストに投函してください。

《調査に関するお問い合わせ先》

今治市総務部人権啓発課

〒794-8511 今治市別宮町一丁目4番地1

T E L 0898-36-1521 F A X 0898-32-5211

E-mail jinken@imabari-city.jp

I 男女の地位に関する意識について

問1 あなたは、次のような面で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)～(8)について、あなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

	男性が優遇 されている	どちらかとい えば男性 が優遇され ている	平等になっ ている	どちらかとい えば女性 が優遇され ている	女性が優遇 されている	わからない
(1)家庭の中で	1	2	3	4	5	6
(2)職場の中で	1	2	3	4	5	6
(3)地域の中で	1	2	3	4	5	6
(4)しきたりや慣習 で	1	2	3	4	5	6
(5)法律や制度の上 で	1	2	3	4	5	6
(6)政治の場で	1	2	3	4	5	6
(7)教育の場で	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体として	1	2	3	4	5	6

問2 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他（具体的に)
- 7 わからない

Ⅱ 生活の実態について

問3 あなたのご家庭では、次にあげる家事などを主にだれが分担していますか。(1)～(12)について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

	夫	妻	夫婦同程度	その他の 家族	その他 (単身者等)	該当なし
(1)食事のしたく	1	2	3	4	5	6
(2)食事の配膳、 後片付け	1	2	3	4	5	6
(3)日常の買い物	1	2	3	4	5	6
(4)掃除	1	2	3	4	5	6
(5)洗濯	1	2	3	4	5	6
(6)ごみ出し	1	2	3	4	5	6
(7)役所や銀行など への用事	1	2	3	4	5	6
(8)高齢者や病人の 世話	1	2	3	4	5	6
(9)町内会や自治会 への出席	1	2	3	4	5	6
(10)乳幼児の世話・ 子どものしつけ	1	2	3	4	5	6
(11)保育園・幼稚園 への送迎	1	2	3	4	5	6
(12)学校行事への 参加	1	2	3	4	5	6

Ⅲ 結婚・家庭について

問4 結婚・家庭に関する次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。(1)～(9)について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い
(1)結婚は個人の自由である と思う	1	2	3	4	5	6
(2)精神的にも経済的にも安 定するから結婚したほう がよいと思う	1	2	3	4	5	6
(3)結婚しても、うまくいか なければ、離婚してもか まわないと思う	1	2	3	4	5	6
(4)結婚しても、子どもを持 つことにこだわらなくて よいと思う	1	2	3	4	5	6
(5)結婚したら自分自身のこ とより、配偶者や子ども など家族のことを中心に 考えて生活したほうがよ いと思う	1	2	3	4	5	6
(6)子どもは、個性を重視し て育てたほうがよいと思 う	1	2	3	4	5	6
(7)女の子は女の子らしく、 男の子は男の子らしく育 てたほうがよいと思う	1	2	3	4	5	6
(8)女性も男性も同じ程度の 学歴を持つほうがよいと 思う	1	2	3	4	5	6
(9)男性も家事や子育てなど、 家庭の責任をともに担う ほうがよいと思う	1	2	3	4	5	6

Ⅳ 生活と社会活動について

問5 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から5つ以内を選んで○をつけてください。

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族の間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その社会的評価を高めること
- 6 男性による家事、子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解をすすめること
- 7 労働時間短縮や休暇制度を普及・活用することで、仕事以外の時間をより多く持つようにすること
- 8 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 9 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 10 男性が家事、子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること
- 11 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 12 その他（具体的に _____）
- 13 特に必要なことはない

問6 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」※の優先度について、あなたの希望に最も近いものを、次の中から1つ選んで○をつけてください。

※「地域・個人の生活」とは、地域・社会活動（ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなどをいいます。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭生活」を優先したい
- 3 「地域・個人の生活」を優先したい
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしたい
- 8 その他（具体的に

問7 次に、あなたの現実（現状）に最も近いものを、次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「家庭生活」を優先している
- 3 「地域・個人の生活」を優先している
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている
- 8 その他（具体的に

V 仕事と家庭について

問8 男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方は、どのような形が好ましいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

男性の関わり方

- 1 仕事を最優先する
- 2 どちらかといえば仕事を優先する
- 3 仕事と家庭に同程度かわる
- 4 どちらかといえば家庭を優先する
- 5 家庭を最優先する

女性の関わり方

- 1 仕事を最優先する
- 2 どちらかといえば仕事を優先する
- 3 仕事と家庭に同程度かわる
- 4 どちらかといえば家庭を優先する
- 5 家庭を最優先する

問9 男女がともに仕事と家庭の両立を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から5つ以内を選んで○をつけてください。

- 1 週休2日制や労働時間の短縮をすすめること
- 2 昇進、昇給、仕事内容など、労働条件での男女格差をなくすこと
- 3 育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること
- 4 結婚・出産・子育て・介護などによる退職後の再雇用制度の普及
- 5 育児休業・介護休業中の給付金の充実
- 6 短時間勤務、在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度の普及
- 7 女性が働くことや、男性が家事・子育てなどをするに対する、家族や周囲の理解と協力
- 8 保育サービスや介護サービスなどの充実
- 9 その他（具体的に _____）
- 10 特に必要なことはない

Ⅵ 育児休業・介護休業について

問10 家庭で育児・介護が必要なとき、ともに勤めのある夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

育児休業

- 1 夫が取る方がよい
- 2 どちらかといえば夫が取る方がよい
- 3 夫も妻も同程度に取るのがよい
- 4 どちらかといえば妻が取る方がよい
- 5 妻が取る方がよい
- 6 その他（具体的に _____）

介護休業

- 1 夫が取る方がよい
- 2 どちらかといえば夫が取る方がよい
- 3 夫も妻も同程度に取るのがよい
- 4 どちらかといえば妻が取る方がよい
- 5 妻が取る方がよい
- 6 その他（具体的に _____）

Ⅶ ドメスティック・バイオレンス（DV）について

問11 配偶者や恋人など*からの暴力について、あなた自身の経験を伺います。（１）～（７）について、それぞれ１つずつ選んで○をつけてください。

※婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者や元恋人も含みます。

	何度もあった	一、二度あった	まったくない	配偶者や恋人はいない
(1)命の危険を感じるくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた	1	2	3	4
(2)医師の治療を必要とするくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた	1	2	3	4
(3)医師の治療を必要としないくらいの身体的暴力（なぐる、けるなど）を受けた	1	2	3	4
(4)精神的暴力（おどす、無視する、人格を否定する言葉を言うなど）を受けた	1	2	3	4
(5)性的暴力（性行為や中絶を強要する、ポルノ雑誌などを無理に見せる、避妊に協力しないなど）を受けた	1	2	3	4
(6)経済的暴力（生活費を渡さない、働くことを妨害するなど）を受けた	1	2	3	4
(7)社会的暴力（交友関係や行動を監視するなど）を受けた	1	2	3	4

問12 （問11で「何度もあった」または「一、二度あった」とお答えの方に伺います。）

配偶者や恋人などから受けた行為について、だれかに相談しましたか。あてはまるものに○をつけてください。

- 1 相談機関や窓口、警察等に相談した
- 2 家族や友人に相談した
- 3 職場や学校で相談した
- 4 その他の機関（人）に相談した
- 5 どこ（だれ）にも相談しなかった
- 6 その他（具体的に

）

問13 配偶者や恋人などからの暴力の被害に対して、相談機関や窓口が設けられています。
次の中からご存知のものすべてに○をつけてください。

- 1 今治市の婦人相談員
- 2 愛媛県婦人相談所（配偶者暴力相談支援センター）
- 3 愛媛県男女共同参画センター（配偶者暴力相談支援センター）
- 4 警察
- 5 弁護士・弁護士会
- 6 法務局・人権擁護委員
- 7 民生児童委員
- 8 その他（具体的に
- 9 どれも知らない

VIII セクシュアル・ハラスメント※について

※セクシュアル・ハラスメントの例としては、身体への不必要な接触やしつこい誘い、視線を浴びせる行為、身体的な特徴を話題にすることや性的な発言をすることなどがあります。

問14 あなた自身がセクシュアル・ハラスメントの被害にあったことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 学校で被害にあったことがある
- 2 職場で被害にあったことがある
- 3 地域の中で被害にあったことがある
- 4 被害にあったことはない
- 5 その他（具体的に

問15 （問14で「被害にあったことがある」とお答えの方に伺います。）

セクシュアル・ハラスメントの被害について、どのような対応をしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 相手に直接抗議した
- 2 職場や学校の苦情処理機関や上司・教師に訴えた
- 3 相談機関や窓口、警察等に相談した
- 4 家族や友人に相談した
- 5 弁護士に相談したり、裁判所に訴えたりした
- 6 その他の機関（人）に相談した
- 7 どこ（だれ）にも相談しなかった
- 8 その他（具体的に

IX 今治市における男女共同参画社会の実現に向けて

問16 今治市は、男女共同参画社会の実現をめざし、様々な施策を実施しています。今後、特にどのようなことに取り組んでいくことが必要だと思いますか。次の中から5つ以内を選んで○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 市役所の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する2 企業主など雇う側が女性差別をしないように働きかけをする3 育児のため職場を離れても同じ職場へ復帰できるよう、雇用面の対策を考える4 女性のための職業教育や訓練の場をつくる5 子育て支援の施策を充実させる6 在宅老人対策の充実を図るなど、社会参加しやすいようにする7 男女共同参画の視点に立った教育や学習をすすめる8 女性のための相談を充実させる9 男性への意識啓発や相談を充実させる10 女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する11 その他（具体的に | ） |
|---|---|

あなた自身のことについておたずねします（あてはまる番号に○をつけてください）

問1 あなたの性別は

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 あなたの年齢は（平成31年1月1日現在）

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 20歳～29歳 | 2 30歳～39歳 |
| 3 40歳～49歳 | 4 50歳～59歳 |
| 5 60歳～69歳 | 6 70歳以上 |

問3 あなたの職業は

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 会社員・団体職員・公務員 | 2 自営業（農林業を含む）・自由業 |
| 3 学生 | 4 パート、アルバイト、派遣など |
| 5 家事専業 | 6 無職 |
| 7 その他（具体的に | ） |

問4 あなたは結婚されていますか。

- | | | |
|-------------|----------------|-------------|
| 1 既婚（事実婚含む） | 2 離別、死別 →（問6へ） | 3 未婚 →（問6へ） |
|-------------|----------------|-------------|

問5 （問4で「1 既婚（事実婚を含む）」とお答えの方に伺います。）

現在、あなたの配偶者・パートナーは働いていますか。

- | | |
|---------|----------|
| 1 働いている | 2 働いていない |
|---------|----------|

問6 あなたの世帯状況はどれですか。

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 単身世帯（一人暮らし） | 2 一世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ） |
| 3 二世帯世帯（親と子） | 4 三世帯世帯（親と子と孫など） |
| 5 その他（具体的に | ） |

■最後に、男女共同参画についてのご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

お忙しい中、本調査にご協力いただきましてありがとうございました。この調査の結果は、今後今治市の男女共同参画を推進する基礎資料として有効に活用させていただきます。